

昭和9年(1934年)設立

公益社団法人 昭和経済会

# 昭和経済

Manager Association of Japan

[時局論壇] 銀行融資増、効果は不確か

次の「3本の矢」

ウクライナ緊迫

国際的人材育成 M&Aを考える

80周年記念

第65巻5号

26年4・5月号

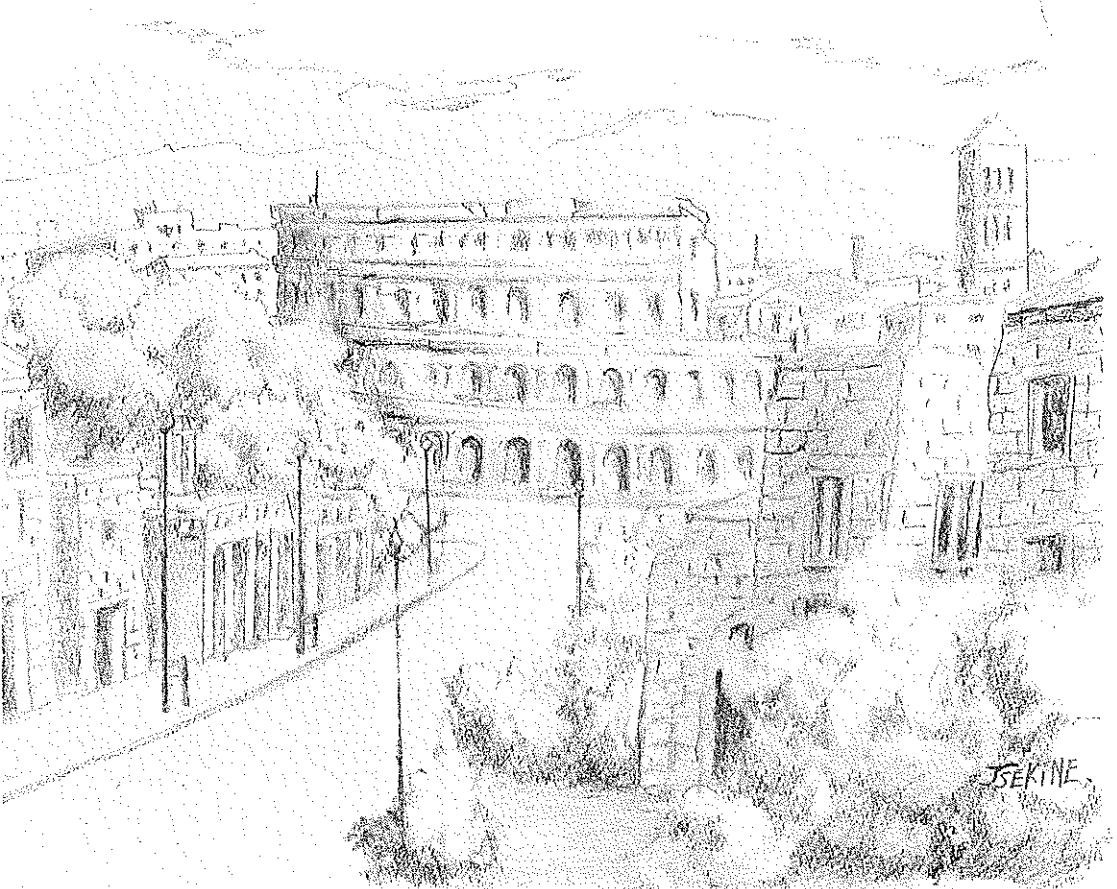
国会図書館永久保存書

大村 敬一

御厨 貴

山内 昌之

伊藤 邦雄



コロッセオ風景（羅馬）

人間社会は今日まで幾多の歴史的試練を経て、その存続を得てきました。

その間、私達は経済社会の生活の中で、自然科学への洞察は驚きを以て、文化科学への触発は閃きを以て発展に寄与してきました。科学技術の進歩と開発は人間の英知を以てこれに臨み、文化科学の啓発と振興は人間の情操を以て、限りなく高めてゆかねばなりません。

歴史のいかなる発展過程においても、常に人間の尊厳をうたいあげ、自由と平和が約束される豊かな人間社会の存続が、私達の目的であり実践であります。

昭和経済会は、伝統を重んじ、時代の変化に機敏に対処しつつ、この普遍的な理念のもとに、日常の企業経営と経済活動を通して、さらに公私経済の発展と推進に役立つ啓発、協力、親睦の団体として、その使命を果たしてまいります。

公益社団法人  
昭和経済会

## 公益社団法人 昭和経済会の案内

(元財務省大臣官房所管)

### 創立と趣旨

会員制の企業家、経営者団体で我が国の「公私経済の発展助長と会員相互の連絡並びに親睦を図る」目的で、一九三四年(昭和九年)五月十五日創立され昭和十四年、大蔵省から社団法人の許可を受けました。

### 主な活動

- ① 会員相互の啓発、親睦、協力
- ② 内外の経済、政治、文化、学術の定期講演会
- ③ 政府、関係省庁への要望と提言
- ④ 専門委員の法律、税務、経営相談
- ⑤ 海外派遣留学生奨学基金の活用
- ⑥ 月刊「昭和経済」の発行

四月・五月号・目次

四月·五月号·目次

卷頭言	佐々木誠吾(2)
尖閣と米国	大島 隆(68)

## 銀行融資増、効果は不確か

大村 敬一  
：(43)

講演記錄

## 世界経済の潮流と日本経済の方向

熊谷英生  
73)

### 次の「3本の矢」

御厨  
貴  
:(48)

· 堀江忠男 · (93)

ウクライナ緊迫

山内 昌之 (53)

アメリカ更

卷之三

## 国際的人材育成の機会

M&Aを考える

伊藤  
邦雄  
：  
(58)

昭經伊壠

卷之三

南スードンPKO

## 自衛隊の活動

北岡  
伸一  
：  
(63)

特別贊助會員

## 卷頭言

佐々木誠吾

### オバマ大統領の来日

国賓としてオバマ大統領が二十三日の夕方

羽田に降り立つた。夕食を安倍首相と銀座数寄屋橋近くのすし屋（次郎）によって酒が入り、上機嫌の第一日目を過ごした。安倍さんの靖国神社参拝のあと、アメリカ政府に、日本のアジア政策の対応に（失望した）と言わしめて以来、日米関係は冷え切つてしまつたが、今回の訪日の機をとらえて日本としても、起死回生に臨んだ安倍政権である。日本は思うに無駄な時間をすごしてきたが、その間、逆手をとつて中国の海洋進出は拡大して周辺諸国を脅かしてきて居る。安全保障上、日本はアメリカとの同盟を強固なものとして自国の安全を確たるものとしなければならない。ここで中国の進出を食い止めなければ、千載一遇の機会を逸することに

なる。共同声明で尖閣諸島は日本の施政下にあり、日米安全保障条約の対象になるとの認識で一致を見たことは、安倍政権にとつて最大の収穫であり、歴史に残る快挙である。でせかしたぞ安倍ちゃん！ とエールを送りたい。

TPPで難航しているが、そもそも出遅れてTPP参加のテーブルに着いた日本である。多少のデメリットは仕方がない。しかしそもそもTPPの精神は、関税の障壁を撤廃して多国間貿易を円滑に進めて平和裏に貿易の拡大を図ろうとするものであつて、例外規定を設けるようではその根本精神に反することになる。場合によつては段階的に進めていくことも議論されることであるが、自國のみの利益を優先して考えていくものではない。前進のためには痛みを生じるが、より充実した環太平洋の経済連携協定を遵守して、発展的目標を目指さすべきだ。今回の短期間の、オバマ大統領の訪日であつたが、実に精力的に行動した成果は、安倍ちや

んとオバマちゃんとの誉れある合作であり、その成果は歴史に残るものと評価したい。問題解決の基本は、力による解決でなく、平和的に事を進めていくというもので当たり前なことを確認したわけであるが、その背景には日米同盟の揺るぎない姿勢を確認し合い、内外に発信したことである。オバマさんは、大役の成果をあげて、今日韓国に向けて晴れ渡つたアジアの空を飛び立つていった。随所で見せたオバマ大統領の風格、識見、品格と云つた人間的な深い側面も見ることができた。日本の政治家に見習つてもらい、特に不勉強で、ぼやけている国会議員諸侯に警鐘を鳴らしたいところである。

\*

精悍なオバマ大統領に威厳充ちなほ親しみがあふる人柄  
國賓のもてなしを受け寿司を食ふ修行の若き日のあればこそ  
中国の覇権進出に狼狽すアジアにくさびを打

てるアメリカ　　日米の堅き同盟を打ち出して尖閣諸島の不安はらえり

日米の安保条約を堅持して中国進出に向かふこの国

アメリカの世界政策に山積す課題に取り組むオバマ政権

失望を抱くアメリカに安倍さんの真摯に向かふ姿勢良きかな

口先の友情ぐらい軽薄に嫌味に聞こゆ言葉なきなり

靖国の参拝以来この国に益をもたらしたるはなきなり

これほどにＴＰＰの重要性肌身に覺へ関わりあふに

早ばやと日本を離れ韓国へアジアに飛べるバラク・オバマよ

何かにと云ひ争ひつことをなし早くも五月に入りしこの年

四月二十七日

奥山さんの美談

名門、閉館の富士屋ホテル、

八重洲 富士屋ホテルの奥山仁さんが「私の人生の宝ものです」と云つて持つてきてくれたのは、約二十年前、昭和経済会が月刊誌として発刊している昭和経済の第四六巻四号と、同じく四七巻一〇号の二冊でありました。編集人であり発行人である私が、自分の事業のほかに会のために心血を注いできた仕事であり、自分の生きがいでもあることは言うまでもない」と

一つは「講演と見学の旅」を綴つてあります。

一つは富士屋ホテルで開いた「創立六十周年記念祝賀会」の模様を描いたものです。二つの行事とも、富士屋ホテルの奥山さんの手にかかつたもので、私の記憶にも鮮明にきざまれている思い出の行事でした。二つとも極めて詳細に書かれてあるので、目下のところ記した記事のコピーは途中までしかありませんが、読んでいると当時のことことが懐かしく思い出されて目に浮か

ーさせてもらいました。歴史をたどれば第46巻は今から一九年前の平成七年に発刊されたものであり、第四七巻は一八年前です。いずれも20年近く、遡った時のことが記してあります。奥山さんが今五十歳になつたといわれていたので、彼が三十歳の時であります。奥山さんは、連綿として続いてきた付き合いですが、優秀なホテルマンとして活動し、礼を以て情義に厚く、感性豊かな人柄がうかがえ、かえりみて惜別の思い、拭いがたきものがあります。

んできたのです。これを手にする会員の人たちにとつても、きっと素晴らしい思い出の記録となつて、奥山さんと同じように、この雑誌を抱きしめたい気持ちになるに違いないと思いました。

講演と見学の旅では、富士屋ホテルの大型で豪華な観光バスを一台仕立て一路筑波学園都市に向かいました。筑波大学で途中下車、同大学の教授であり、同病院の副院長の山下亀次郎教授の名講演を聞く機会を得ました。「成人病 その克服と予防」と題して約1時間の講義を有意義に拝聴しました。そのあとは再び常磐高速に乗つて水戸偕楽園に向かいましたが、おりしも水戸偕楽園は、梅の満開の時でした。もう一つは恒例の講演親睦会を創立六十周年を記念して、富士屋ホテルの桜の間で開いた時のことの綴つている記事であります。盛大に開催されたものでしたが、会員各位のそれぞれの感動的な挨拶なども沢山あつて実に楽しい場

面が映し出されています。いずれも八重洲富士屋ホテルを思い出す場面の一つとして、改めて回顧する機会があれば幸いだと思つてます。

その富士屋ホテルは今日を以て閉館することになりました。東京駅前の八重洲の一角を占めて、四十年の長きこと、名門の名をほしいままに、街を華やかに優しく灯し続けてきた姿は、さびしい限りですが、今日を以てこの街から消えていくことになつてしましました。私は今日の朝方、今まで沢山のお世話にあづかつたホテルの人たちに感謝しつつ、最後に入館してホテルに別れを告げて来ようと思つて立ち寄つたのですが、既に玄関前には多くの職員や関係者が集まつて名門富士屋ホテルの最後の姿を惜しみつつ、閉館の締めをくくつていた最中でした。その様子を爛漫と咲く桜の花の下で感慨深く眺めていましたが、同ホテルの得意としたフランス料理のコック長を初め、調理の白衣をまとつた料理人たちが一列に並んでいたのが印

象的で、別離の時の、ひとしおの哀歎を誘つたのであります。奥山さんはじめ、親しく知り合いになつた多くの職員たちの姿も、咲き誇つた桜の、満開の花の間に見えかくれしていました。

名門の富士屋ホテルが幕を閉じ街の姿もかはりゆくなり

あるじなき富士屋ホテルの前に咲く桜の花が雨にうたるる  
半世紀近くに栄ゆ名門の富士屋ホテルの波にのまるる

不動産開発業者に買い取らる富士屋ホテルの

あはれ末路は

近ごろの開発業者の氣の荒くアベノミクスの良しも悪しきも

立ち退いた富士屋ホテルの周辺を手早く高き壇がかこめる

エイプリルフールならば良しともさに非ずホテルの桜の花と散りゆく

あと一年早く来たらばアベノミクス富士屋ホテルも身売りせずとも

関西の金にめざとき会社来て馴染みのホテルを買いあさりゆく

友ら来て人を招きて学び舎の富士屋ホテルの赤松の間よ

師を招き友ら集ひて学ぶ日の富士屋ホテルの影は失せしも  
磯ふりに消えてホテルのあと虚し桜の花とともに散りゆく

四月一日

消費税8ペーセント

四月馬鹿、これは嘘じやない

四月一日から消費税が3ペーセント上がつて8ペーセントに値上げされ施行されました。消

費税が導入されたのは一九八九年のたけすい内閣の時で税率は三パーセントでした。そして一九九七年の橋本内閣の時に五パーセントに値上げされて以来実に一七年ぶりの値上げとなりこれが二回目で税率は八パーセントになりました。消費税の値上げについては賛否両論、喧々諤々の世相でしたが、議論はだいぶ消化されたようで、世間的には抵抗感が薄れています。家計も企業も適切に対応して、消費者意識にも、企業家意識にも概ね浸透してきたことは幸いでした。消費税で得た税収はそのまま年金や医療、子育てなど全額社会保障に回されるということですから、意義あるものと考えなければなりません。あとしつかりしてもらいたいのは国自体であります。即ち、消費税の値上げだけで財政の健全化が図れるものではありません。政府と、行政機構の改革の絶え間ない努力が必要であります。行財政改革を着実に実行して、財政再建に繋げていくことが肝要です。

小さな政府をめざし、同時に地方自治の確立のため、地方公務員のレベルアップに努め中央官僚機構からの脱却がなければなりません。

今回の消費税率の引き上げによつて納税者の税金に対する意識が、これほどまでに上がつた経験がありません。国債残高が、国の借金が一〇〇兆円を優に超す状況になつて、国家財政はますます窮地に追い込まれ、このままでは国際信用もままならない情勢です。いくら国債の消化比率が国民の貯蓄で消化されているとはいっても、残高の絶対額は世界でトップレベルと云うただけない名声ぶりです。こうした状況は、何としても改善していかねばなりません。もとより消費税を上げたからと云つて直ちに国家財政が改善されるわけではありませんが、国家財政に対する国民全体の心構えが違つてしまふし、国家予算をどのように効率よく使つていか、と云う問題意識を高めることにもなります。国家の支出ができるだけ抑えて、国民の負

の負託にこたえる工夫もなされていくでしょ  
う。納税意識を高めることは、逆に収められた  
税金がどう使われていくかをくまなく監視し  
ていく機運にもつながります。これは健全な国  
家存立の基本条件なので、常にこうした国民的  
努力と心構えを以て赤字財政の慢性化から抜  
け出していくなければなりません。小さな政府  
の樹立は、国民の福祉国家の建設につながる前  
提条件だからです。

消費税が上がる前の庶民の買いだめ、買い走  
りは凄まじいものがありました。デパートやス  
ーパー・商店街にはたくさん的人が詰めかけ  
て、両手いっぱいに買い物をする風景がありま  
した。景気の良さを物語つて、気分は高揚して  
いましたが、値上げが実施された後の反動につ  
いて、みんなが不安視していました。施行前の  
駆け込み需要の反動で、客足が鈍つてそのまま  
不景気につながっては仕舞わないかと多くの  
人が思っていました。そうしたことことが起きない

ようにと、国もいろいろとした景気対策を用意  
して見守っていますが、大した混乱もなく推移  
していくものと思われます。企業家意識も多く  
が賃金のベースアップに努め、購買力の向上に  
一役買っていることも明るい兆しです。日銀の  
黒田さんも定例記者会見で物価上昇の目標値  
はほぼ達成されていくと自信のほどを示して  
います。デフレ脱却は達成しつつあり、場合に  
よつては目標以上に値上がりしているものも  
あつて、弾みの怖さがむしり気がかりであります。大衆課税の普及が低所得者層の生活を圧迫  
しないよう、細心の注意を払つていく必要があ  
ります。

拙宅でもトイレットペーパー・日用雑貨を買  
いだめするようなことはなかつたものの、妻が  
消費税が上がる前に買っておきたいと思つて  
いたものがあつて、私には内緒でしかるべき時  
に決断して購入したものがありました。長い間  
使い切つてきたもので、既に切り替え時期を迎

えているものばかりです。自由が丘のヤマダ電機に行つて購入して來たものは、テレビに16万円、トースターや食器乾燥機、電子レンジそれに掃除機で、締めて約25万だそうです。3パーセントの増税分を節約したことになりますが、必要があつての購入で買いだめ、買い走りと云つたものとは違つていすれば買わなければならぬものばかりでした。消費者の中には買わなくともいいものまで買つてしまつたという皮肉な結果になつた人もいるのではないかでしようか。消費税で得したと思って今夜は外で何か美味しいものでも食べたいと云う妻の欲望で、尾山台駅近くの中華料理屋で夕食を済ませましたが、締めて8000円ばかり使つてしまい、何のことはない、得した部分は簡単に消えていました。野暮な話になりましたが、私などは寧ろ家で一杯やりながら、のんびりと夕食を楽しみたかったのですが、妻にとってみれば家事が省けて外で楽に食事がたの

しめたということでしょう。斯様に節税が逆に支出を促す結果になつて、アベノミクスの景気刺激に徹底的に協力したことになつたと、変な理屈をつけたりして一人合点しています。

消費税値上げに庶民の生活の防衛に立つ小さき戦ひ

行財政改革に立ち財政の再建のため努力期すべし

ド・トルルのコーヒー値上げの一割に消費税率上げしこの日に

消費税値上げの四月一日より便乗値上げの割高多し

いざ金をわんさと使え国のためにデフレ脱却の道をめざして

四月一日

## 緊迫のウクライナ情勢

### G20の分裂回避

ウクライナ情勢を巡って分裂騒ぎを演じていたG8に代わって、先進国と新興国が集まるG20が分裂を回避して共同声明を発表した。ウ

クライナ情勢の政治的対立を当面棚上げして、経済優先で危機を開始できたことは素晴らしい成果である。G20の崩壊の上、G20の会議もタイ理知船名の情報を受けてニューヨーク株式市場も。東京株式市場も急落して、世界経済に悪影響をもたらすことが大いに危惧されていたが、ひとまずこうした状況を回避できて、週明けの東京市場の反発が期待されるところである。それにしても民族主義から発した独立機運は、特に旧ソ連邦から独立分離した分派で、内紛をお越し民族主義を煽ってロシア編入を策謀するグループの台頭で不安定な状態で

ある。民主主義制度になれば、経済基盤の脆弱な国家を直撃して、何かと騒動を起こしかねないでいる。その背後にロシアが関わっていることが多い、中国の領土拡張主義の旧態然とした帝国主義的思想が亡靈のごとく覆いかぶさっていることはいがめない。

ロシアにしてもウクライナのような経済的困窮を極めている諸国は多いので、仮に併合しても財政危機を増幅しないとも限らず、米・EUとの妥協点をどこかで見出さない限り安泰とは云えない矛盾相克の事情がある。今やチンも、世界が経済的網が膨大複雑に張りめぐされて、複雑に相互に機能している実態を看過することはできない。単に天然ガスを武器にして戦えるものではない。他国の不利益は、自国の不利益に跳ね返ってくる経済である。冷戦時代に逆戻りするわけにもいかない。中国とオバマの云いあいは、ハブとマングースとのにらみ合いだったが、さしあたり双方がみつき合

うこともせず、怪我がなくて妥協点をつかみえたことは良かった。これを踏み台にして、米ローブーチンの罷にはまることが最も危険だが、EUも対口決して一枚岩でないし、アメリカもいろいろなところで小競り合いが起きているから力の分散は避けられないでいる。そこを突いてくるブーチンには警戒が必要である。

自国の経済的不信を顧みず、やたらと大國の経済にすり寄つて依存主義から脱却できない旧東欧諸国が物議を醸して後を絶たないでいる。いくらグローバルな世の中になってきたとはいっても、こんなとばっちりを受けていたのは、たまたまものではない。義務と責任をないがしろにして権利と金ばかり主張して暴れまくる連中が多く、知的レベルも低いから国民がいつも犠牲に立たされている。もつとも国民が一般的に高い教育制度の普及と自覚を持つに至つては、権力の行使をほしいままにする権力

者にとつて、好ましい状況ではないからである。勢い強権的政治を布くようになつてくる。そうした政体には権力者にすり寄り、政治家や官僚の思想は腐敗が蔓延して汚職が絶えず、腐敗しきつて体制は維持しえなくなつて、いずれは崩れる結果になる。そうとはわかついても一度味を占めた悪魔の誘惑を絶つことはできない。いみじくも、それは古今東西の歴史が物語るところである。世界の政治家には驕り高ぶつた後の断末魔に氣付かずに、最後まで粘るおつさんがいるが、大統領や首相の執務室の壁には、近くの歴史にあつたチャウチスクや、アサドの肖像画と、その断末魔の状況でも大きく張つておいた方がいいのではないだろうか。権力の座にしがみついて暴虐の限りを尽くせば、奈落の底に落ちていくこと必定である。奢れるもの久しからず、ただ春の夜の夢の如しである。

## 韓国の海難事故

韓国の大型旅客船・セウオル号が乗客・乗員四百七十五人を乗せて韓国南西部の珍頭沖で沈没し、安否不明者が二百七十二人もいて、悲惨である。沈没寸前までの2時間余までに救助された人は百七十九人と云われているが、なぜもつと多くの人が救出されなかつたのだろうか。

多くの疑問を残している。乗客の中には済州島に行く修学旅行の中学生たちが約300名余りで、安否が痛ましく気づかれてならない。全員が、一刻も早く救出されることを祈るばかりである。

事故現場は海岸から二十キロ程の沖合にあるが、悪天候で波が高く、もともと潮流の激しいところと云われている。現場海域には船舶170隻、航空機29機、約五百二十名の潜水士が救助に当たっているが、横転した大型客船の中

に閉じ込められた乗客を救出するべく必死の救助作業が行われているが、三日も経過した今、時間との闘いである。ちまちました船がいくら沢山出ているからと云つて、十分で実効的な救援体制が採られているとは言えない。

日本は海上自衛隊の艦船派遣を含め、人命救助のためあらゆる技術を以て素早く救援の申し出を韓国政府に送つたが、なぜか今以て救援要請の返事がないでいる。アメリカも第七艦隊の派遣を申し出ている。こうして見ると、韓国政府は緊急時の危機管理と対応が杜撰で、忸怩たる思いである。素人考へだが、第七艦隊の巨大な艦船が隊列をなして難破船近くを横付けするだけで、大きな横波だつて多少は防げるのではないか。生存者の救出のために、早い段階で空気を送り込むことだつてできるのではないか。船体が更に海中に沈まないよう舟を支えたり、吊り上げることだつてできるのではないか。なぜ救援の要請に素早くこたえないのか。

船内に閉じ込められている乗員は、恐怖と戦い、冷水につかって激しい体力の消耗にさらされている。一刻の猶予も許されないはづである。

#### 裏の庭に立つ大槻

緊急事態に政府関係者を引き連れて現場を訪れた朴大統領だが、被害者の家族たちが苛立ちを見て非難し、救難、救助にもたつく政府、大統領に激しい怒りの言葉を浴びせている今日の各局のテレビ映像である。それらを見る限り、救援の決定権を持つ彼らが、のんびりしている状況ではない。危機管理体制の能力欠如の表れか。自国民の犠牲を最小限に抑えるためにも、韓国政府は全力を挙げて取り組むべきだ。若い学徒が、二百名以上も船内に閉じ込められている。

四月十八日

日曜日の朝、玄関のベルが鳴つて裏のお宅の若奥さんが見えました。裏に高く立っている老木の槻の木を切ることになったという知らせでした。一瞬、やるせない気持ちになりました。今年になつてそういう話が出ていることは、薄々知つてはいましたが、それが二十二日に予定していると告げられると、受け止め方に切実な思いがしてきます。最近の異常気象で、突然の強い雨、風に大木が吹き倒されることがしばしば起きています。槻の巨木は、云われてみると僅かに傾いてきることが分かります。根本の地面に地割れを起こして、土が幾分盛り上がりつけてきているようにも感じます。万一それが強風や、地震によつて揺さぶられて、拙宅の上に倒れて来たら、もちろん我が家はその巨大な槻の重みに押し潰されてしまうでしょう。それ

を案じた屋敷のあるじの決断だつたに違ひありません。私は櫻を伐る前に何とか他に打つ手はないものかと思つたりしますが、なかなか思いつくことが浮かんできません。伐り倒さなければならぬとうわさに聞いていたときには、既に仕事師を手配してのことでした。窓から見る櫻の全景は、そうした懸念など微塵も起こさせないほどに堂々として、圧倒的な力を以て迫ってきます。その姿を見ていると私は又、むやみに奮起づけられて若返つてくるのです。実は三十年ほど前の拙宅の普請の時に、この櫻の木の全容を眺められるように、敢えて大きな窓枠を作つて特殊なガラスを張つたくらいです。それほどに長い間、愛着のある樹木でした。

周辺を見下ろして高く立つ櫻の木は、樹齢三百年はあるでしょうか。幹回りは子供二人が抱えるほどです。少し離れて眺めてみると、拙宅の屋根の上にさらに大きく伸びています。その美しい先端の枝ぶりを見てからでないと、我が家の玄関には入れません。高さは三十メートル以上はあるかと思います。長い歴史をきざんで力強く育つてきた木の立ち舞い姿は、大空を指してすつきりと伸びきっています。屋敷のあるじが若い時から木に登つて、自ら枝を払つては丹精込めて育てて見守つてきたと云われ、愛情をこめて手入れをしてきた様子がうかがえます。

邸宅の庭は数寄屋造りに合せて、和風の優雅な作りになっています。大きな庭石を豪勢に配置した中には、四国から取り寄せた蒼石などもあつて趣があります。植えられている樹木には松やマキノの樹など大小さまざまに、手入れの難しい名木もあつて、贅を極めております。あたかも京都の茶屋の庭に入つて庭を楽しんでいる風情です。そうしたところに、あるじの古風で豪壮な気概が伺えています。広い庭には毎年四、五人からの庭師が入つて手入れを怠りません。そうした中でこの櫻の大木は、どこか

趣きを変えた雰囲気ですが、盆栽の檸をあしらうように手入れが行き届いています。丁寧に余計な枝を摘めてきたけやきの立ち姿は、ほつそりとして誠に優美であり妖艶の一面を持つているところが、何となくつややかな味わいを覚えて来ます。人頭身のファッショニモードルを想起させます。

檸の大木は、古くはこのあたりにケヤキ並木があつて、この木はその中の一本とも言われています。ところが屋敷の立派な庭にふさわしく、造園の技を駆使して配置されているようにも思えます。見上げていると、孤高の趣きが凛として一段と輝きを帶びて我が身にも迫つて来るようです。人様の屋敷の庭を身近に楽しみ、そこに力強く生きている大樹に触れては触発されている自分を、感謝しているのです。しあわせそうした大樹も、玄人がみると風雪に耐えきれず、少しづつ傾き始めているというのです。万一にも倒れたりすると、その時の周りに及ぼ

す被害は甚大だとも言っています。ぶざまな姿は見たくないという主人のいさぎよさがあるのでしよう。けやきの気持ちを知っているのは主以上にないからです。

春先のみずみずしい芽吹きは、樹木の冬眠から復活を告げて躍動的です。全身が力強く、生命力で波打っています。桜が散つて葉ざくらになる今が、ようやく檸の芽吹くその頃に当たります。うつそうとして生い茂る小枝の葉は、夏の風に吹かれてしなやかに涼しい風を送ってくれます。時には、たくさんの中鳥たちの憩いのかけでもあります。ある熱い朝に、太い幹には蟬が沢山止まってゆつくりと上に向かって登つていいくのがみられました。日なかの猛暑に一斉になき出すこともあつて、時には激しい夕立のように鳴きしきつています。夕日を浴びて聞く蟬しぐれは、拙宅での夏の風物詩でした。秋の紅葉の頃の美しさは又、想像を絶するほどに綺麗として、まるで屏風に描いた錦絵のよ

うに圧巻の風情すらうかがえます。黄金色に染まり始めた木の葉は次第に色を深めて、晩秋の頃は真紅に色づいて、いちもく全体が炎のようになります。その光景は、まるで速水御舟の描く「炎舞」そのものの妖艶な姿に変身して、神秘的です。そうした四季折々の様子を毎日何度も眺めながら、私にとつても早や三十年余がたちました。憂い悲しむときには櫸の大木眺めていると、不思議と心の底から力が湧いてきて、艱難辛苦に打ち勝つことが出来ました。櫸から云いがたい靈気のようなものを与えられ慰められたことは度々あります。思いは感慨深く、今朝もまた妻と拙宅の前に立ち、高くそびえたつ櫸の巨木を眺めて、その木肌に手を触れて黙想し別れを惜しんでいたところです。

今日はイースターです。キリストの復活を喜び祝う日です。孫の二人、佳ちゃんと麗ちゃんが昨夜から拙宅に泊っていますが、今朝は双子

の可愛い姉妹のあきちゃんと、ゆきちゃんが拙宅で合流し、一緒にイースターの教会に行くことになっています。聖書では次のような教える言葉があります。目に見えるものは永続的な存在として永遠の命を与えられます。目に見えるものは肉体であり、目に見えないものは、その人そのものに備わって、神さまからあたえられた靈であります。私は考えました。神様の愛を広く万物に広げて、そうした力が、この愛する櫸の木にも宿っていることを願い又信じてやみません。仮に伐られて、この地での生命が絶たれても、再びいつかどこかの大地で、きっと新しい生命の息吹を繰り返して、聖書が教えるように復活していくことでしょう。

続

ごつごつと豪氣に枝をよもに張り太きケヤキの空に伸びたつ

太古より語りつぎけむ生命の強き力を今に示

せり

太古より大樹の大地に立つごとく我も同じく

ここに立つなり

宇宙さし空高く立つ大けやき四季折おりに意

氣をしめせり

大ケヤキ宇宙に広く葉をひろげ月と星とを

憩ひ宿せり

語り合ひ樹齡五百と數ふ歳 威厳に神のおわし

ます哉と

ふたりして抱えるほどの幹ゆへに見上げる丈

も空に突き出て

大ケヤキまろき宇宙に葉を広げ長き銀河をか

らめ揺れをり

豪勢に枝をひろげて碧き夜のきらめく星座を

なべて收めり

おとなりの櫟の巨木立つされど傾きおれば伐

らるさだめに  
大けやき巨木の幹の下の部のほくらとなれば

神酒をささげり

近ごろの異常気象のあほりとも強風、豪雨に命  
さらさる

今むかし思い起こして大擣けやき仰ぐ我が身

に奮起わきたつ

大ケヤキ傾きおれば危うさに庭師によりて伐

り倒されるると

老木と云へど若やぎ生きかへり芽吹きのとき

のよみがへるさま

高々と仰ぐけやきの躍如たりあな厳かに手を

あはせけり

四月二十日

## 始まつた大型連休

消費税が5パーセントか8パーセントに上がつて初めて迎えた大型連休は、人によつては昨日から始まりました。消費税が上がつても、大型物品は別として日常の消費行動にさしたる変化が起きていいことは幸いです。安倍さんの推し進めるデフレ脱却を目指す経済政策に少しでも影響を及ぼすことがあつてはなりません。住宅や自動車などの大型の物品については、その後の売り上げに大きな減少がみられますが、その他の小額物品には大きな変化がみられないことは幸いります。大型連休に入つて多くの人々がたくさん、健康的に消費にお金を回してくれれば、景気の減速と云つたことは避けられて、この先安倍さんの勧める経済政策に確信を持つことになるでしょう。今後の景気動向を占う点で、この大型連休の消費行動に大

いに注目したいところです。

健康的にお金を支出して安倍さんのアベノミクスに参加して、政治意識を持つことはそれなりに大いに意義があると思ひます。絶好調の安倍さんも休日返上で近隣外交を展開したあとは、ヨーロッパ各地を歴訪して、積極的平和外交を推し進めていくとのことで、休む暇もないほどに多忙な日程に追われています。ご苦労さんとその労をねぎらいたいと思ひます。曆通りでいけば四月の三十日と、五月の一、二日を上手に休日とすれば、十一日間の大連休となります。しかし安倍さんと同様、実際に毎日仕事を続けている人にとっては、こんなに長く休日をとることは不可能なことです。日本だけに通用するこうした連休は、毎日動いて連動する国際社会ではなかなか応用しにくいものです。社長であれ従業員であれ、企業や事業に直接かかわっている人には、日本の伝統に合わせて、お正月と盆の休暇が実際には有効に活用でき

るものと思われます。

一年に一度のこの季節の連休は、列島が正に新緑に燃える絶好の行楽時期にも当たります。これに合わせて日本各地では、それぞれ郷土色豊かな伝統的行事が企画され、集客に役立っています。久しぶりに海外旅行をする人たちも気候的には、この時期は最高なのではないでしょうか。丁度外国から日本に観光旅行に来る外国人が、最近とみに急増しています。東北大震災以降激減した外国からの観光客が盛り返してきましたことは喜ばしいことです。私の職場のある八重洲、銀座界隈には、多くの外人観光客が目立つようになり、故郷の浅草でも最近に見ない大勢の外人観光客でにぎわっています。これから始まる浅草三社祭にはかつてないほどの人気を博して地元観光連盟も大きな期待を寄せて、さらなる集客のために尽力しているとのことでした。

最近考へることがあつて私も、もう三十年歴

史の歯車を逆に回せることができたなら、どんなに幸わせな男だろうと痛感する毎日です。今の状態で二十年前の時代に自分が立っていたなら、随分と大胆で、奇抜で成功率の高い仕事を仕掛けて駆けずり回り、大いに意氣を高めているだろうと、かなり欲張った想像をしています。しかしそんな想像をしていると、だんだん現実に近い問題として、かなり高度な思考が働いてくるようにも感じてきます。自ら編み出した回春法とでも言いましょうか、決して効果の無いものでないこともはつきりしてきました。誇大妄想狂とは全く異なった次元の、精神分析学の分野に属するものです。小保方さんのスタッフ細胞のイメージとも違います。私の方が極めて革新的な、確信的データに基づいており、実現性があります。私自身の意識のチエンジの可能性次第と云うことになります。老化した細胞を意識の持ち方で回春させることができれば、体内に自らのスタッフ細胞を作り上

げることになります。これを大脳に張り付ければ尚好ましいことなのです。スタッフ細胞の考え方、議論の仕方を見ていると万事に

当てはまることなのだと、何もスタッフ細胞に限つたことでなく、科学と云うのはある仮定を想定して実験を繰り返し、真実に迫っていくこともできるわけで、目くじら立てて云いあうことはないようです。

折角の大型連休を細切れにしてしまうのは実際に、勿体ないことですが、俄かに考えてとつた行動は、昨日から始まっています。相変わらず仕事上の忙しさで外国旅行ができないことが、周辺で消化できる行動範囲で、これから小刻みに連休を人様並みにつかっていこうと思いました。手際よく手当たり次第に、効率よく、満足度を高めながらだと思いました。ここまで書いて来たら一体何を云おうとしているのか、何を画こうとしているのかわからなくなつてきましたが、これこそ一つの自己満足で支離滅

裂を以て良しとする小生の思考であります。混どんの中から、真理を掴むことができるという弁証法であります。

連休の第一日目の昨日、朝食をとつてからとりあえずいつものように出勤体制を組んでみました。そこで今日は欠勤を決め込んだと想定して、朝の十時から二階の寝室のベットに横になりました。約一時間の朝寝を決め込みました。特質すべきことは快便を果たした後の睡眠だということです。目覚めたときの、快眠のあと何という爽快さでしようか、筆舌に表しがたきもので、精神的余裕を持つた睡眠の、いかに充たされたことでしょう。肉体の底からとてつもないエネルギーが湧いてくるのと同時に、精神的充実感を以て大脳が明晰に活動し、思考が積極的に動き始めていることが分かります。身心の爽快さを先ずもつて味わうことが出来ました。

まだ午前中の十時半です。かねてから気にか

けていたことで尾山台駅前のアサオカ歯科医院に電話して、不要になつて痛みを覚えていた親不知を先週抜歯したのですが、その後の治療はないのですが、検証に行くべく連絡して12時の予約を取りました。まだ親知らずがあるんですかと妻が笑っています。雲一つない爽やかな快晴の日です。若者が着るユニクロのはやりのスーツを身に着け、紳士靴を履いて出かけました。礼式ばつた場所でもないのに、紳士靴を普段に履いて出かけるのはいかにもちぐはぐだと山の上が云うのですが、私の習慣と云うか好みと云うか、散歩用のスポーツ靴はどうも気に入らないので仕方がありません。昔友人の大塚さんからもらったメッシュの鞆な紳士靴がありますが、これはかなり高価なものと靴屋さんが言つておりました。気が向くとそれを履いていきますが、履きつけてきたせいでしようか大分氣に入つてきました。道のりを丹念に調べていくと尾山台までのわずかな距離ですが、樹

木が多く、いまだに畑が残つてゐる環境は素晴らしい、田園調布よりも大変面白く散策を楽しむことができます。都會にもこうした環境が守られてきていることが不思議なくらいです。独立して縁あつて浅草からこの地に住みついて四十年余が絶ちますが、いまだに新しく発見して感動を覚えることが沢山あるのです。

そうめんを茹でてさっぱりと昼食をとりたいと思っていたのですが、家内が外で食事をしたいというので、蕎麦好きな私は、近くのぎん屋と云うそば処をたづねました。一方で久寿屋と云う老舗が尾山台駅にもあります。透かしやで大ぼらを吐いて、むしろ愛嬌のある江崎と云う学友がいました。日吉からわざわざその蕎麦屋に食べに来る姿を尾山台で見て驚いたくらいです。外での食事に蕎麦やを選んだ理由は、昨日、仕事上の先輩に誘われてフランス料理を思い切つて食べてきましたからです。銀座からJRに乗つて川崎に行き、そこから南武線に乗り

換えて武藏小杉の二つ先の駅の武藏新城と云うところまで出かけて行きました。フランス料理をだべるためにわざわざそんな遠くまで行く必要もないだらうにと思うのですが、それはわけがあつたのです。仕事上の先輩は御年、八十八歳の男性で、かくしやくとした紳士です。私はどうゆうわけか若い時から年配の人には好かれるタイプで、何かとせえては良き薰陶を得てきていることは大変恵まれた性格だと感謝しています。武藏新城行は、大先輩の意向で、そここの若いママさんにどうも気があるようなのです。若くて独身のママさんがひとりで経営しているとのことで、私も大いに興味を惹かれあとについていくことにしたわけです。そこでの艶めいた印象は別の機会に書くとして、もその夜はフランス料理を楽しんだ折、上等のステーキを贅沢に食べてきただので、今日は牛排レストランを訪ねて洒落ていくのに躊躇していました。藩麦處のぎんやは、目黒通りに面いたのです。

した交差点に在つて駐車場も広くとつてあります。交通至便で、普段でも時折行くことがあります。平屋造りで店内は広々として明るく、何時も来客が絶えません。こここの藩麦は舌触りがよく、味に厳しい山の上がおいしいと褒めるくらいです。好きな具も好き勝手に注文することができ、藩麦通にはもつてこいのところではないかと思います。私はどこに行つても専ら盛そばに徹しています。おいしい具も私にとつては、本格的な藩麦の味を味わうにはむしろ邪魔になつてきます。

二時を過ぎた昼食だったので、客人も少なくなんびりとすぐした後は、すぐ近くの等々力渓谷の散策に出かけることにしました。環八をわたると右手に等々力不動尊の境内があります、新緑の盛りを迎えて境内と周辺一帯はもえぎ色の色に包まれて目にも鮮やかに輝きわたっています。ここを参拝することの便利さは、清潔に行き届いた駐車場があることです。最近は

等々力渓谷の名が観光的に知れ渡つてか、大型観光バスが横付けになつて、参詣者が増えてきています。都会の中に今も清冽な渓谷美を満喫し、深々とした樹木の影に武藏野の面影をしのびながら、優雅な時間を過ごすことができます。桜の時期には春爛漫の光景となつて、馥郁とした香りを身に沁みさせてあたりを散策する気分は、みやびの世界を逍遙するようなものです。

小ぶりな山門をくぐると、敷石が詰められ参道を本殿に向かつて歩いていくと、本殿の奥また拝殿に灯りがともされて、森閑とした趣きに厳かな雰囲気が漂っています。本殿右手には広々として庭園が野性的に広がつていて、見晴らし台から眺めると、武藏野の雜木林は多摩川の堤まで続いていると思われるくらいです。この脇から階段を下つていくと深い渓谷の踊り場に出ます。下つてきた階段を振り返ると樹木のトンネルを見上げるようで、その落差は五十メートルはあるかもしません。その岩肌を

滴り落ちる湧水は一筋の滝となつて、行者の水浴の靈場となつています。この辺りから渓谷の川上に向かつて約一・五キロの澄んだ水の流れが、深い樹木に覆われた下に続いていき、東急大井町線の小さな等々力駅の袂のゴルフ橋まで繋がつています。

この道のりをゆつたりと歩いていくと、まるで十和田湖の奥入瀬溪流を小さくして、好きな恋人を連れて夢路をくぐつていくような錯覚を覚えています。今日の好きな恋人を演じてくれているのは、大事なわが山の上さんであります。お不動様にも、この先の玉川神社にも、子どもの小さい時に良く連れてきました。小さいころから、素朴な信仰心を持たせることは、子どもの教育にとつては欠かせない大事なことであつて、近くにそうした場所があることも人生の確かなめぐりあわせと、見えない糸の導きに感謝しています。テレビやスマホに夢中になつてお宅族が増え、外で遊ばない子供たちは急増し

ています。お寺や神社の境内で、思う存分に遊んでいる子供たちのわんぱく姿をすっかり見なくなりました。これでいいのかと聊か心配であります。身心にいろいろと陰りが出てきて、子どもたちの見えないところで身心が侵されできていることに専門家や有識者たちが警鐘を発しています。

身心を強く鍛えていくには子供に限らず、大人たちのパソコンやコンピューター生活の依存度を切り下げる、現代病の克服に努めていく必要があります。徘徊は老人痴呆症患者の特権ではありません。逆に外部に刺激を求め、好奇心を以て徘徊することです。いろいろとした世界が広がっているという風に考えると、生きていることの楽しさを感じてきます。道端に咲く小さな花を見て、その世界を拡大していくことは可能でしょう。小さな生命が無限に拡大され、アインシュタインのように宇宙の構造にまで広げていく時もあります。リンゴの墜ちるさ

まを見てニュートンは万有引力の発見にござつけました。かうようにローマやパリに行かずとも、近くの散策で大きな世界を見つけてきた事実は紛れもありません。都会の街なかに出ても、いろいろと自然の世界に接することができる場所が大変多くなりました。要は視点を変え、安易で横着した手法を排して、思考と体を有益に活性化して消費していく道筋を、生活中に取り入れていくことが大切かと思われます。

等々力渓谷に三時間ほど遊んできた私と妻は、あちこちと足を延ばすうち十キロ程は歩いているかもしません。しかかも坂あり階段ありで足腰の筋肉を鍛え、肺活量も知らないうちに増加させてきたことになります。妻の提案で等々力渓谷に足を向けて遊んできたことは、爽快な結果をもたらしてくれました。今夜は月がほんのりと霞んでいます。庭烟一面に咲いている菜の花は、観賞しているには最高ですが、菜

の種が出来たりして、その分畑の養分を吸い尽くしてしまいます。明るい日差しを受けて明るく咲いている花を引き抜いてしまうには忍びないので、月の明かりを頼りに引き抜くことにしました。引き抜いた菜は、山と積んでから大はさみで細かく刻んで、畑を耕すときに肥料として埋めることにしています。夜のこんな作業に一時間以上はかかるつてしましました。しかし明日は庭畑の土おこしに専念することができます。例年はゴールデンウイークを前に茄子、キュウリ、トマトなどの苗を既に買って用意しているのですが、今年は一週間ほど遅れています。少なくともこの連休中には、夏から秋に向けて、収穫に準備のための庭畑の仕事を終えていなければなりません。そんなせわしい思いをしながら、月の明かりを頼りに庭畑の菜を引き抜く仕事をやつているのも乙なものだと、ひとり合点しているところです。

四月二六日

あけて今日の日曜日には十時半から、日曜礼拝に玉川神の教会に行つたが、礼拝後はみなとお茶を飲んで歓談して、そのまま昼食を取らずに早々と帰宅した。と云うのも昨夜から続く庭畑の作業が気がかりだったからである。しばらく気ままに休憩のあと、十二チャンネル・テレビ東京のなんでも鑑定団にチャンネルを合わせて、すつとんきよな美術・骨董収集家たちの、すつたもんだの爆笑と共に楽しんで過ごした。八百万円と自信を以て値踏みをした所有者が、果たして鑑定はいかにと、結果は二千円と出て本人の失望を前に、会場は大爆笑、私も大爆笑で世の中さまざまだと味わいの深さに悦に入つたり、うなずいたりしてした。この番組は人間の素朴な欲と絡んで、その滑稽さを演出して笑いを誘い、私の唯一楽しみとしている時間帯である。

午後三井さんの奥さんが見えた。前日に菜の花を抜き取つて耕すばかりになつていて庭畑

を見て、手伝いにやつてきてくれた。やせた土地に栄養を補給することが必要で、肥料を買いた近くのダイクに車を使つていつた。化成肥料を一袋、馬糞、牛糞をそれぞれ二袋づつ載せてきた。それに茄子、キュウリ、トマト、ゴーヤといった苗を5本から10本ほど買つてきた。作業はこれからが大変である。自分でやるつもりでいるが、何時取り掛かるべきか思案のしどころだ。とりあえず三井さんの考えも十分に取り入れてと、殊勝なことを言つてゐるが、内心は実質的に支援を願つてゐるのである。とにかく今日のところは作業の準備をしておいて、連休に、遅くとも天気予報では二、三日中にお天気が崩れて雨になるということだから、それに合わせて土お越し、肥料の施肥、苗植え、種まきなどを済ませておく必要がある。土お越しは、半分程度はすでにやつてあるから、せめて残る半分も自分でやろうと思つてゐた。月夜の作業になるかなと思つていたが、風呂に入つた

らその気がなくなつてしまつた。翌日、朝早く三井さんの奥さんが作業の支度をして見えた。手際よくやつてくださる三井さんに全てを任せた方がいいかなと、助つ人に出で、反つて足でまといになつてもいかんと思つてお任せすることにした。と云うのもこの日は会社に出勤しなければならないし、月末故に多忙な予定が詰まつていたので早めに家を出なければならなかつた。私が帰宅するころには、すべての作業が終わつて一つとして手を加えずに済んでゐるに違ひない。そのことだけは確信を以て断言できることであつた。三井さんが、途中で仕事を投げ出すような人でないことは十分知つてゐるからである。

会社でのお昼休み中に友人の桜庭君から電話があつた。あすの高等学院のホームカミングに出席するかどうかということであつた。そのつもりでいると云つて、二、三の仲間に連絡し

たところ彼らも行きたいということであった。こうした時でないと、お互になかなか会えないだろうからと云うのである。それは確かに、既に大方の連中は悠然自適であつたり、隠遁の身であつたり、反省して蟄居の身であつたり、はたまた雲隠れであつたりする。と云うのも行方不明のものが多いことも社会現象と同じで、中にはあんな活潑だった男が、うわさによると一切の人的関わりを絶つて、生きているというので仙人みたいな風貌に変つてしまつたのかと、人生色々だと思うのである。しかし状況が変化して、どんな状況になつたにしても、そうした変化に振り回されないでいる自分を堅持して、身体健康に過ぎることが大事だと、それが生活の基本でなければならぬと、教えは平凡で判り切つたことだが、これが実践となるとなかなか難しいことでもある。大正製薬のリアップではないが、すべてに効くリアップ効果の薬がないものかと探していたら、それはや

はり自分自身の中にあることが分かつた。チルミチルの物語と一緒にである。意識の持ちようですべての環境も変わるし、環境を変えれば、自分に有利に動いていくはずである。仕事を終えて一杯飲んで帰ろうかと思つたが、悪い癖が出て不義理をしているところにど、そのまま渡り歩いて午前様になつても、明日のことを考えると、このまま家に帰つた方が良いという虫の知らせで、白いバラの前の道を避けて銀座中央通りを抜けて地下鉄日比谷線のホームにもぐり込んだのである。

銀座四丁目交差点は、ちょうど和光の前に当たるが、日本一の華やかな銀座通りにもかかわらず、ここから地下鉄に乗るために階段を降りていくと、ここだけが何だかモグラが地下に入つていくような感覚になるのである。いくら改装しても構造的に変わらないわけだから、本体の姿は昔の旧態の儘で変わつていないのである。先日安倍さんがオバマさんを誘つたとい

うすし屋のあたりも古臭く、たまたますし屋の店が、古いビルの地下一階が地下鉄の道につながっているだけで、少しばかり暗がりで同じような感じのするところである。決して素晴らしい環境のところではない。薄暗いし、極端かも知れないが、昔上野駅の地下道がこんな感じであつた。だからねずみが端を走つても違和感を感じないはずである。そんなむさくるしいところで貧乏くさく、TPPの話を持ち出しても決まるはずがない。まだ帝国劇場の地下二階の、きく川で極上のうな重を以て歓待したほうが良かつたような気がする。普段から礼儀正しい仲居のきれいどころもいるし、芸者の追加だって可能である。なんだつたら、上の帝国劇場から、出演中の役者連中を呼んでみたつて楽しめたのではないか。きく川だつて上のクラスで飲み食いになれば三万円はとるだろう。けれどところを呼べば七万円だ。芸者衆を呼んで遊んだとなれば、国会が又喧しいに違いない。無

粹な議員が猿みたいに沢山いるから厄介である。しかしTPPを日本に有利に仕上げれば、莫大な国益につながるはずなのに、それが分からぬ馬鹿者が沢山いるから仕方がない。百年の計と云いながら、目先にとらわれているから駄目なのである。

高等学院の同窓会に是非出席して、私に乾杯の音頭を取つてもらいたいという連絡が同窓会の主催者の幹事長からあつた。理事会、総会のあの懇親会の冒頭である。判りましたといって、懇親会だけに出たのでは悪いので、どうせのこと12時からの理事会と、一時からの総会にも出席することにした。練馬区の石神井まで行くことになるが、環八を回つて車で行くことも可能だが、先では酒が入ることなので電車に乗つて気楽にいくことにした。我々が卒業して二年後に早稲田から上石神井の広い敷地に学院は移つていつたが、樹木の多い環境抜群の地で、立派な校舎も建つて生徒たちは恵まれて

いる。学生も当時から見ると優秀な諸君がどん

ぐりの背比べで競い合つてゐるそうだ。その分

生徒には個性に欠けて味氣ないし、面白くなく

なつてしまつたと私のかつての恩師が嘆いていたことを記憶している。見方がいろいろあるが、面白い人間と云えば我々の時代は違つていた。不良の学生をいかに更生させていくかが教師の主たる目的であり教育だつた。多種多彩な生徒がいて、その中から独特な才能を見つけ出して、それを育てていくところに教師の楽しみがあつたという。全て判子を押して出来上がりしていくような、人間教育は本当の生きた教育でないといふことも言つっていた。それが証拠に、手のかかった生徒ほど、卒業後も師弟関係は続いて、人情に溢れ社会に出てからも自分の技能を生かして人の上に立ち出世していくものが多いというのである。がり勉一邊倒でもダメだということだ。人間性を養つていくことも学校教育の大事情なところである。優秀校の特色かも

知らない。四月二八日

四月二十九日は昔、昭和天皇の誕生日の祝日であったが、崩御された後みどりの日と名前が変わつた。昭和天皇は何かと苦勞が多かつた。馬鹿者の側近と取り巻きが多かつたがゆえに、善良な国民を誤つた方向に導いて、国民に大変な損害と犠牲を与えてしまつた時代である。命を落した民衆は三百万以上と云われ、悲惨な戦争に明け暮れた時代であつた。その時の最高指導者だった人の生誕をお祝いする日が、みどりの日に変わつた。暗澹とした時代から、かがやくばかりの新緑のみどりの日に名前が変わつたことで、むしろ悔悟の念を持つた人の気持ちが生きしく浮かんでくる。悔悟を繰り返すようなことがあつてはならない。みどりの日を以て民主主義、平和主義を標榜しかがやく日本を目指して行く日としなければならない。

四月一九日が季節的にも良いし、覚えやすいということで母校の高等学院の全校規模での年一回の同窓会の日が決まつたようになつた。我々の時は高等学院の校舎は早稲田大学のキャンパスにあつたが、卒業して二年ぐらいしてから二年ぐらいしてから練馬区の上石神井に移つていつた。緑豊かな武蔵野の面影が残る、環境の良い場所に移つていつた。以来大学に所属する昔の東京専門学校と云うイメージが薄れてしまつたように思う。教壇に立つ教師は、大学から派遣されてくる教授が多かつたので、一種独特な雰囲気の授業であつて私としては大いに満足であつた。しかし述べたように大学から遠く離れてしまつたことで親近感も薄れて、何か行事があつて招待されても、なかなか行く気になれなかつたし、行くにしても時間がかかるのに抵抗を感じていた。早稲田キャンパスあたりなら懐かしいし、近隣にある古本屋に

寄つたりして、昔使つた教材などを見つけたりすると思い出がたくさん詰まつてゐるので、何となく高尚な気分になつたりするのである。高田馬場あたりから鶴巻町あたりまでの間には、供出と図書館の匂いがふんふんする。

上石神井にはそんな趣きは全くない。因みに拙宅から出かけるとすると、今日は十時半に自由が丘から中目黒に行き日比谷線に乗り換えた。ここまではいつも通り通勤区間である。日比谷線を恵比寿で降りて、恵比寿駅からJRで新宿、池袋方面行きの山手線に乗つて池袋で降りた。そこから雑踏の駅構内を通り西武池袋線の急行に乗つて、次の停車駅、石神井公園前で降りたのである。時に十一時四十分であつた。しかし、これが間違つていた。

外回りの山手線を新宿高他の馬場で降りて、そこから西武新宿線に乗りかえていかなければならなかつたのである。全く気付いていなか

つた。そもそも高田馬場駅で乗り換えることとは最初から思っていなかった。乗り換えるとしたら大きなターミナルの新宿駅であるはずだ。なのにこんなちっぽけな駅で乗り換えるなんてローカル線に乗つていくならまだしも、そうか、西武新宿線はローカル線か、それでわかつた、これから行く早稲田高等学院は田舎の学校なんだと、そのように考えたら苛立ちの気持ちも收まってきたのである。大学だつて大限重信が腹いせに時の政府に反旗を翻し、反骨精神を養うのだと、その昔、田圃の中に校舎を建てて、東京専門学校なるものを作つて地方の田舎から「求めるものには門を開じず」と称して貧乏な学生を集めて、困苦の財政を潜り抜けてきたのである。だから、福沢諭吉の慶應に比べて野暮つたさは歴然である。歴史を振り返つて、早稲田のローカル色は仕方がないと思いつつも、創立者の大限にまでじや、八つ当たりはまだ收まらない。

石神井公園前駅の若い駅員に聞いて、早稲田が学院はどこだと聞いても、そんな学校はないというには恐れ入つた。同僚に効いたり、インターネットで調べたりして、ようやく西武新宿線にあるということが分かつた。こりやあ一体なんだ、伴淳のギヨツではないが、それ以上に舌が出たきり口の中に納まらない感じである。地図を見ながら教えてくれたことは、駅前のロータリーから吉祥寺行きのバスが出ているので、それに乗つていくと早稲田高等学園前と云う停留場があるからそこで降りてくださいといふのである。学園前と云うから降りたらすぐ近くだろう。定刻の十二時には間に合うだろう。律義なつもりはないが、折角出かけてきたのだから遅刻しないに越したことはない。どうせ暇人ばかりが来ていることだから、きちんと定刻には始まるに違いない。座席に座つたりするとバスに揺られて気持ちよく眠り込んでしまつては失敗だから、座らずに立つていた。ちまち

ました閑静な住宅地をすり抜けて行くあたりは、やつぱり田舎の雰囲気である。田舎の雰囲気と云えば、のどかさは、拙宅あたりの等々力の方が一段と上だろう。まだ周辺に古くからの農家がいて健在だし、広々とした畑や、植木畑や、ブドウ菜園を嘗む農家もあつて、農地と云つても手入れが繊細で品がある。金も持つていいそうだ。拙宅でさえもちろん、庭畑を持つて楽しんだりしており、野菜だつて何も八百屋やスーパーで買わなくとも、栽培の畑で直接分けでもらつた方が品物は安いし、新鮮だ。産地直送を直に手にするようなものだ。一帯は奥沢、田園調布と一緒に感はある。練馬大根とは違う。

その昔、やはり新興財閥系の東急の五島慶太、片や西武の堤康二郎とが対峙して地盤の奪い合ひをしてきた歴史がある。箱根の合戦で血みどろを演じたが、喧嘩両成敗として自分たちで手打ち式をやって相打ちになるのを避けた

ところはさすがであった。東急も西武もそれは、西武は身内の下らぬ財産争いが災にして、よそ者のつけ入るすきを与えてしまつた。鉄道会社だから放置はできず、公的資金でつながっている。しかし堤の資金と称するものは姿を変えてしまった。今は一般的に言つて先代が残した財をもとにした個人商店らしき企業は、成長に限界がある。それ以上に大きくしていこうとすると、それが原因となつて破裂して借金だけが残つてしまふ仕組みになつてゐる。気が付いた時は万事休すである。近くにはダイエーがあるし、ワンマンだった中川がいい例である。世界戦略で世界の各地に出店するユニクロもそうである。組織に乗つてうまく稼働していることが、即、自分自身の力だと錯覚し、拡大路線をまつしぐらに突進する経営者がいるが、これとて限界がある。適正規模と云う経営観念を忘れると、行き着くところは必然である。ソフトバンクの孫氏も危ない。栄枯盛衰

の流れに気づいたら、先は坊主になるしかないから、それを云つても無理である。大小に限らず、世の中はなかなか思うようにはならない。思うようになるものであれば、オバマだってブーチンだって苦労しないだろう。麻生が投げやりになつて放言するのもむべなるかなである。しかしくら口が滑つたりしても、ドイツのヒトラーに習つたりしてはいけない。世の中、あとさき真っ暗になつてしまふからだ。

山手線の外回りに乗つていつたら、結果どんでもない場所に行つて困惑してしまつたが、おかげで云つていること、書いていることも少々脱線気味に来てしまつた。だから学院前で降りるべき停留場もうつかりして通り越してしまつた。商店街通りの石神井小学校前で降りて、一停留場をバックして歩いて行つた。大した距離ではなかつた。井之頭通りをわたるとすぐに高等学院の正門である。

いていくと立派な校舎が目に入つてきた。以前に来た時よりも雰囲気はだいぶ変わつていたが、大きな櫻の並木道は長く続いて、以前どおりだつた。立派な並木道で、武蔵野の面影を映す貴重な自然環境である。十二時五分過ぎに理事会を行つてゐる会場に入つた。すでに総会前の議事の審議に入つているようで、次期理事長の後任の新理事長の名前が挙がつて決議に参加した。五期生ともなると古参の部類である。勢い余つて出過ぎないようにしないと嫌がられるから慄懾自重していらないといけない。現在のところ六十五期を数えるまでになつて、びつくりした。まだそんな年でもなく、いつもドイツ語で「イッヒ・ビン・アッヘト・ウント・ドライシイッヒ・ヤール」と自分自身に言い聞かせているので、若者と平氣で対等に話したりしているので、頭が剥げになつてしまつていれば仕方がないが、そうではないので今年社会人になつたペイ助に対しても自信満々である。

このドイツ語の意味は「私は三十八歳です」と云う話である。型通りの総会が別に新しく建てられた講堂で行われた。斬新的な設計によるものと学校側は頻りに自慢して強調していたが、全体がコンクリートの打ちっ放しの建築物で、内装も、2メートル四方のコンクリートの板版が壁と天井全面に波打たせて張り付けてあり、なんだか巨大なコンクリートの箱に入れられたような感じで、寒々としている。椅子に座つて総会の審議に付き合つていたら、足元から冷え込んできて次第に体が冷え切つてしまつた。見上げるとその大きなコンクリートの板が落下でもしてきたら大変な惨事となつてもおかしくないと思うほどで、人によつては恐怖感を覚えてくるものである。

隣の友人のT君は建築物に玄人肌の専門家であるが、彼も同じ意見だつた。早く終わつてほしいと願つていたのである。どうせ食事会もあつてごちそうも出ると思つて朝食は軽く済ましてきて、昼めし

もまだ済まないので、時間は2時30分に近い。飲み物も欲しくなつてきた。終わりが近づいてきたので、もう終われという催促の拍手が後ろの方で起つたので、それに合わせて手を鳴らしたら、拍手が大きくなつて総会はその時、閉会に追い込まれた。これこそ余計なことを排除して効率、迅速を旨とする、早稲田式議事進行法である。総会には思ったより多くの校友が出席して、発表によると370余名もいたそうである。閉会して懇親会の用意されている食堂の会場に向かつた。

こんな調子で書いてくると脱線も含めて、いつまでたつても筆が終わらない。坊ちゃんを書いた夏目漱石も、三等重役を書いた源氏鶴太もこんな調子でものを書き稼いでいたのだろう。堅苦しく、もつともらしく政治経済のことを書いて金をとつている商売もあるが、小生の場合はこれを以てしては金を稼げない。稼がないか

ら、つまり人様から金を頂戴しないから思い切つたことが書けるのであり、理解ある友人の云うように純粹だということになる。世の中には口やかましいやつも沢山いるから、それでまた食つている奴もいる。評論家と称する人種である。評論家同志戦わせてショバ代を稼ぐ奴もある。雑誌、新聞、テレビの類いである。それを利用する奴もいる。喧嘩しながら回り巡つて世の中がうまく収まつてゐるのが資本主義である。このバランスと均衡が崩れると、本当の喧嘩になつて世間的な秩序が失われてくる。

世の中的にも、世界的にも通じるところは同じである。向こう三軒両隣、長屋の強い上さん

と、意地悪婆さんの口論から始まつて、オバマとブーチンの電話会談にまで至る対立抗争である。全て金と利益追求で動いてる喧嘩である。マルクスやエンゲルスのように一生をかけて、何も膨大な量の書籍を以てを書かなくても、資本主義の実態を簡単に解説できるというの

が小生流の見解であり論理である。物書きで食つていくには、夏目漱石や源氏鶴太のよう、軽いタッチで触れた書き方が呑氣でいいのではないか。それには経験を積んだ人間ほど、題材や視点が豊富であり、深さがあつて内容に面白さが加わつてくるものである。永井荷風などは豊かな経験を積んで麗筆を以て磨きをかけて書いているので読みごたえがあり、簡単な日記がいみじくもそれを表している。欲で渦巻く世の中だから、そこを中心四方八方に書いていつたら無限の広がりが見えてくるし、想像力の養成もあつて筆は加速されるに違いない。しからば欲とは何か。

人間の本性をたどつていくと欲には限りがないし、欲が無くなることは、死に至る病と考へてよい。逆に死に対峙したものは、生である。生きることそのものであると、認識しなければならない。実存哲学者、ハイデッカーではないが「死に至る病」に付き合つていかなければな

らない。そんな高尚な余裕は私ではない。この際、神経衰弱的思考を払しょくするために、性に対する生々しい欲望の研究に没頭したほうが有益かもしない。さしあたり人間の通俗的欲望の最たるものは金、性欲、名譽欲と云つたところであろうか。この三つの欲望の渦巻く中で、厄介な問題が起きて人間の浅ましい葛藤が続いているのである。欲望は年齢とともに減退していくものだが、個人差があることはもちろん、だから面白いのである。欲のDNAを持ったまま生殖によつて人類が繼承されて、世の中がうけ継がれていくから、何時になつても争い事が絶えないのである。その個人差が、人間の喜怒哀樂をもたらして、生活を面白くさせてくれるものということである。

愚にもつかない話だと永井荷風は墨東奇譚の世界をうろついて、欲望の一つに預金通帳を持ったまま怪死していた。当時としては一般庶民がうらやむような高額の一千万余の残高が打

つてあつたという。節約してひたすら貯めたお金に違いない。貧しい暮らしをしながら、世捨て人のように振る舞いながら、そのように世間から見られたいた荷風も、やはり金が最後まで付きまとつていたことを考えると、マルクスの学説が原則的に正しいことが分かつてくる。

懇親会会場の入り口で、係員から飲み物を進められて小さなカツプのワインをもらつて飲みながら会場に入つていつたところ、僕を探して慌てていた理事の一人につかまつてしまつた。乾杯の挨拶をしてもらいたいと云うのである。承知したといつたものの、すきつ腹に赤ワインをグイッと飲んだ後なので、一瞬、酩酊気味である。しかし元気よく乾杯するには多少の酒が入つて、解放感があつて度胸のついている状態の方がいいかもしれない。参加した諸君たちは喉が渴き腹をすかして待つてゐるに違いない。この際は皆が学院時代の学生になつたつもりで時代を謳歌し、その意氣を大いに盛り上

げてすぐしたい。酒を腹に入れてもらっているので、分かつたと云つてマイクをもらつた。司会者が早速小生を紹介してくれた。司会者にビルをついでもらつたグラスを以て壇上に上がつた。見渡すと広い会場は大勢のOB諸君で一杯で、立錐の余地すらなかつた。

「高いところから失礼します。只今ご紹介頂いた昭和二十九年卒業で第五期の佐々木誠吾でございます。ご指名なので乾杯の音頭を取らせていただきます。ご唱和ください。我らが母校の早稲田大学高等学院が、学問、研究、教育の分野で大いに活躍されんことを。将来のわが学院がますます発展していくことを願い、あわせて満場の諸君の健康と弥栄を祈つて乾杯いたします。乾杯！」と云つて締めたのである。みんなの乾杯の唱和が高らかに会場に響き渡つた。「ありがとうございました」と云つて私は壇上を下りた。



## 情熱の高等学院時代

ば高等学院時代からである。

万人にとつて勉学に励んだ青春時代は、顧みて常に希望と光を与えてくれる。

最近、夢を大きく膨らませてくれた学院時代と大学時代に、限りない憧憬を寄せている学生である。ロマンローランのジャンクリストフのたぎる青春時代に立ち返って、暴れてみたいと思うこと頻りである。しかし周りを見回してみてもその頃の人物は殆どいないし、仲間がいたとしても風采はもとより、気迫が全く変わってしまつて相手にならない場合が多い。人生の舞台装置を新しく変えることができれば、主役は同じであつても多少の良好な効果を以て、人生の舞台を演じることができるものかもしれない。舞台装置を変える技術は、自分自身にかかるので、心身の冷静な準備と判断が必要である。実現の可能性は何とも言えないが、私のジョンクリストフの舞台は、歴史をたどるとすれ

ば高等学院時代からである。

勉学の恩恵に浴して尊敬してやまぬ先生方の多くが、残念ながら既に鬼籍に入られている。一抹の寂寥感を覚えてやまない昨今である。近況を述べるとすれば、ありがたいことに大学で財政学の教授に授かつた平田寛一郎先生、学院でドイツ語の教授に浴した高木實先生のお二人は健在である。多忙に事寄せ普段、疎遠の限りを尽くしていることを恐縮している。平田寛一郎先生は大学でゼミを履修した時の担当教授であつたが、ヒックスの財政策策を中心勉学し、有益な時間を持つことができた。卒業後も親しくコンタクトを続け意氣投合して旅行にも出かけたりした。平田ゼミのOB界である平田会の会長を仰せつかり大きな組織となつて今に至つている。ただし最近は平田会の総会を開かずに入っているが、機会を見計らつてゐるところである。

親しくお世話になつてきた大学の大内義一先

生は五年前に九十九歳で他界された。昭和経済会の月刊誌、昭和経済の巻頭隨筆を三十年間にわかつて書き続けてこられた。青春の氣概を以て若々しく執筆してきた先生であるが、それをまとめた大内義一隨筆集は九巻に及び、その麗筆は世に送られている。大内先生とは千葉の内房の大貫の別荘から釣り船を出して、海釣りにかけたりした思い出がある。先生の叔父にあたる経済学者の大内兵衛の大内コーナーに倣つて、大内義一コーナーを設けて恩に報いたいと思つていたが果たせなかつた。残念である。

学院時代に英語と英文学の教授を賜つた遠藤

壇の選者になつていただきなくなられるまで約十年間にわたり懇切なご指導を願つた。二年前黄泉につかれた。享年九十四歳であつた。英文学者でありながら、一生を俳句の句作に喜びを持ち、俳句の世界を極めていきながら一生を全うされた。学者として教育者として、俳句の大家として尊敬してやまない恩師である。

私はまた短歌の同人に誘われて淵に二十年前に入会したが、その創刊者で主宰者の植田重雄先生は学院時代の先生も務めていたが、授業を受けたことはなかつたものの、同期のクラス会に呼ばれて以来、昵懇を深めた。短歌で交流は一層深まつていつたが、十年前に八十四歳で亡くなられた。会津八一の愛弟子であり、会津八一研究の第一人者である。哲学者として著名な学者であり、幾多の著書も頂いている。現在の淵は私が引き継いで八年以上になるが、植田先生の遺志を継ぎ、又、会津八一の古典的歌風と調べを後世に残していきたいと思っている。

ハイデッカー研究で、実存哲学で教えを乞うた川原栄峰先生の思い出も熱いものがある。第二語学の授業を最初に受けた時の印象が強烈であつた。それ故にドイツ語に多大の興味を以て勉強した。デカルトのわれ思う故に我ありの言葉は余りにも有名だが、これを最初にドイツ語で覚えた。おかげでドイツ語部に入部し、三年生の時には幹事長に就き、部員を百名以上に増やした。その時の部長は藤田赤二先生がつかれた。おこがましいが、ドイツ語で共産党宣言を教材として使つたのも私である。川原先生は哲学者、櫻山欽四郎の子弟に当たるが、青は藍より出でて藍よりも青しで、川原先生は優れた学者であつた。ニイチエ研究の大家であつた。

竹野長次院長は日本文学史の研究者であり、古典についての造詣は右に出る学者はいなかつた。院長の書かれた日本文学史概論を教材にして日本文学を論じたのは長老の都筑省吾先生であつた。寡黙な先生にはおのずと威厳があ

つて、授業には生徒はみな静肅に聞き入つていた。独特な書体を持つて文字を書いていかれたが、歌人であり楓の木を主宰されていて、ご自宅に招かれたこともあり、帰りに歌集入日をサインして贈つてくださいました。文芸論を講じていた浅見淵先生と同様講議の内容は高尚なものであった。浅見先生とは学習もさることながら、佐渡の修学旅行にご一緒して記念撮影をした写真がある。北海道の修学旅行に詠んだ私の短歌を万葉調で味わいがあるねと評してくださいました。斯様に先生方の面影は枚挙にいとまなく近くを思い起すだけでも思い出はつきない。大学に及んでは更に感慨深いものがあつて、書いていいるとあとからあとから話題が浮かんできて尽きないのである。

学園を卒業し、学校と実質縁を切つて私は実業の社会に出たにもかかわらず、むしろ先生方との交流がより深まっていくといつたケースはあまり見かけないと思う。自慢してはいけな

いが、私ほど学園の多くの先生方と昵懇になつてお付き合いをさせていただき、しばしば今自分を振り返つてみて、懐旧の情に浸り、なお感謝して懐かしく思い起こすことができるのを、神様の恵みと導きだと思つてゐる。その裏返しで、寂寥感も無常感も身に覚えることは避けがたい。そうした先生が亡くなつて自分から遠く手の届かないところに行つてしまつたことは動かしがたい現実だが、それをまともとして考えずには、ものは考えようで、若いころの先生方はいまだ健在で身近におられると思つていれば、気持ちも平穏に收まつてくるものである。かくしていつまでも青春の氣でありたいものと念じてゐる。年賀状を初めとして時候の挨拶など慌てて手紙で書いたりしないように注意されねばいい。うつかり出したりすると家族の人も知つてゐるだけに、誤解をされても困つてしまふからである。こうしたことは別に先生に限つたことはない。友人を初めとして沢

山いるはずである。惜しむあまり名簿から消さずに身近なものとして置いておくと、亡くなつたことを本当に忘れて連絡を取つたりするごとだつて無きにしもあらずである。そんなつもりではないと、状況を否定しにかかるつたりしている。

\*

武藏野の常盤の森の中に建つ母校学院の薈れ高きに

素晴らしい施設をそなふ学院の学徒ら道に学ぶすがたも

校庭をめぐりて立てる大けやき目にもあざけく若葉もゆる日

建学の精神にたち実学を得て世にのぞむ若き学徒ら

マルクスの思想に憑かれ活動し姿くらます友の在りけり  
音信の絶えて十年いづくにか若き力を燃やす  
友あり

門に入りうつそと立つ大けやき並木をくぐり至る学び舎

新しき土地に移りて学び舎の榮えのあとを知るもいみじく

懐かしき遠藤、本間、都筑師ら思い出ふかき学

び舎の森若きより氣概の在りし友なれば天衣無縫に振

る舞ふもよし

歩むたび三十八歳と云い聞かせわれは勇みて

胸を張りゆく

大井氏に逢えて恩師らの古き日の姿いみじく

語りあへしは

教え乞ふ恩師のすがた偲ばせる学び舎のみち

今に続けり

久々にあふ友垣に過ぎ去りし面影あるもかす

かなりしに

乾杯の音頭をとりて立つわれに亡き恩師らも

並び立つらし

豪快に杯をかかげて乾杯す○B諸君の健康を

期し

武藏野の林のなかの学び舎を巡りてそよぐ初夏の風かな

石神井てふ鄙地をえらぶ学び舎の教師ら高き理想かかげて

早大のキャンパスに建つ学院を出でし我らが仰ぐ老侯

余が学ぶ竹野長次院長に日本文学史概論を以て夕映えの教室に樺山欽四郎哲学序説の著書をひろげ

敵かな趣きに建つ講堂をじつと見つめる大限老侯名を記し一枚の葉を老侯の花のかしらにそつと置くわれ

愚者もいて賢者もおりて学園の人様さま道に就くよし

仰ぎ見る大限老侯の銅像の久遠の理想をかかぐ面差し

銀行融資増、効果は不確か  
日銀の貸出支援基金

早稲田大学教授  
大村 敬一



日本銀行は2月の金融政策決定会合で、既存の貸出支援基金について今年3月末での受け付け終了を前に大幅な増額と条件の緩和をした上で、1年延長した。市場は好感し、メガバンクは成長融資枠の増額を一斉に発表した。

延長は予想されていたものの、思い切った増額と1年単位ではなく4年契約まで可能とした点は驚きだつた。これで使い勝手が格段に良くなつた。「2倍」のフレーズで「異次元」の強調も忘れていない。マネタリーベース（資金供給量）の目標は維持したままで追加緩和ではないが、波及効果を考慮すれば広義の緩和策ではある。

背景には2013年10～12月期の実質経済成長率が市場予想を下回つたことと消費増税が迫つたことがある。緩和姿勢をアピールしつつ、増税後をみて一層の緩和策を施さなければならない可能性に備えて真打

ち（国債買い入れ増額）を控えさせたのだろう。

市場は2月18日の決定を緩和強化と好んで、為替は一時3週間ぶりの円安に、日経平均株価は450円（3%超）高となつた。ただし、株価の急騰には疑惑がある。「2倍」という表現を、コンピューターによる自動発注システムが大幅な追加緩和と解釈した可能性があるからだ。

結局、株価は20日には2%超下落して当日の上昇分の大半が帳消しにされた。基金の拡充は好感されたものの株価上昇トレンドにはつながらず、決定会合をイベントとする定例の短期的なインパクトにすぎなかつた。市場の関心は次の材料に移っている。

民主党政権時代、当時の経済財政担当相が出席した12年10月の金融政策決定会合で、日銀は政府と一緒に物価上昇率1%が見通せるようになるまで、強力に緩和

策を推進することを約束した。

まず緩和波及経路の第1段階（マネタリーベースの増加）として、既存の資産買入基金（10年10月導入）を増額した。さらに第2段階（マネーストックリ通貨供給量IIの増加）として、新たに「貸出増加を支援するための資金供給（貸出増加支援融資）」を創設し、10年4月に打ち出した「成長基盤強化を支援するための資金供給（成長基盤融資）」と統合して貸出支援基金と位置づけた。マネーストックを増やすための、いわば呼び水効果を期待した。

基金を構成する2つの措置は、貸し出しに積極的な金融機関に対し、日銀が0・1%の低利で資金を供給する。

このうち成長基盤融資は環境・エネルギー関連の研究開発など経済成長につながる対象に限定した政策融資である。日銀の審査が必要なこと、1行当たり1500億円が上限

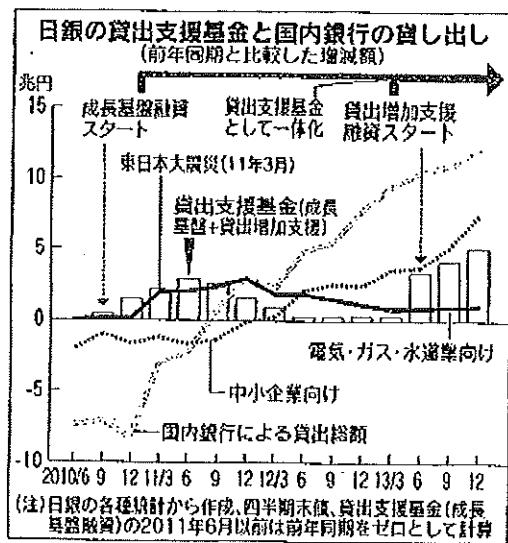
で1年単位だったことに当初は大手行から多少の不満もみられたが、18の成長分野を対象とするなど間口は広い。

他方、貸出増加支援融資は金融機関の直近四半期の貸し出しの增加分と同額を、対象を問わずに無制限に融資するものであり、期間は1、2、3年単位で最長4年だった。貸し出しの純増は企業・家計向けならば、外貨建てでも在日外銀支店でもよい。

今回、成長基盤融資は本則の貸出枠を3・5兆円から7兆円に倍増し、1行当たりの上限も1500億円から1兆円に引き上げた。貸出増加支援融資は金融機関への融資上限を貸し出し増加の相当額から、増加分の2倍に拡大した。拡充は過去の実績を評価したと解釈できる。公開資料で多少の検証をしてみよう。

図は貸出支援基金と、国内銀行貸し出しの前年同期比の推移を示す。貸出支援（棒グラ

フ）では10年から始まる緩やかな山と13年6月に突然隆起した山がある。前半の山は成長基盤の単独部分で、後半は貸出増加支援が追加された部分だ。他方、銀行の貸出総額は11年3月に急速に持ち直し、9月にプラスに転じた後は増加を続けている。



3月11日の東日本大震災後、日銀は被災

地金融機関の支援のために低利融資枠（1兆円）を設定し、成長基盤融資の枠を拡大した。震災後の一定期間、支援融資に相当する額が電力会社に注ぎ込まれた。電力を含む電気・ガス・水道向け融資の伸びが、貸し出し全体の転機になつた可能性がある。また、貸出総額は中小企業向けとの相関が高く、中小向けの回復がかなり寄与したことがわかる。

では13年6月に始まつた貸出支援基金は期待した効果をもたらしたのだろうか。貸出総額はそれを契機に増加したようにはみえない。基金転換前の1年間の増加額は2000億円台で推移しており、6月にいきなり3兆円超に急拡大したが、貸出総額はそれ以前から無関係に増えている。6月以降はともに増加しており、効果は否定できないものの、基金は多少後押しした程度とみるのが素直ではないだろうか。少なくとも貸し出しを急

増させたとはいえない。

これには重要な示唆がある。すなわち、初期の成長基盤融資は貸し出しが増加する転機となつた可能性はあるが、基金への転換後は他の要因による自生的な貸し出し増加が貢献するパターンとなつており、効果は定かではない。従つて今般の基金拡充は過去の実績を踏まえた決定というより、「異次元緩和」のショックを持続させるための時間稼ぎだったことになる。

企業には有利な事業機会が少ない。上場企業の40%程度は実質無借金なので外部の資金需要も弱い。銀行も貸し出しに消極的で、潤沢な資金を日銀当座預金に放置している状態だ。景気回復の見通しが立たない限り、低利の融資枠が2倍なら貸し出しも倍増するということにはならない。

金利0・1%での国定金利オペ（公開市場操作）で札割れ（日銀が計画通りに資金を供

給できない状況）が起きていることからすると、銀行にとって、この資金コストで資金需要があるかどうかは定かではない。銀行が消極的になっている理由が信用リスクだとすると、やはり実体経済の回復が不可欠だ。

ただ、悲観ばかりではない。今後物価上昇が進行し名目金利が上昇する局面が十分予想されるが、そうならば基金を利用した低利固定4年の貸し付けは銀行だけでなく企業にとつても魅力的だ。

基金は今回の改定で使い勝手が一段と良くなつたので多様な形で利用できる。最近拡大しているM&A（合併・買収）資金にも活用できる。低利固定の住宅ローンは家計への恩恵が大きい。外貨建て低利資金は銀行の東南アジア進出や企業による海外での買収にも利用価値が高い。

日銀は貸し出し増加に熱心だが、それにしても、銀行を甘やかし過ぎていなかろうか。

リスクを賭して果敢に貸し出すとか、優良企業を発掘・育成するとかならば優遇に賛成もできるが、今回の措置は「何でもいいから」貸し出しを増やしたら褒美をあげるというようなインセンティブ（誘因）方式だ。

臆病になっている銀行に何とか貸し出しをさせるためとはいえ、長期的には銀行のモラルハザード（倫理の欠如）を助長し、その体质をいつそ脆弱なものにしそうである。金融監督が厳格だからこそますます「アメ」にみえるが、国債の大量保有で預証率（頭金残高に対する有価証券の保有額の割合）がなお高い銀行に、本業回帰の機会を迫つているようにもみえる。

慶應大博士課程修了。専門は金融論

大  
学  
フジタ

## 次の「3本の矢」

靖国・歴史と集団自衛権

安保議論は情緒抜きで

放送大学教授

御厨 貴



「3本の矢」といえば、誰でもアベノミクスを思い起こし、「第3の矢である成長戦略にめぼしいものがない」などと語る。「では、もう一つの3本の矢は?」と聞けば、おそらくキヨトンとして「何それ?」と宣うに違いない。

いや、安倍政権は、昨年末からこの3か月というもの、実はもう一つの3本の矢のフェーズに入っているのだ。

それは「靖国参拝」「歴史認識」、そして「集団的自衛権」にほかならない。経済のアベノミクスに対して、これこそが政治価値といデオロギーに関する“アベノポリティクス”と言うべきものだ。

一昨年の内閣発足以来、安倍首相はひたすらアベノミクスに専念し、アベノポリティクスの封印を解くことはなかつた。たまに勢い余つた発言が出ても、せいぜいのところ衣の下の鎧にとどまつた。

アベノミクスは、3本の矢が順次発射される3段ロケットとして構成された戦略であった。だから連續性について極めて分かりやすい。これに対してアベノボリティクスは、3本の矢の相互関係が必ずしも明確ではない。3段ロケット戦略のような連續性に乏しいのだ。もちろん安倍首相の思考枠組みの中では、この三つが連動して作用してこそ「失われた日本を取り戻す」ことになるのだろうが。

昨年末、国家安全保障会議（日本版NSC）設置法と特定秘密保護法の成立に自信を得た安倍首相は、ついにもう一つの3本の矢の封印を破り、12月26日に靖国神社参拝を果たした。案の定、これを機として日本をめぐる国際情勢は悪化した。中国、韓国のみならず、米国までが「失望」と述べたことに明らかである。

もつとも、安倍首相自身はこうした批判も

織り込み済みだったのではないか。しかも、日本の世論は逆に反応した。内閣支持率は下がらず、若年層には「なぜ日本の首相が靖国神社を参拝することに、他国がとやかく言うのか」「それは内政干渉だ」とする文脈から、中韓や米国に反発する機運が出てきた。これは歴史的無知のなせる業ではない。歴史を理解したとしても、彼らは気分として納得できない。始めに「内政干渉」ありきなのだ。だからと言って米、中、韓への反発が安倍首相の「靖国参拝」そして「歴史認識」の肯定と連鎖するわけではない。そこは微妙なところだ。

とまれ、50%を超える内閣支持率の維持が、この後のアベノボリティクスの展開を支えた。NHK会長人事、経営委員人事において「歴史認識」に火が付き、さらに、首相補佐官や自民党総裁特別補佐らも続々と「靖国参拝」「歴史認識」に加担する声をあげた。

発言を撤回した人もいるが、その人の認識そのものが変わらうはずもない。されば、米、中、韓の日本不信もなかなか消えない。

こうした中で、第3の矢として政治のフロンティアに浮上したのが「集団的自衛権」である。野党や一部メデオアはもとより、与党の中にさえ慎重論がめばえてきたのには、第3の矢それ自体というよりも、第1、第2の矢が醸し出した状況への不安があるからだ。

そのあたりに、今の日本に必要な集団的自衛権を行使できるようにするため、安倍首相がどんな見通しを持つてやっているのかという疑惑がわく。そもそも、昨年夏の内閣法制局長官の人事がそうだった。外務省の局長出身者の就任自体は異例ではあるが否定されねるべきものではない。しかし、内閣法制局が戦後政治の流れの中で他の官庁よりも先例的価値に寄り添い、歴代長官を参与にとどめ、先例の確認を繰り返す特異な官庁と化し

た事実の意味は重い。長官人事一つで先例を変えるのは至難と考え、他の人事にも手を入れ、組織改編をするくらいの見通しを安倍首相は持つべきだった。最近の小松一郎内閣法制局長官の言動の迷走ぶりは、象徴的にも思える。

かくて、「集団的自衛権」はそれ自体として中身の議論を冷静に行うというよりは、情緒的議論として展開される場面が多くなっている。そうした展開は安倍政権の本意ではないはずだが、安倍首相自身は「集団的自衛権」を他の二つの矢と切り離さず、三位一体ならぬ3矢一体で乗り切ろうとしているようにも見える。

米ハーバード大のジョセフ・ナイ教授が「『集団的自衛権』には反対しない。『靖国参拝』『歴史認識』とのパッケージ包装に反対する」と述べているのも、そうしたやり方への懸念の現れだ。安倍首相にしてみれば、

パッケージをほどいたならばアベノポリティクスは崩壊してしまう。むしろ、内外に生まれた不安と不信の連鎖状況という緊張感の中にこそ自らを賭ける出番があり、3本の矢を束ねていくことができる。安倍首相は考へているのではないだろうか。

安倍首相は今の通常国会での答弁で、第1次政権以来の封印を解き、「戦後レジームから脱却」に触れて「戦後レジームから脱却して、（戦後）70年がたつ中で、今の世界の情勢に合わせて新しいみずみずしい日本をつくっていきたい」「日本は平和国家としての道を歩み続けてきたが、憲法 자체が占領軍の手によつて作られたことは事実」と訴えている。実は、戦後レジーム、とりわけ占領体制に現実に直面した人の多くが、この10年で世を去つた。大正一ヶタ世代だ。

後勝田正晴元副総理、宮沢喜一元首相といった政治家は、占領行政の中で筆舌に尽くし

がたいほどの対米屈辱感を現実に味わつてゐる。そして対米屈辱感という現場の記憶を通したればこそ、占領後の「平和論」「親米論」「抑制的権力論」が常に複層的な議論を構成することになった。しかも、大正一ヶタ世代は後の世代まで拘束しないとして、自らの世代とともに自らの発言をフェードアウトさせていった。紛れもない戦後世代として、安倍首相は彼らの議論や行動をどう受け止めているのだろうか。

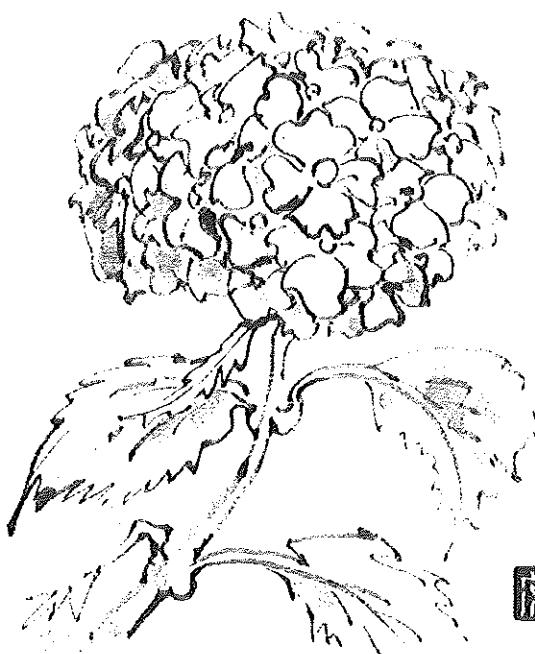
安倍首相の国家的価値とイデオロギーへの挑戦は、今後も続くであろう。そこで、安倍首相の靖国神社参拝で「もう一つの3本の矢」の封印が破られる直前に、やはり占領体験を実感した天皇陛下のメッセージが発せられたことに注目しておきたい。昨年12月23日の天皇誕生日に際して行われた記者会見で、80年の生涯を振り返つてのお言葉だ。

「戦後、連合国軍の占領下にあつた日本は、平和と民主主義を、守るべき大切なものとして、日本国憲法を作り、様々な改革を行つて、今日の日本を築きました。戦争で荒廃した国土を立て直し、かつ、改善していくために当時の我が国の人々の払つた努力に対し、深い感謝の気持ちを抱いています。また、当時の知日派の米国人の協力も忘れてはならないことだと思います」

歴史に関する含みある表現に、様々な感慨がわいてこよう。

2012年から放送大教授。内閣府公文書管理委員会委員長。専門は日本政治史。公人へのインタビューによつて現代史を検証・記録する「オーラル・ヒストリー」の第一人者。

御厨 貴



作品 関根常雄

## ウクライナ緊迫

国際秩序 変動の危機  
米露の綱引き 見極めよ

明治大学特任教授  
山内 昌之



第1次世界大戦の勃発から2014年7月で1世紀を迎える。時あたかも今年に入つて、20世紀から21世紀にかけて東欧から中東に成立した国際秩序の枠組みを否定する、大きな動きが生じている。独立主権国家ウクライナの一体性を脅かし、クリミアの分離統合を図るロシアの動向である。

ウクライナをめぐる米欧とロシアとの緊張は、国際政治の中心的争点となつた。その結果、シリアの内戦やイランの核問題といった中東の危機はひとまず影が薄くなつた感もある。

しかし、ウクライナ問題は、その国内の混乱にとどまらず、ロシアから欧洲・中東にまたがる地政学的紛争につながり、ポスト冷戦とソ連解体後の国際秩序の変動をもたらしかねない。

ロシア帝国がオスマン帝国領内の正教徒保護を大義名分に内政干渉したクリミア戦

争からもおよそ160年がたち、第2次世界大戦の主要軸となつた独ソ戦から70年ほどが経過している。歴史の節目ともいえる時期に、戦争の講和や革命の結果によつて確定した国境の線引きを否定し、独立国家の領土主権とその実在に異議を唱える動きが公然と生じたことは、偶然とばかりも言えない。

「歴史は繰り返す」と述べたのは、古代ローマの歴史家クルティウス・ルフスらしい。また、「歴史から学ばぬ者は歴史を操り返す」とは、イギリスの政治思想家エドマンド・バークの言葉である。

ウクライナやシリアだけでなく、東シナ海や南シナ海でも、力の論理をルールとする國家の政治姿勢が見てとれる。歴史から教訓を引き出す仕方は無数にあるらしい。

ボリシェヴィキの暴力と恐怖政治の感覚を清算しきれていないロシアは、ウクライナの主権を侵害し、華夷思想と毛沢東主義の自

己中心的イデオロギーをけれんもなく露出する中国は、周辺諸国への砲艦外交じみた動きを隠さない。この流れにオバマ米大統領の責任は皆無とはいえない。

実際に、ウクライナに近いポーランドやバルト3国などの東欧と、サウジアラビアをはじめとする湾岸協力会議加盟国などのアラブ中東では、オバマ氏のロシアやイランに対する外交への不信感が広がっているだけではない。理想と現実を混同し、手段を目的に換えがちなオバマ政権の独特な政治手法にも困惑している。

オバマ氏は「シリアで市民大量虐殺のレッドラインを超えるべば軍事干渉する」と高言したにもかかわらず、ロシアと妥協し、問題を化学兵器の国外持ち出しにすりかえた。結果としてアサド政権の存続を容認し、シリア市民の苦しみを長く放置することになつていい。

かつてロシアのブーチン大統領は、米軍のシリア攻撃を国際法と秩序のバランス崩壊につながるとし、国連安全保障理事会による問題解決を優先すべきだと主張した。だが、その彼がクリミアの独立やロシア併合に疑問を呈する安保理に従うとは思えない。

他方、中国の習近平氏は、シリアに続きウクライナでもオバマ氏がいかに振る舞うかを息をこらして見るだろう。ウクライナ保護のために実効性のない形式的制裁に終始するなら、オバマ氏は国際関係の現状変更を望む国に寛大だというサインを送ることにながる。

中国による防空識別圏の設定と前後して北京を訪れたバイデン副大統領は、習氏にさしたる異議も唱えなかつた。諜報分析の専門家ブーチン氏は、尖閣諸島や西沙諸島を巡る中国の行動と米国の反応を凝視したである。オバマ政権が中東とアジアの同盟国に冷

淡だつたことは、ブーチン氏と習氏にとつて満足すべき教訓となつたに違ひない。

ウクライナとシリアと東・南シナ海を巡る紛争は、米ソ両超大国が戦略的に恐怖と平和の均衡状態にあつたグローバルな冷戦構造の復活ではない。中国が尖閣や西沙から西太平洋を見はるかすアジア太平洋国家として霸権を求め、ロシアがユーラシア国家としてエネルギーや安全保障の面から米欧を揺さぶるのは、さしあたり地域霸権国家としての自己確立である。だが中露の動きが危険なのは、グローバルにアメリカと対峙したい衝動もある中、米国がグローバルな責任を最小化することで力の真空が一部で起きているからだ。

ブーチン氏が黒海艦隊基地のあるクリミアの独立やロシアへの統合を図るのは、ロシア系住民を保護するためだけでない。小著『中東国際関係史研究』でも触れたように、

黒海と地中海の海域と、カフカスから中東に至る陸域は、19世紀の東方問題（オスマン帝国内の紛争）とクリミア戦争以来の安全保障の外郭線であり、南下の基盤を強化するのが伝統的なロシアの中東戦略の核だつたらだ。

ロシアがチェチエン戦争やグルジア紛争だけでなく、軍港をもち武器を輸出してきたシリアで米欧に屈しなかつた理由は、この文脈で理解すべきであろう。

ロシア国家ゆかりの地であるキエフを「魂の故郷」と考えるロシアにとって、ウクライナはグルジアやシリア以上に複雑な歴史の綾をもつ。それは、ドニエプル川を挟んで東西に分けられるウクライナの geopolitics 的特性と関連している。

西ウクライナは米欧に親近感をもつカトリック文化圏であり、スターリン体制下のウクライナで生じた600万の餓死者の大半

も西部の住民であった。他方、ロシア語とウクライナ語を併用する正教文化圏の東ウクライナ住民は、強制収容所や反ナチ抵抗で命を落とした670万の犠牲者の大多数を占めている。

要は、東西で異なる歴史を持つウクライナの枠組みそのものが、革命と戦争の犠牲や冷戦の悲劇を体現しているのだ。

米欧による金融や貿易取引での制裁に対し、ブーチン氏が切る逆カードはガスの供給中止であり、これはドイツや東欧の産業や市民生活に打撃となる。他方、ロシアは、グルジアから離れたアブハジアや、南オセチア、モルドバから自立した沿ドニエストル共和国のように、クリミアを国連非加盟の国家とすることを妥協を狙うかもしれない。

自国への統合を断念する場合、ブーチン氏はオバマ氏にシリアで代償を求める可能性も否定できない。オバマ氏も、アサド政権の

市民抑圧やイランの影響力増大にもまして、反政府運動内部のアルカイダ系の集団に危惧を抱いている。両首脳は、シリア国家の枠組みを壊さずにテロ集団を排除する点で利害が共通する。遺憾ながらシリアではアサド政権かその亜種が存続する可能性が高くなる。

日本は、オバマ、ブーチン両氏の対決と妥協のポイントを凝視しなくてはならず、ウクライナ問題で気早に過剰関与する危険を避けるべきだ。あえて言えば日本の立場は、「じっくり観察せよ、そして時機を待つべし」ということになろうか。4月のオバマ訪日はその時機であり、日米同盟を強化すべき重要なモメント（契機）にもなるだろう。

カイロ大客員助教授、ハーバード大客員研究員、東大教授を歴任。東大名誉教授。最新署に「中東国際関係史研究」

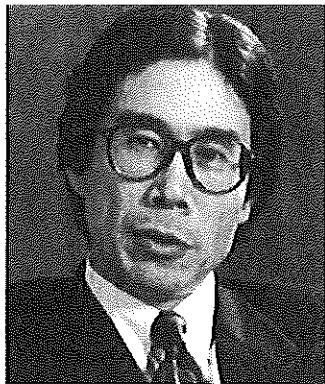
山内　和也

## 〔時局論壇〕

国際的人材育成の機会に  
M&Aを考える

一橋大学教授

伊藤 邦雄



「日本の大企業はアジアをはじめ世界市場でNATO軍と揶揄（やゆ）されています」。先日会った、世界に挑み実績を上げつつある若手ベンチャー経営者の言葉である。「NATO」とは「ノー・アクション・トーク・オブリリー」の略だ。日本企業は海外で調査やヒアリングばかりして、リスクに挑む行動を起こさない。「このままでは世界の変化についていけない」との危機感が込められている。だが、こんな危機感を吹き飛ばすかのような事象が起っている。日本企業による海外企業の大型買収である。一月十三日、サントリーホールディングスが、「ジムビーム」など世界的なブランドをもつ蒸留酒メーカーの米国ビーム社を約1・65兆円で買収すると発表した。これはソフトバンクによる米スプリント買収に次ぐ規模である。サントリーは蒸留酒で世界十位から三位に躍り出る。とはいって、今回の買収劇は唐突なものでは

ない。サントリリーは近年、海外の飲料会社を数度にわたり精力的に買収してきたからだ。その意味で、今回は戦略ストーリーの一環といえる。

\* \* \*

かつてM&A（合併・買収）が苦手といわれた日本企業も、今日ではM&Aを重要な戦略として位置付けるようになった。とりわけ最近、海外企業を対象とした大型買収が相次いでいる。推移をみると、2000年代後半に海外M&Aが顕著に増加している。12年には金額ベースでリーマン危機前の水準に戻り、件数ベースではピークに達した。13

年は急激な円安に振れ、海外企業の買収には逆風となつたが、高水準を維持している。

近年の海外買収の背景には、高齢化・人口減による国内市場の成熟化に伴い、成長の機会をアジアなどのグローバル市場に求める動きがある。また、手厚い手元流動性の有効

活用、低金利による買収資金の調達コストの安さなども、そうした動きを加速している。海外だけでなく、国内に目を轉じても、最近は戦略的に賢い買収が見られる。昨年12月、セブン&アイ・ホールディングスはカタログ通販大手のニッセンの買収を発表した。セブンのかねての課題はネット通販であり、一方でニッセンにとってはセブンの膨大な顧客基盤と多彩な品ぞろえが魅力だ。その意味でシナジー（相乗）効果が期待される組み合わせだ。内需をさらに取り込もうとする、海外買収とは対照的な戦略といえる。

\* \* \*

振り返ると、その時は華々しく取り上げられた大規模な海外買収も、その後の軌跡をたどると回復不能なほどの大蹉跌（さてつ）や困難に直面し、競争力を劣化させた例が少なくない。M&Aはまさに競争力を強化するか劣化させてしまうかの「分水嶺」ともいえる。

以下、海外買収を想定しながら、陥りやすい罠（わな）と、それを回避し成功に導くための留意点を論じてみよう。これらは程度の差こそあれ国内M&Aにも相通ずる。

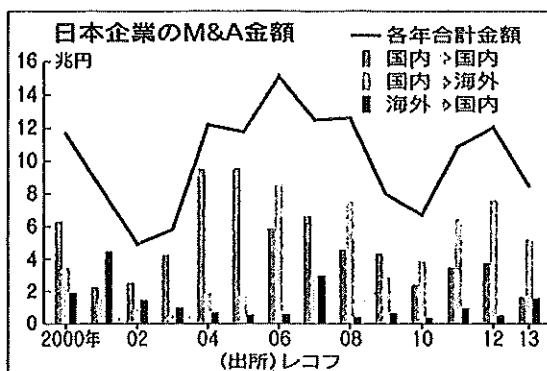
最近、連続して海外企業の買収を成就した日本企業に共通する興味深い特徴がある。それは買収した企業で働いていた外国人の経営スタッフを、その後のM&A候補の探索・選定や交渉に活用している点である。

彼らは日本企業のスタッフと比べて情報収集力、コミュニケーション能力や交渉力にかけており、その意味でグローバル人材でもある。買収された企業の人材を上から目線ではなく、貴重な無形資産として存分に活用するのである。また、日本の本社人材をそうちたM&Aチームに入れることで、グローバルな経営感覚や交渉力を体得する機会を与えることができる。

M&Aは買収候補の探索から始まる。「欲

しい会社がいつ売りに出るかわからないし、また欲しい会社でないのがボツと売りに出てくるので、M&Aは難しい」という声をよく聞く。つまり、M&Aには「運」の要素が大きい、といふわけだ。

買収の際には探索などに投資銀行やコンサルタントを利用することが多い。日本企業は海外買収の絏験が乏しい



ため、社外の専門家を利用するものが通例である。日本企業にはM&Aの専門家が社内に決定的に不足しているからだ。

しかし、今後は再考の必要がある。先の買

収先の戦略スタッフの活用もその有効策だが、普段からM&A専門チームを社内に設け、日ごろから買収戦略を緻密に練つておくことだ。売り物が出てから泥縄で検討するのではなく、あらかじめ買収先候補を精査しておくことである。

要は、自前のM&A部隊や専門家を育成し、自社内にノウハウの蓄積を図るべきである。外部のコンサルタントに頼りすぎず、むしろ買収先が絞り込まれてから企業評価などの局面でコンサルタントを活用すべきだ。

成長を目指した買収戦略は見方を変えればリスク戦略でもある。リスクをいかに最小化するかが問われる。潜在的なリスクの一つは、買収に際して発生する「のれん」である。

のれんは、買収額が純資産額を上回る分の差額であり、買収される側の企業のブランド価値や将来利益にあたる。買収先の業績が予想に反して低落すれば、のれんの減損を迫られる。

減損額が大きければ、大きなダメージを受ける。最悪のシナリオをも想定し、そのインパクトを予測しておくことも必要である。いわゆる「ストレステスト」を実施しておくべきだ。例えば、自己資本との関係でどこまで悪材料を吸収できるかをシミュレーションしておくのである。この点で、サントリーの今回の買収は巨額ののれんを発生させ、同社の自己資本の規模との関係で潜在的に大きなリスクをはらむ。

こうした視点は買収価格の決定にも有効である。どこまでプレミアム（買収先企業の株価に対する買収額の上乗せ分）を引き上げられるか、ストレステストを勘案しながら判

断するのだ。M&Aには「勝者の呪い」というものがある。買収合戦に競り勝った企業が、シナジーの過大評価により割高なプレミアムを支払ってしまうことを言う。「呪い」を回避するには、買収側の経営陣が自社のシナジー創出能力を楽観的に過大評価しないことも大事である。

買収後に決まって悩む問題が、ガバナンス（統治）の一環としての現地の経営人材の処遇である。かつて買収先の経営者に遠慮し、全面的に権限を委譲したがゆえに、あるいは逆に現地の経営に干渉しすぎたがゆえに挫折したケースは枚挙にいとまがない。買収先の経営人材の能力を早く見極め、現地の経営を取り巻く状況を精査した上で、適切と思われるガバナンスの型を確立すべきである。

かつてソフトバンクの孫正義社長は、買収した企業で「融和」を重んじ当初は「ノー」と言わなかつた。だが、その危うさに気付き、

その後は不退転の覚悟で言うべきことはハッキリと主張する姿勢に改めることで買収を成功に導いた。M&Aには集中的な「学習」が必要である。

\* \* \*

M&Aは「多文化マネジメント」を迫られる。買収とは多かれ少なかれ自社とは異なる文化をもつ企業と密に「つながり」をもつことである。海外買収はとりわけその色彩が濃い。M&Aを自社のグローバル人材育成の貴重な機会として有効活用すべきだ。サントリ一の今回の大型買収劇が、日本企業の人材育成を含めたグローバル経営への本格的な一步となることを期待したい。

—橋大博士。専門は会計学、企業経営論、企業評価論

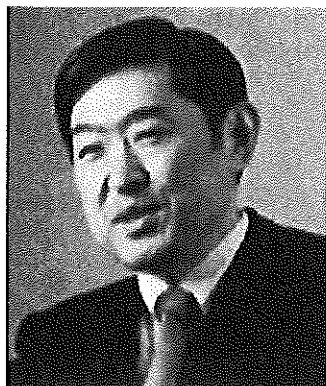
手稿  
平成  
秋

## 南スーザンPKO

自衛隊の活動 制約に疑問

国際大学 学長

北岡 伸一



日本は国連南スーザン派遣団（UNMISS＝UN Mission in South Sudan）に自衛隊を派遣している。そこで昨年以来、いくつかの問題が生じている。今のところ、さほど大きな問題ではないが、背後には国際関係と国際法に関する世界と日本の考え方の大きなずれが存在している。そのずれは是正しなければならないというのが、本論の趣旨である。最初にUNMISSについて簡単に触れておく。

スーザンには、北にアラブ系で主に遊牧を生業とするイスラム教徒、南にアフリカ系で農耕を生業とする非イスラム教徒が住んでいる。元来、一つの国にするのは無理なのが、植民地時代からの成り行きで、一つの国として独立した。しかし北の方が強く、南は長年搾取されてきたため、南北で長い内戦が続き、ようやく2004年12月に南北和平協定が成立し、05年3月、安保理決議15

90により、国連スーザン派遣団（U.N.M.I.S.=U.N. Mission in Sudan）を派遣することになった。私の国連大使時代に経験した、最もスリリングな決定の一つだった（スーザンでは西部のダルフールでも紛争があり、そこにも国連はPKO=平和維持活動を派遣しているが、省略する）。

やがて、南スーザンの住民投票による独立（十一年七月）とともに、UNMISは終了した。代わりに、やはり地域の平和と安定のため、UNMISSが設立され、自衛隊はアフリカへの最初の本格的PKOとして施設大隊約400名を派遣している。

私は国連大使時代の06年と一昨年の2度、視察に行った。首都ジュバでも舗装道路はほとんどなく、幹線道路も雨が降れば泥沼となり、3階以上の建物はまれだ。しかし、独立を勝ち得た国民は、将来を見据えて努力している。教育に対する関心も高い。日本の国際協力機構（JICA）の職員なども立派な活動をしており、こういう場所にこそ自衛隊を派遣したいと、06年より私は考えていた。

さて、最近の問題とは次の通りである。まず十二月二十二日、韓国軍に自衛隊の弾薬を提供してほしいとの依頼があり、日本政府は慎重な検討の上に、応じた。韓国軍において弾薬不足の懸念が生じたのはうかつだとしても、自衛隊よりも危険なところに派遣されているので、予想以上に緊迫していたのなら、やむを得なかつたのかもしれない。依頼は国連に對して行われたものの、直ちに供給できるのは韓国軍と弾薬が同じ自衛隊であることは明らかだったので、日本への依頼と同じである。現場では韓国軍から謝意が表され、スマーズに事は運んだ。ところが、韓国国内では、独特的対日感情から、素直に謝意が表されることはなかつた。妙な話ではあるが、

日本は大人の対応をして淡々と実務的に処理した。

\* \* \* \*

それはよかつたが、日本国内でも革国軍への弾薬供給に批判が起きた。そもそもPKOの枠内の行動である。弾薬の供給くらい、ごく事務的に処理すべきものだ。そういうことを重大視する方が不見識である。

最近起こつた問題の第一は、同じ頃、南スレダンの政情不安に関して、一部に自衛隊の撤退を考える人がいたようだということである。これまた非常識な話で、多くの国が軍隊を出している中で、最も安全な場所にいる自衛隊の撤退など、あり得ない。それは他国の軍隊にも、全体としてのUNMISSにも悪影響を及ぼす。何よりも、ようやく独立を勝ち取り、国づくりを進めようとしている国に、

そのお手伝いをしようと派遣した自衛隊が、ちょっとした政情不安で引き揚げるなど、考えられない。

国連では十二月二十四日、兵力の増強が決定され、自衛隊引き揚げ論は広がらなかつた。積極的平和主義を唱える安倍内閣が、そのような懸念に深くつきあわなかつたのは賢明であり、当然のことであつた。

問題の第三は、国連からのパキスタン部隊や武器の輸送依頼を断つたことだ。

一月十四日に菅官房長官が明らかにした。他の軍事行動と一体化する「恐れ」があるということらしい。

なぜこうした議論が生じるのだろうか。

従来の内閣法制局の解釈では、①日本は集団的自衛権を行使することが憲法上できない②つまり、他国が攻撃された場合、軍事力を用いてこれを助けることはできない③のみならず、軍事力を用いなくとも、他国の軍

事行動と一体となるような行動はできない（一体化論）——となつてゐる。従つて、PKOで他国の部隊が危険に陥つても、これを救援するのは、一体化の「恐れ」があるから、してはならないという。

しかし、困つてゐる他国の軍隊に武器弾薬を供給したり、輸送に協力したりすることに、どんな「恐れ」があるのでらうか。むしろそういうことをしないことで、他国の軍隊が危険に陥つたり、PKO活動が窮地に陥つたりし、そのことで日本に対する国際社会の信頼が著しく低下する「恐れ」の方はどうなるのか。

一般に、あることをすることにも、しないことにも、どちらにもリスクがある。消費税率を上げれば景気後退の恐れがあるが、上げなければ日本政府の能力に国際社会が疑問を感じ、国債が暴落する恐れがある。一面だけを取り上げることは不適切である。それな

のに、安全保障の問題では何かをすることのリスクばかりが語られ、しないことのリスクは語られない。一方だけを取り上げ、「…する恐れがある」という言い方は、なるべく避けるべきだ。

ところで、上記の法制局解釈は甚だおかしい。

憲法9条1項は、国際紛争解決の手段として軍事力の行使や威嚇をすることを禁じている。内閣法制局はこの「国際紛争」を、紛争一般と解しているが、これは日本を当事者とする紛争と解すべきである。

憲法9条は突然出来たものではない。第一次大戦前後から戦争を禁止しようとする動きがあり、一九二八年には国策の手段としての戦争を禁止するという内容の不戦条約（ケロッグ・ブリアン条約）が成立している。ところが、後に日本が満州事変は事変であつて戦争ではないなどと主張したため、より厳格

に、自衛以外の軍事力の行使を禁止することになつた。それが国連憲章であり、日本国憲法9条1項である。

また、9条1項が禁止する「武力の行使」は国家による戦闘行為である。PKOで必要になるのは、せいぜい自己防衛や任務達成のための武器使用であり、「武力の行使」ではない。二重の意味で、集団的自衛権の行使につながる恐れがあるという理由でPOKを制約するのはおかしい。

以上は、集団的自衛権に関する日本の解釈が世界標準とずれており、日本の活動を著しく制約していることの一例にすぎない。問題は他にもたくさんある。これらについて、私が座長代理を務める「安全保障の法的基盤の再構築に関する懇談会」は、四月にも提言を提出したいと考えている。国民各位の真剣な議論を期待したい。

2012年10月から現職（兼務）。04年  
から06年、国連大使。12年3月まで東大  
教授、同4月から政策研究大学院大学教授。  
専門は日本政治外交史。

## 尖閣と米国

朝日新聞

ワシントン支局 大島 隆

尖閣国有化 必要なのか

クリントン氏が野田氏に迫る

ペットボトルの水とグラスが置かれた細長いテーブルを挟み、野田佳彦首相とクリントン米国務長官が向き合った。

「本当に国有化する必要があるのですか」。

クリントンは目を見開き野田に迫った。二カ

月前に野田政権が国有化方針を打ち出した

沖縄・尖閣諸島のことだ。二〇一二年九月八

日。ロシア・ウラジオストクで開かれたアジア太平洋経済協力会議の会場で二人は会談。

オバマ政権は当初から、日本の方針に複雑な思いを抱いていた。その年の七月八日、東

民主党大会に出席したオバマ大統領に代わり、クリントンが代役として臨んだ。

「国有化後にどのような見通しを持つているのですか」。クリントンはたたみかける。

野田は外務省が用意した応答要領に目を落としながら説的した。東京都より国が購入したほうが島の安定した維持管理ができること、現状を先に変更したのは中国であること。

だが、クリントンらは納得しているように見えなかつた。その日夜、夕食会で、会談に同席した長島昭久首相補佐官とギャンベル国務次官補が話し込んでいた。米側のただならぬ雰囲気に、長島は改めて日本側の考え方の説明に追わられた。

相談なく不信感

京のホテルオークラの一室。「それが最善の策なのですか」。キャンベルは長島に聞いたとしていた。前日の七日、朝日新聞が尖閣諸島国有化の計画を報じ、野田も正式に公表したばかり。報道まで日本側からキャンベルら高官が何も知らされていなかつたことも、米側の不信を募らせた。

「中国の理解を得ている」というのが日本の説明だったが、「我々は率直に言つて疑つていた。正確ではないと思つていた」とキャンベルは話す。キャンベルと部下二人は外務省アジア大洋州局長の杉山晋輔にも別途会つたが、杉山も一定の理解は得られる、との感触を口にした。米側は内心で首をかしげた。

#### 日中対立を懸念

長島は、「代替策はないのか」と迫るキャンベルの言葉から、米国のメッセージをこう

解釈した。我々は、日中の衝突に巻き込まれたくない。一方キャンベルは、当時の米側の視線をこう振り返る。「我々は『巻き込まれたくない』と言つたことはない。心配していたのは、日中関係にこれから何が起ころかを、日本が理解していないということだつた」

！尖閣諸島の国有化以降に激化した日中の対立は、二〇一四年も続く。中国の防空識別圏設定、安倍晋三首相の靖国神社参拝など日中両国の動きを米国も注視する。東アジアを覆う緊張の大きな起点でもある尖閣問題を、米国はどう見つめ、行動してきたのか。日米間の動きを中心に検証する。

#### 久場島への標識米は拒否

「反対」という言葉こそ口にしなかつたもの

の、米国の大統領オバマ政権はぎりぎりまで、日中の衝突を避けようと動いた。

「単に東京都が島を購入することは違法だと言うだけではダメなのか」。米側がこんな働きかけをしたこともあつたが、都の購入に法的な問題はなかつた。

二〇一二年九月十一日、野田政権は魚釣島、北小島、南小島の三島を購入する契約を地権者と結んだ。

急速に日中の緊張が高まる中、日米の間でもいくつかの動きが同時並行で進展していく。

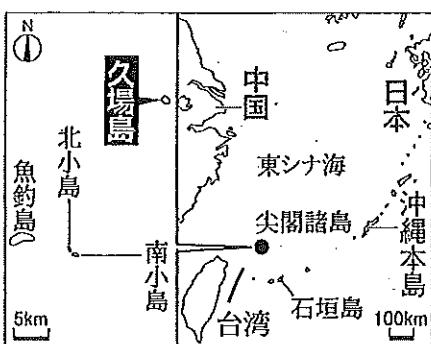
「久場島に日本人の活動家が上陸しようと動いてる」。尖閣諸島の一つの島を巡り外務省に情報が入ってきたのは、国有化から間もないころだった。

！久場島

尖閣諸島の五つの島の一つ。一九七二年五月の沖縄返還と同じ日に、返還後も「黄尾嶼

射爆撃場」として米軍が訓練に使用することで日米両政府が合意した。

所有者は民間人で、国が借り上げて米軍に提供。「在日米軍施設・区域」の一つとして米軍基地と同じ扱いとなつていて、米軍が使用する際は事前に日本側に通告する取り決めだが、日本政府によると、七八年六月以降は米軍から通告がなく、使われていない。



日本政府は当時も今も、「安定した維持管理」を理由に尖閣諸島への民間人の上陸を許可していない。もし活動家らの上陸を許せば「日本が現状を変更した」と中国が主張しつけいる隙を与えるかねないと懸念していた。

ただ久場島は「黄尾嶼射爆撃場」という呼

び名で米軍の管理下にある。各地の米軍基地と同じ「在日米軍施設・区域」の一つだ。

日本の関係省庁は、対応を話し合った。

想定したのは、米軍が管理する場所への無断侵入を禁じた「日米地位協定の実施に伴う刑事特別法」や、不法侵入を禁じた軽犯罪法の適用だ。だが、警察庁は「米軍管理の区域であることを開示していないと実際には取り締まりは困難だ」という見解を示したという。

「上陸を防ぎ、尖閣諸島を安定して維持管理するためには標識が必要だ」。日本は水面下で、米軍の管理下にあることを示す標識を

久場島に設置するよう、米政府に打診した。オバマ政権は慎重だった。「日本の眞の意可していいのか」と警戒した。政権内には「日本政府の自作自演ではないか」と疑う見方すらあつた。

久場島が米軍の管理下にあることを明示することで米国の「後ろ盾」を中国にアピールできるという期待は、確かに日本政府内にあつた。日本国内での協議に携わった政府関係者の一人は「同盟国である米国に日本を守る側に立つてもらうのは当然だ」と振り返る。だが米側は政権中枢にはかるまでもなく「標識は必要ない」と判断し、日本側に伝えた。東アジア担当の国務次官補だったキンベルも「自分は聞いていない」と話す。一九七八年を最後に訓練に使つていないこと、米国 の規定では、空からの射爆撃訓練に使う同島には標識を設置する義務がないことが米

側が説明した理由だつた。

そのうえで日本側に伝えた。「上陸しよう

とする者がいれば、日本の司法当局が身柄を拘束しても構わない」

「意図しない衝突」恐れる

一方で、中国が領海侵入を続け、緊張が高まるにつれ、オバマ政権は同盟国・日本を守る姿勢を明確にする必要性も意識し始める。その頂点が、國務長官を退任する直前の十

三年一月にクリントンが表明した立場だつた。「日本の施政権を損なおうとする一方的行動に反対する」。國務省があらかじめ文言を周到に練り上げ、「現状を変えようとするいかなる一方的行動にも反対する」というそだ。

ただ、中国と向き合う日米の立つ場所は、

地理的にも戦略的にも、完全に同じわけではない。

野田政権を引き継いだ安倍晋三首相は、尖閣諸島では「一步も譲歩しない」と断言する。

一方の米国は「尖閣諸島には日米安保条約が適用される」と明言しつつも、東アジアでの日中の偶発的な衝突が武力紛争に発展し、米国が介入を迫られる事態を強く懸念する。安倍首相の靖国参拝に「失望」を表明したのも、これ以上地域の緊張を高めるべきではないとのメッセージだった。

昨年十二月、東京・首相官邸。来日中、日本記者を前に中国の防空識別圏について話していたバイデン米副大統領は「総理、個人的な話することをお許し下さい」と隣の安倍首相に体を向けた。

父ジョー・バイデン・シニアの言葉だつた。「父は言つていました。意図した衝突よりひどいのはただ一つ、意図しない衝突だと」。

於・八重洲富士屋ホテル

## アベノミクス

世界経済の潮流と

日本経済の方向

第一生命経済研究所

首席エコノミスト

熊谷 英生



司会 定刻になりましたので、これより春の講演親睦会を開催いたします。今夕はお忙しい中お越しいただきました、まことにありがとうございました。

開会に先立ち当会の理事長、佐々木誠吾より一言御挨拶申し上げます。

佐々木理事長 皆さん、こんばんは。遅ればせながら、ご機嫌麗しく新春をお迎えのこととお喜び申し上げます。今年も皆様のご健康と弥栄を改めて祈念いたします。御案内申し上げましたとおり、今日の新春講演親睦会は斯界の論客であり、新進気鋭の若手ホープの第一生命経済研究所主席エコノミストの熊谷英生さんにお越しいただきました。先ほど熊谷先生としばし歓談しておりましたが、今日の講演会では、現在の経済情勢を踏まえ、これから事業経営者がいかに状況分析を

行い、どのように判断を下し、行動的将来に臨んでいくべきかを端的に明快にお話しいただきたいと云うことをお願しました。アベノミクスも第三の矢を放つべく正念場に差し掛かっております。その動向を含めて皆さんには極力ざっくばらんにお話を聞いていただき、これから世の中を、こういうような有様だから、こうした考え方従つて企業経営の指針を定め、このような方針で企業活動を推し進めて行くべきとの示唆を頂ければありがたいと思っております。私どもは基本線を堅持し、機になつて迅速、弾力的に対応して行きたいと思っております。それでは、限られた時間なので、早速、熊谷先生にお話を願い致します。

\*

熊谷氏　ただいま御紹介をいただきました熊谷でございます。きょうは伝統のある公

益社団法人の昭和経済会にお招きいただき、皆様にお話しえることを光栄に存じます。よろしくお願ひします。

実は今日は、昼間と夕方と二回の講演をすまして、本席が三回目の講演なので、肉体的に多少足腰が疲労してきておりますので、講演の内容に極力頭脳を集中していただきたいと思いますので、恐縮ですが腰を掛けさせていただきたいと思ひます。

いろいろと余談で話したいこともありますが、講演時間が一時間しかないのでも、余談は講演の後の会食、歓談のときに皆さんとの質疑応答に中で話をさせていただきます。

まづ最初に、大事な数字をお話したいのです。重要な数字というか、マジックナンバーとして、3・4という数字があります。これは何だか皆さんおわかりでしようか。多分、間違いないわからぬと思うのですが、消費税率八パーセントに値上げされるまで残すと

ころあと二十四日しかないということです。消費税の値上げ後の経済がいよいよ近づいたかなという感じです。

簡単な話、消費税が上がるというリアリティーが皆さんにあるでしょうか。テレビや新聞では、自動車とか宝飾品とか白ものの家電とかの商品について、既に駆け込み需要が始まっていると言つておりますが、しかしそうした宣伝というか、実際に庶民の肌の感覚として、今、買わなきやならないとか、値上がりするから買つて置けとか云う、そういう感じではないのではないかというのが実際のところです。

つまり、消費者は世の中で言われているよりももつと賢明なのではないかな。消費税が上がつて8%になるから、それではみんな買えかと云うと、そんなことはないと思ひます。

今まで買い過ぎた部分についてはやや引

き締めをして、買うべきものについては引き続き買つていくだろう。混乱があつたとしても三ヶ月ぐらいで終息するというのが私のメインシナリオなので、意外に消費者は賢いというのが実際の状況じやないかなと思います。

注意すべきは、消費税に目を奪われて、そのほかの大きな変化に気がつかないことではないのかなと思います。

一つ大きな変化としては、世界経済がちょっと変調を来してきます。今日の東京株式市場は日経平均が一万五，000円を回復し、久方ぶりに底入れ感が出てきました。私のデスクの周りにも株のマーケットの人たちがいるので、またぞろ一万八，000円あたりの回復とか言い始めています。それはちよつと早過ぎると思いますが、相場は雨降つて地固まるで、株価もまだ不安定な可能性があるので、予断を許さない状況と思つていま

す。

実は、日本時間でいうと一月二十四日にニューヨーク株式市場で大平均株価が大きく崩れました。これが海外の経済の変調を物語っているのです。今日は資料をちょっと複雑に持参していますが、理事長からグラフや統計の資料に基づかないで、自由に話を聞いてもらいたいと申されていたので、闇達奔放に話ををしてまいる所存です。

今年の一月に株式がちょっと崩れて下落したのは、新興国通貨、具体的に言うと、アルゼンチンのペソが暴落したからです。暴落

見てみると何が起つてているかということが判つてきます。今までお金がじやぶじやぶ出回っていた世界が、今年になつてやや引き締め方向に変わつていることです。なぜアルゼンチンの通貨が暴落したかと云うと、これは弱い通貨だからです。弱い通貨が買われ過ぎていたのです。これまでお金がじやぶじやぶだつたから引き続き買われていたのですが、じやぶじやぶだつたお金が、ちょっと解消すると、こうした状態になつてきてします。

例えれば、アルゼンチンの弱みは何かということ、二〇〇一年に一回デフォルトになつている時に、これまでアルゼンチンが買い支えをやつていたのが、手元にあるドルがなくなつてしまつたので買い支えが出来なくなつてしまつたのです。だから投機筋に売り込まれたというのが背景だつたのです。しかしひオーカスをもつと広角レンズで

定な通貨、例えば、トルコの通貨のリラだつたり、アルゼンチンのペソだつたりします。そういう形で今、世界で起こっているのはマネーの収縮です。信用収縮というか、マネーの収縮が始まろうとしています。

実は、このマネーの収縮にはその前にさかのぼる話があります。アベノミクスの期待で去年の春先までは株価が一時一・八倍になるまで猛烈に上がつていきました。これと火元というか、原泉の部分は同じ話なのです。つまり、アベノミクスが二〇一二年の十一月に始まつたのですが、それをさかのぼること二カ月前、二〇一二年の九月、アベノミクスの始まる手前で、アメリカが大規模な金融緩和をやつて、ヨーロッパの南欧の国債を無制限に買い取ると云うことを行いました。そのためのＯＭＴという基金をつくつて買おうとしたところをやりました。

つまり、日本以外のヨーロッパとアメリカ

がマネーの蛇口を目いっぱいあけたのです。目いっぱいあけたマネーがどこに行くでしょうか。

アベノミクスは、日本を構造改革して強勒にすると言ふ遠大な目標を掲げています。日本はどうやら二十年ぶりにデフレから脱却して、この先成長しそうだ。こんなセールストークをすると、あり余つたマネーがどんどん日本にやつてきます。それで一時は十六兆円も海外のマネーが日本株を買つたのです。これが、アベノミクスがこんなに華々しくなつた一つの背景、つまり世界のあり余つたお金がアベノミクスを買いに走つたのです。

しかし、ことしの一月二十四日から始まっているのは、その環境が変わつているのです。なぜでしょうか。アメリカの経済が割に好調になつてきて、金融緩和が要らなくなつたと云う理由が伝わつてきました。だから、アメリカではＦＲＢ、中央銀行が引き締めをすぐ

に行うわけではないけれど、計画的に買つて  
いた部分の量を減らす、つまり増やしていた  
マネーの一部を減らしていくと云うことで  
す。

これは引き締めではなくて、今まで行つて  
きた金融緩和を少しづつダウンサイジング  
していくという話なのです。ですからそんな  
に刺激的な話ではないと思うのですが、でも、  
世の中は予想が大きく振れて、いよいよ蛇口  
が閉まり始めた、水の量が減るのではないか、  
つまり先に先にと考えて金融引き締めをイ  
メージしたから、一番弱い通貨のアルゼンチ  
ンのペソを売ったのです。

この話はこれからどうなっていくかとい  
うと、まだまだ続くのではないかと思います。  
アメリカが蛇口を閉めたのは、まだ一回で蛇  
口をくるつと回しただけです。これから年内、  
あと六回ぐらい、くるくるくると回してもつ  
とマネーを引き締めていきますから、今は一

たん小康状態になつていますが、年内激震の  
部分というのは物語のあと七割分ぐらいは  
残つてるので、まだ警戒しなければいけな  
いのかなと思います。

ただ株価の乱高下というのは、一月二十四  
日に始まつた株価の下落というのは、今、割  
と短いタームで終息してきています。つまり、  
アメリカの引き締めに対する拒否反応みた  
いものは、余り大きな波でなくて、小さな  
うねりで終わるのではないかと思いま  
す。

そう考えると、もう一つ大きなうねりは何  
かというと、三十四日後にある消費税の引き  
上げに伴う混乱で、投資家が様子見をするの  
ではないか。こちらのほうがもう少し影響が  
大きいのではないかと思われます。

景気も株価も今年はこんな感じになるの  
ではないかと思います。黒板に書いたこの字  
はNと云う字ですが、ちょっと崩したN型で

す。N型になると思います。消費税が上がる前の一、三月。そんなに大して駆け込み需要

は起こつていよいよ見えますが、自動車業界や白物家電の業界、百貨店にとつては大きな業績の拡大です。

恐らく、一、三月の業績がよくなると、五月、あるいは六月になると企業の決算はこのN字型の登り切つたあたりの好決算になります。だから、ここで一たん株価が下がつても、また上がって、下がつてを繰り返しながら、五月頃にもう一回、結構天井を突ける可能性もあります。

株とかマーケットの見方というのは、ファンダメンタルズと、マネタリーな二つの要因がありますが、マネタリーでいくと引き締めかもしれません、株の人たちは大体ファンダメンタルズを信じるので、私もそれに倣つて企業の業績はまだまだ続いて5月ぐらいにピークになると思います。N字型で、Nの

字の最初の頂点までいくのではないかと思っています。

でも、警戒すべきは消費税が上がった後です。消費税で日本経済が腰折れするわけではありません。これは私の見方であり、こういうビューポーを持つているみたいな部分があるのですが、でも、消費税で景気が腰折れしないと判子をついて、一〇〇%保証しますと言えるかというと、なかなか言えないのです。

やはりやってみるまでわかりません。投資家は、そのとき自分は腰折れしないと思つても、やっぱり消費税の悪影響が出てくるかもしれない様子見を決め込むので、株価は消費税の後はしばらく様子見になるだろうと思います。

恐らく、実態経済がリバウンドしていくのは一九九七年の株価を見てみると、四月、五月ぐらいまでは駄目だったのです。しかし六月ぐらいから半値戻しぐらいになつて、七、

九月ぐらいに新しい水準へと回復していきました。消費税が上がつて影響が割に軽微となると、もう一回景気の拡大が始まるのではないかでしょうか。

今回の消費税の特徴は、やってみるまでわからないということです。そういうイベントリスクです。来年も十月に消費税の引き上げをやります。一回目と二回目、どちらの不確実性が大きいでしょうか。間違いなく一回目です。摩擦の係数みたいなものです。動かし始めのところが摩擦が大きいからです。

そういう意味では、ことしの景気というのはN型になるというシナリオなのかと思います。株価もそうですし、景氣についてもそうだと思います。

せっかく資料がコピーされてきています。後で備忘録としてごらんになるのもいいのですが、せっかく作ってきたので、ちょっと一枚開いてみましょう。

つまり、この不確実性というのは、一回消費税のハードルを越えると、あとは実態経済の回復の障害になる度合いというのは、来年もあるのですが、割に少ないのではないでしようか。

例えば、企業にとつて設備投資をしようとしている時には、消費税がやっぱり邪魔になつてきて、ちょっと様子見をしていることが

あります。消費税があるから、設備投資は恐らく駆け込みではなくて先送りされているのです。こういうのも七、九月ぐらいになつて経済が安定してくると、もう一回再開されるかもしれません。

ストーリーは資料を見なくともわかるのですが、恐らくN型の先には何があるかというと、アベノミクスが始まつてから現在ほどは力強くはないけれども、それなりに成長していくというシナリオなのではないのかなと思います。

アベノミクスの株高、円安というのは非常に劇的でした。先ほど言つた数字を繰り返しますが、一時に比べると株価は一・八倍、為替は二五%ぐらい円安になりました。円安は製造業に効く、株高は非製造業に効くということです。こういうミラクルのような恩恵というのが今後期待できないとなると、日本経済はやつぱり自滅でしょう。

これは、労働力がふえるとか、設備投資がふえるという潜在成長率と言いますが、大体一%ぐらいの成長となつてしまします。これまで三%成長だったのが一%ぐらいの成長になるので、余り多くを期待できなくなります。消費税も実際に上がるわけでですからなおさらです。

ただ、消費税が上がると、社会保障の財源として今、赤字国債というか、国債発行を借金で賄っています。消費税が上がることで、これからは借金に基づかない財源で

社会保障が安定化されるわけで、財政再建が進み、社会保障システムが頑健になります。信頼度が高まるわけです。これは経済にはマイナスかもしれません、システムを維持する上では非常にプラスだと思います。

海外投資家にとつてみても、恐らくこれはプラスであることに間違いありません。日本経済のアキレス腱は何でしょうか。恐らく、十人の海外投資家に聞いたら、九人ぐらいは財政問題ですと云うでしょう。日本の財政はこのまま大丈夫ですか。日本企業は優良だが、財政がねと、こういうふうに答える人が多いと思います。

ですから、消費税が上がるということは経済にはマイナスのように見えるのですが、長い目で見てみると、財政再建はある程度めどをつけ、あとは経済成長に政権が集中できるような環境をつくることが重要です。

そういう意味では、長い目で見るとそんなに悪くないのではないかと思ひます。

あと、消費税に関して、製造業以上に影響が大きいと思われるものは、実は非製造業なのです。非製造業の話をすると、非製造業はそんなに弱くないと云うことです。もつと正確に言うと、中小企業はそんなに弱くないというのが実情だと思います。

四銀行が企業に対してアンケート調査を行いました。景気について、よいですか、さほどよくないですか、悪いですかと、三択で答えてもらつて、「よい」と答えた企業と「悪い」と答えた企業の割合を差し引いて、D I、ディフュージョン・インデックス、別名「散らばり指数」をつくつているのですが、このD Iが去年の一二月に何と二十一年ぶりにプラスに転じました。つまり、「よい」と答えた企業が多数派になると、快挙と言つたらちよつと大袈裟かも

されませんが、すごく違和感のある状況になつてきています。

二十一年ぶりというのは、この前オリンピックで金メダルをとつた羽生結弦君というのがいますが、彼は十九歳で、羽入君が生まれてからこの方、D Iはずつとマイナスだったのです。デフレ経済だから違和感はないのですが、デフレ経済が今変わらうとしているのです。これは、アベノミクスの成果というよりは、今、見えにくい追い風がふえているのです。

これは株高の要因もあるのですが、株高以外もあるのです。それは何か。これは消費の現場では常識なのですが、やつぱり高齢者消費が消費全体を支えていると云う現実です。これは巣鴨の地蔵通り商店街でなくとも、全国の津々浦々で、商店街や消費ビジネスというものは高齢者を無視してはやつていけなくなつてきています。

大体個人消費のうち、家賃を除く個人消費のボリュームはどれくらいあるでしょう。日本のGDPは大体五〇〇兆円だと言われています。又、個人消費は二三〇兆円で、これは家賃を除いての数字です。高齢者消費はそのうちの一〇兆円。四十七、八%を占めているというのが現状です。

つまり、個人消費の中の高齢者消費がすごく増えるようなイベントがあると、非製造業の業績というのは良くなるのです。何のイベントでしょうか。団塊の世代が今六十歳になつて、年金の定額部分を受け取るようになつています。定額部分とは何かというと、年金というのは二階建てになつていて、六十歳になつたとき、厚生年金の報酬比例部分と言われて、給与に見合つて一定比率の部分が年金の支給額を決めるのです。

いかし、国民年金に相当するベースライ

ンになつている年金というのは、国民年金は六十五歳支給になつて、厚生年金の定額部分についても六十五歳支給になつているのです。つまり、月々六万五千円の収入は六十五歳にならないともらえないのです。

つまり、厚生年金に入つている人たちが、二〇〇七年とか二〇〇九年に三〇万円の年金を受けるようになつたのです。今、六十五歳になりました。二〇一二年から二〇一四年。このときには三〇万円が三六・五万円になります。これは消費がふえます原因になります。

つまり、団塊の世代が六十五歳になると年金の定額部分が出てくるので、それが高齢者消費の追い風になつてきます。

特に、二〇一一年に東北大震災がありました。震災があつた年の後半ぐらいから団塊の世代がどんどん六十五歳になつて、それが消費をかさ上げしてきました。これも

あつて、中小企業の非製造業というのは、売上高経常利益率が二・七%、大企業よりは低いですが、過去の中小企業の売上高経常利益率で言うと、割にいいところまで回復してきています。

皆さんは、消費の現場で百貨店の売上高が去年久方ぶりにプラスになった、そういうのをニュースでごらんになつたことがあると思います。この中に百貨店の方がいらっしゃやつたら失礼する話なのですが、消費の現場では、百貨店販売というのはフロン

トランナーでなくて、相当消費が全体的によくならないと百貨店販売というのは多分プラスにならないでしよう。

ということは、百貨店販売でもプラスになるぐらいだから、消費全体でいくと、ネットを使つたいろいろな商売というのは、もつともつと利益を上げているはずです。恐らく、そういう人口動態、団塊の世代が

六十五歳になるという効果もあつて、中小企業、非製造業の業績がよくなつてきているのです。

あと、もう一つは株高です。高齢者の三人に一人は三千万以上の資産を持つていて、大体六十歳以上の三人に一人が株か投信を持つています。こういう人は、株価が去年の末で一・六五、去年の5月で一・八倍も株価が上昇すると購買力が高まるので、そういう意味では、個人消費はそんなに打たれ弱くないのではないか、と云うのが私の見方です。

加えて言うならば、勤労者についても賃金こそ上がらないものの、前年比で見ると就業者数の伸びと云うのは一・五%で、二〇〇〇年代で一番雇用者数が増えているのが去年の末なのです。

そういう意味で言うと、賃金が上がると

の分野では、高齢者消費が増え、勤労者の数がふえて、失業しても職が見つけやすくなっていると云う状況で、これは個人消費にとつては割にいい話なのです。私は、消費税が上がつて一、二カ月は停滞するかもしれないが、その後はまた新しい水準、そんなに悪くない水準に戻つて、さらに拡大していくようになつていくのではないかと思つています。

消費税については、全体で見ると乗り越えられるのですが、でも、やっぱりプラスマイナスが出てきて、どこかにマイナスが出てくるだろうという見方を私もしています。全部がバラ色になるわけではありません。プラスとマイナスがあつて、マイナスの部分もあります。それはどこか。恐らく中小サービス業に出てくるでしよう。これは価格転嫁が一番しにくいところだからです。

これも釈迦に説法ですが、製造業の場合、原材料を仕入れて部品をつくる際に、そこへ消費税を上乗せしてきて転嫁していく、製品にそれを転嫁します。素材から中間材、最終製品と次から次へと転嫁して行きます。そこで消費税の上乗せがきつちり出来るのですが、サービス業の場合は、コストでなくて、需給によつてプライスが決まる部分が大きいからです。例えば、旅行代理店が二万八〇〇円というパック旅行を二万八五〇〇円にしました。だけど買い手が少なくなると、本体価格を落として、二万八〇〇円にもう一回上げたが、戻さなければなりません。

つまり、サービス業というのは需給によって価格が決まるので、消費税が転嫁され、価格が上がつてネガティブな反応になると、やっぱり理財が圧縮されます。消費税の影響というのは、価格転嫁ができれば

収益はへこまないので、価格転嫁ができないなければ収益がへこんでしまいます。そういう作用になつて及ぼして来ます。

景気が腰折れするかどうかは、価格転嫁ができなかつた企業の収益悪化によつて、雇用の縮小、賃金の下落、設備投資の鈍化と、こういうネガティブな連鎖反応が起これば景気は腰折れするのですが、今のところ、企業収益については割に高い水準だということです。

製造業については、七割ぐらいに戻していくかと思います。今はもしかすると八割ぐらいかもしません。リーマン・ショックの前の人割ぐらいまで戻しているのです、しかし非製造業については、さつきの高齢者消費の恩恵もあって一〇四ぐらい、リーマン・ショックの前を一〇〇とするとき、人を雇つて、机に座つていただいて仕事を

価格転嫁が難しくて利益を引き下げるような企業があつたとしても、大丈夫ではないかと思います。

景気が腰折れするかどうかというのは、エコノミスト的に見ると、企業収益がどれだけ厚みを持つていて、財務体質がどれだけ強靭かによるのですが、私が財務分析をしたところによると今、企業の利益を出す利益率の水準が物すごく高くなっているのです。もうちょっと正確に言えば、損益分岐点という分析の仕方がありますが、損益分岐点がすごく下がつてきています。

どういうことかというと、イメージで言うと、この中にも財務にすごく詳しい人がいて、そういう人の前で話すと、何かマイナスの指摘をされるのではないかと思つて不安ですが、大胆に書くとしましよう。企業の収益構造とは、まず固定費負担です。

してもらいます。仕事があつてもなくとも、給料は払い続けないといけません。これが固定費負担です。

企業の収益というのは、固定費負担を上回るぐらい売り上げが上がったときに、その差の部分が利益になります。正確に言うと、変動費というのがあって、売り上げがふえると、売り上げの増え方に伴つて変動費もかかりますよと云うことになります。

例えば、売り上げが三%増えました。そうすると、利益は一五%ぐらい増えるのです。それはベースになつていてる売り上げがある程度から始まつてるので、同じペーセンテージではなくて、加速度的に利益が上がるようになります。

ただ一つ注意しないといけないのは、売り上げが余り上がつてない企業なのに、何で利益が出るのだろうと云うことです。これは、リーマン・ショックというか、一九

九〇年代から、そもそも固定的な費用、固定費を設備投資を抑制したり賃金を引き下げたりして、すごく落としているというのが実情なのです。だから、そういう意味では、固定費負担を下げながら利益が出やすい体質にしていて、今は企業が利益を生み出しやすくなつてているというのが実情です。

損益分岐点、即ち今の売り上げがどのくらい減つたら利益がプラスマイナスゼロになるかと云う分岐点ですが、売り上げを一〇〇にするときの損益分岐点は七八%です。つまり、二二%売り上げが減るとさすがに赤字に転じますが、消費税が上がるので四月、五月は売り上げが五%減ります。

しかし五%の売り上げの減少では赤字になるような形ではありません。つまり、今この企業の財務体質というのは、それだけ強靭だということだと思います。その辺りに

ついては別紙六ページ目にいろいろ書いて  
いるのであとでご参考ください。

問題は、消費税を上げたら景気が腰折れ  
するか否かですが、それだけではなくて、  
もう一つ重要な点があると思います。それ  
は、賃上げがどのくらい進むかということ  
です。賃金を上げて、企業の収益が悪くな  
るような状態になるかと云えば、今の段階  
では私はならないと思います。なぜならば、  
資本金一〇億円以上の大企業、とりわけ製  
造業については、労働分配率が大事になっ  
てきます。生まれた固定費、売り上げの中  
からコスト、売上原価を除いた、その部分  
が販管費とかそういうものもあるのですが、  
利益と販管費、粗利益が粗付加価値になる  
のですが、この粗付加価値の中から、どれ  
だけ人件費に割いているか、これが労働分  
配率になります。

大企業の場合はこれが六割なのです。す

ごく低いのです。中小企業は八割です。中  
小企業の費用の中で一番大きいのはやはり  
人件費で、ほとんど人件費だけでやっている  
ような、そういう形の業種もあります。

つまりそういう意味では大企業は、何で  
損益分岐点がこんなに低いのかというと、  
人件費をすごく引き下げてきたからなので  
す。具体的に言うと、リーマン・ショック  
の前、二〇〇七年までは一人当たり七五〇  
万円の人件費がかかっていたのが、今は七  
二〇万円ぐらいまで落としてきて、すごい  
人件費が下がつたまま増えないのです。

これは経営者が、従業員みんなに賃上げ  
を抑制する、あるいは賃下げだとやってい  
られるからではなくて、五年間の間、リタ  
イアした人の浮いた人件費を、新卒採用の  
人たちの賃金に全部回したり、若い人の昇  
進、昇格のための給与増加に回してこなか  
つた、つまり、定期昇給の部分について抑

制していたという効果があるからです。

もう少し正確に言うと、さつきの団塊の世代の話がここでも効いてきています。団塊の世代は二〇〇七年から二〇〇九年、リーマン・ショックのちょうど同じ時期ぐらいに会社からリタイアして、割に高賃金の人人が特に大企業を中心に組織からいなくなつていたのです。浮いた人件費は、全部賃金でほかの労働者に配分したのではなく配分しなかつたのです。

二〇〇九年から二〇一一年にかけて、定期昇給までとめていました。そうすると定期昇給をとめるということは、賃金カーブがフラットになるということですから、それだけ一人当たりの人件費が下がります。こういう固定費負担の軽減効果が、今の企業収益、売上高、経常利益率の高さを生んでいるというのが実情なのです。

問題は、そういう中で今年に賃上げが起

ること、さて経済が正常化するかどうかといふところがポイントだと思うのです。賃上げというのはいつも季節性があつて、今のように二月とか三月ぐらいには賃上げが結構進むのではないか、ことしこそは賃上げだ、そういうふうに企業経営者も回答しております。

アンケート調査が非常に耳ざわりのいい回答結果を出すのですが、でも六月とか夏場ぐらいに実際どれだけ上がったかというのを調べてみると、定期昇給を含めて一・七とか一・六とか、ちょばちょばしか上がってないです。だから、ことしも例年よりは賃上げが進むかもしれません、まだまだ賃上げは進まないのではないかというのが私の見方です。

例えば、今年度の春闘の賃上げ率が一・七%だったとすると、来年度は、ことしの四月以降は、二か一・二%ちょっとぐらい

の形になるかも知れないと私は思います。

ただ、最近のいろいろな新聞とかを見てみると、三井住友銀行とか、メガバンクでさえベースアップを〇・五%するような動きが見えているのです。金融セクターと云うのは結構大きなセクターなのです。全部で人件費で言うと、金融セクターは十兆円ぐらいの人件費を持つていて、

大企業だけで金融セクターを除くと、大体二十五兆円ぐらいなのです。金融業といふのは割に大きい企業が多いので、だから、金融セクターまで賃上げし始めたというのは結構効くかなと思うのですが、二%強ぐらいいの賃上げ率に終わるかなという見方もあります。

しかしアベノミクスがこのまま消費税を上げて、無難に景気が安定軌道に達すると、恐らく今年賃上げできなかつた企業でも、来年、再来年と、来年消費税がまたあるか

ら賃上げの話が出てくるでしょう。二年、三年とかけて賃上げが進むので、その部分は家計にとってプラスではないかと思います。

あと、もう一つ非常に重要なのは、大企業の賃上げだけではなくて、恐らく中小企業まで恩恵が回ればすごくいいことだと思います。今まででは大企業が労働分配率を六割に落としていたせいで、中小企業は付加価値、売り上げも収益もふえませんでした。つまり、パイは増えないから労働分配率は八割と高いものにあって、賃金を増やせなかつたのです。

私が地方とかにいろいろ講演に行つたりして、お会いする中小企業の経営者は、みんな実は賃上げをしたくてたまらないのです。なぜかと云うと二〇〇九年、二〇一〇年とリーマン・ショックがありました。あのときみんな苦労を分かつち合つた。機会が

あれば賃金を上げてあげたいと。あのとき

の苦労があつたから今があるんだと、そういうふうに思つてゐる経営者は非常に多いのです。しかし残念ながら売り上げのペイ、収益のペイは小さいので、賃金を上げようと思つてもなかなかその余力がないのです。

しかし大企業が賃上げをします。そこで五兆円、一〇兆円の付加価値がふえます。

そうすると経済のウエートとしては大企業より中小企業のほうが多く、中小企業のよう

に購買力が流れ始めると、もともと労働分配率が八割と高いので、経済全体にそれが回り始めるのではないでしようか。

恐らく最初は東京の企業だけが賃上げして行くみたいな話になるかも知れませんが、そのうち大阪とか広島とか福岡の企業も賃上げをします。さらに、その波及効果が地方の都道府県へ際立つていきます。こういふうになつたとき、ようやくデフレ脱却

なのです。

内閣府の担当大臣がデフレ脱却とか言つても、賃金が二、三年安定的にプラスにならないと、デフレ脱却ではないのです。そういうふうになるかどうか、ことしの春闘は大体三月の上旬ぐらいが集中回答日ですから、このときが非常に注目されます。ですからアベノミクス、消費税の問題というものは恐らくこれから賃上げが鍵を握ると思います。

悪い話ばかりではなくて、いい話も結構あつて、恐らくベースアップをやらない企業はボーナスをふやすのです。ボーナスはいつ出るかと云えば六月です。六月、七月です。消費税のリバウンドで四月、五月は駄目でしよう。

しかし六月から半分ぐらい戻して、七月、もっと大きくリバウンドします。恐らくボーナスを企業がふやすエネルギーというの

は、消費税のリバウンドをかさ上げすると  
いうことになります。

つと政策的な話を次に差し上げたいと思  
います。

続く

ことしの四月以降、公務員の人事費を復  
興増税でカットしていた部分が出てきます。  
国家公務員と地方公務員。地方公務員は交  
付金を減らされているのですが、合わせて  
九〇〇億円の賃金の増加があると思いま  
す。

これに人事院勧告でもつと大きなプラス  
アルファが加われば、結構地方では公務員  
の給与カットというのはマイナスにきいて  
いましたから、ことしの四月以降のリバウ  
ンドというのは、賃金があえる効果が後押  
しする可能性もあります。それがどうなる  
かということをちょっと期待したいと思いま  
す。

今までの話が、どちらかというと、アベ  
ノミクスの消費税を乗り越えるかどうかと  
云う割に短い話だったのですが、もうちょ  
う

## わが回想記

早稲田大学名誉教授

堀江 忠男

ペレストロイカと 「資本論」

どうかだけで判断する一般庶民の受け止め方は違う。九月中旬、ゴルバチョフ書記長はシベリア東部の主要諸都市を視察してまわり、「店には買うものがなにもない」「肉を買うにもソーセージを買うにも長い行列」という種類の訴えをいたるところで聞かされた。物資の出まわりだけでいえば「ブレジネフ時代のほうが良かった」と思っている市民たちもいるようだ。

先月二十七日、ソ連のマスリュコフ国家計画委員会議長が来年度の国民経済発展計画案を発表した。そのなかに注目すべき数字がある。生産財の増産率を前年度比二・三%に抑え、消費財のそれを六%と高く設定していくことだ。この一対の数字は、ペレストロイカ（改革）の苦悩と期待を象徴するものである。

この危機を突破しようとする試みが、来年の消費財の増産率を生産財のそれの二・六倍にしようという数字である。この目標が達成されることを期待したいが、現実には二つの困難がある。一つは、経済各機関の党・官僚の既得権擁護、現状維持主義の壁をどこまで打破できるか、ということだ。

もう一つは、理論上の矛盾である。生産財を上まわる消費財の増産は『資本論』の『眞理』に反するのだ。『資本論』の経済発展理

論と再生産表式論、それを追補したレーニン

の再生産表式論によれば、生産財部門の消費財部門を上まわる優先的発展は、あらゆる社会に共通の経済法則であると解されている。

一九六四年末、来日したソ連科学アカデミー経済研究所のプロトニコフ所長に私は聞いてみた。

「ソ連でも消費財部門の発展率が高く

なる時が來るのはありませんか」

「そういうことはありません」

と断定的な答えだつた。

マルクス、レーニン、プロトニコフ、みな

間違つてゐるのである。『資本論』の書かれ

た歴史的背景は、手工業段階を脱して産業革

命を確立した英國産業である。生産財の優先

的発展がみられたのは当然だ。だが、より豊

かな社会になれば、消費財の増産のほうに力

を入れができるようになる。米国は戦

前すでにその段階に入つていた。欧日の先進

諸国もいまはすべてその段階にある。

ソ連も一九六〇年代の末期以来、消費財の

優先的増産を志向してきた。その延長線にあ

るのが冒頭に掲げた数字だ。ただしソ連では、

それが『資本論』の『真理』に圧することに

は、いつさい言及していない。大学で、マル

クスの生産財部門優先的発展の経済学を学

び、卒業して就職すると、消費財優先のペレ

ストロイカ経済政策を推進せねばならぬ。こ

の矛盾を自由に論じられるまでグラスノス

チ（公開性）が進む日はいつ来るだろうか。

(88・11・5)

### 経済・経済学・経済政策

J・K・ガルブレイスの近著『経済学の歴史』を読んだ。「経済学の有名な命題で、明瞭な、だれにも納得のいく英語で正確に述べることのできないようなものはない」と自負

する彼の著書は、才氣あふれた筆致で、しかも旧来の通念に挑戦する新鮮な解釈が随所にみられて興味深い。

彼を世界的に有名にしたのは、一九五八年（昭和三十三）年に刊行された『豊かな社会』である。末尾の「ピット（昔の英首相）は、貧乏は恥ではないが、やつかいなものだ」といった。いまの米国では、貧乏はやつかいなものではないが、恥（社会の）だ」という名文句は、筆者の記憶に刻みつけられている。一九六五年（昭和四十）年の秋から冬にかけてハーバード大学に客員研究者として滞在中、ガルブレイス教授との間で、「ゆたかな社会」の話がでた。「日本はどうですか」と問われたので、「どうやら『ゆたかな社会』の入り口まで来ましたよ」と答えた後、うなずいていた。

『経済学の歴史』は、序文によれば、在来の経済学説史が「すべて背景となる経済環境

に十分触れることなく、経済学の進歩が抽象的にとらえられている」ため、「多くはひどく退屈なもの」だった。それをいろいろな経済学説がそれぞれの「時代と場所の産物である」という観点から、わかりやすく面白く書いてみようという試みである。

内容は、古代ギリシャ、ローマから始まって、スミス、マルクス、ケインズは言うに及ばず、目ぼしい経済学者とその学説を時代的背景のなかでとらえている。時には経済史の著作に近い感じのする叙述もあるほどだ。

最終章「未来としての現在」では、「日本はこれまでアメリカの経済思想の消費者だったが、次の段階では、世界の産業界に登場してくる一段と新しい国々に経済思想を与える源泉となり、さらにアメリカやヨーロッパにその経済思想を逆流させることになるであろう」と期待している。日本経済の目ざましい発展のなかから新しい経路思想が生

まれてくるだろう、との見方だ。

### 「土地なき国家」の生誕

私自身「経済の流れの中から経済学が生まれ、経済学を使って経済政策が立てられ、経済政策が経済の流れを動かし、経済の流れが経済学を革新する」（「経済政策論」講義要項）という見方だから、この本は共感と興味をもって読みおえた。

最後に一言。彼がマルクスの剩余価値学説を限界概念で説明しているのは誤りである。

マルクスが労働価値説に立脚して説いた剩余価値学説は、限界学説に基づく剩余論とは全く異質のものであり、歴史的にも先行している。その他批判したい個所もないではない。だが、これほど広範囲の問題を論じれば、多少の欠陥が出るのは当然である。広い視野の政治経済学を指向する筆者の自戒の資したい。

さて、新生パレスチナ国家にはまだ領土がない。この国の予定地は一九四七年のパレスチナ分割に関する国連総会決議一八一に基づくヨルダン川西岸地域とガザ地域だが、それらがイスラエルの占領下にあるからだ。

イスラエル・パレスチナ紛争の根源はユダヤ教とイスラム教との対立にある。「コーエ

ン」はイスラム教の開祖、ムhammad（マホメット）が神のお告げを書きとめた聖典であるが、その一節にこうある。

「汝<sup>なんじ</sup>リイスラム教徒リらは、人類のために生まれ出た集団の最上のもの。汝らは義を勧め、惡を止めさせ、アツラー（神）を信仰する。啓典の民（ユダヤ教徒とキリスト教徒）も、本当の信仰をもつたなら、どんなに良かつたか……」

ユダヤ教もキリスト教もイスラム教も、唯一神を天地の創造者とする点では、同種同根の宗教でありながら、ユダヤ教徒は神の「選民」思想を持ち、キリスト教徒はユダヤ教の偏狭さを脱した全人類愛的宗教の信者であると自負し、最後に出てきたイスラム教は、これこそが最上のものだと主張するのだ。

結婚式はキリスト教式、家を建てるときは

神主に御祓い<sup>はら</sup>を頼み、死ぬときは坊さんの厄介になる日本人には、理解しがたい厳しい宗教的対立なのである。そして、三宗教の聖地エルサレムの周辺地城は、古代ユダヤ王国、アラブ国家、十字軍国家およびその他諸民族の国家の興亡の地だ。

第二次大戦後には、前記の国連決議一八一により、ユダヤ人が一九四八年イスラエル國家を創建、それに反対するアラブ諸国との間に数次の中東戦争を起こして、領土を拡張、百七十万のパレスチナ・アラブ人がその領土内で難民生活を送っている。

それに反発したPLOがテロリズムで対抗、イスラエル国家覆滅を目的としていた。それがこんど、ユダヤ人との共存の道を見いだそうと方針転換し、パレスチナ国家の独立宣言を発表、一九六七年の第三次中東戦争後に採択された国連決議二四二に従って、イスラエルの占領地からの撤退による領土確保、

パレスチナ地域での平和的共存を実現しようとするものだ。  
現状ではそのため国際会議を開くのが、  
もっとも現実的な対立解消への道だろう。イスラエルと米国の柔軟な対応をのぞむもの  
だ。

(88・11・26)



作品 関根常雄

アメリカ便り

ランコ岩本

(米国ジャーナリスト)

半世紀以上、アメリカの地で報道分野で生きることになった私を、常に支えてくれた日本、懐かしくもありがたい日本で新年を迎える皆様とともに、日本にとつてすばらしい門出となる2014年を迎えられたことに、私は深く感動しています。

「ホテル旅館」の50周年記念

「ホテル旅館」は1963年に創刊。月刊誌となつたのはその翌年で、東京オリンピックが開催され、海外旅行が自由化された、戦後日本にとって歴史的門出となつた輝かしい年でした。越し方を振り返り、「アメリカ便り」を77年から連載させていただいてき

た者として、感慨無量の念を禁じ得ません。紙媒体が次々に廃刊となる出版界で、よくぞ頑張つて来られた、と。

過去69年間、戦争をしなかつた国、日本。これからの日本は、まちがいなく、スイスに匹敵する観光大国をめざすこととなりましよう。これは戦争を放棄した日本の国民が、これから「日本という国の在り方」として抱いたビジョンそのものでした。

50年という歳月の後、日本がやつとそのビジョン達成に本腰を入れられるチャンスが巡ってきたと、新たな年を迎えて、私は心から信じている次第です。

このビジョン達成に、「月刊ホテル旅館」の役割と、その貢献は、これまでとは比較できぬほど、大きくなりましょう。ご健闘を祈ります。

本連載「アメリカ便り」は、ホテル旅館の代々の編集長及び担当者のご協力があつて

はじめて36年間の継続が可能となりました。締め切りぎりぎりで到着することが多い

私の原稿で（一度などは急性肺炎で入院中の走り書きとなつたりして）、はらはらさせて、

ごめんなさい、と、特に2000年からの編

#### 伊勢神宮と出雲大社の遷宮

る。運命的に、14年は日本にとつてすばらしい門出となる、と気付いたからだ。その理由を列挙してみたい。

集長、武田真理子氏に、お詫びと、深い感謝の念を込めて、さらなるご健闘を祈る次第です。

日本にとって、すばらしい

門出となる2014年

昨年（13年）末の私は、世界秩序を揺るがせる米国の内政問題（政府機関の閉鎖、大混乱のオバマケア、後退感が強まる米国の大統領「アジア重視」政策など）、そして気象異変が原因か、相次ぐ大型天災のニュースで、気が滅入っていた。ところが、やつて来る「新年」に想いを馳せた途端、気分ががらりと変わり、驚くほどの希望があふれてきたのであ

遷宮（注・神社の神殿を改築・修理するときに神体を移すこと）は、伊勢神宮が20年ごと、出雲大社はおよそ60年ごとだが、13年はこの両遷宮が同じ年に行なわれた稀な年だった。同年に行なわれたのは、これまでで昨年が4回目だという。式年遷宮といわれ、社殿だけでなく、神に奉る装束・神宝・調度品にいたるまですべて新調され、建て替えられた本殿に神靈を移す。伊勢神宮の遷宮は約1300年前からで、昨年は62回日だという。出雲大社の遷宮は1609年に始まつたといわれる。遷宮によって、神の「いのち」が若返り、強大なパワーになると信じられると

いう。

朝夕の神に奉る食事も、感謝の祈りを込めて、千教百年も、日々継続して奉じられていて知つて、びっくりしない人はいないと思う。

そういうことを知らないままに、米留学のために58年前に日本を後にする前に一度、そして80年代の帰国中に1度と、私はこれまで2度、伊勢神宮を参拝した。その都度、簡素な白木づくりのたたずまいに、身の引き締る思いがした。初めて参拝した時の松下幸之助氏が、伊勢神宮の清楚で飾り気がなく、それでいて莊重で美しい姿に深く感動して、「これこそ本当の日本人の心そのものではないか。伊勢神宮は、国のいしづえというか、心のいしづえというか、日本人の心のふるさ」というか……日本という国の、国、人、心が象徴された社ではないか」と言われたとい

う（社会法人倫理研究所理事長・丸山敏明氏の執

筆より引用）。

神宮を詣でた外国人も同様な感銘を受けているのは、彼らの残した言葉——「そこに聖なる感情があり、人間が自然と調和している」（ガブリエル・マルセル）、「この聖地において、私はあらゆる宗教の根底的な統一性を得る」（アーノルド・J・トインビー）、「伊勢の深い森の中に、世界で一番古くて新しいものが存在する」（アントニン・レーモンド）、そしてもつとも強烈な印象を受けたアンドレ・マルロー（フランスの作家で初代文化大臣）の言葉、「あそこに『永遠なるもの』の祖型が、遷宮という仮像をとおして千古なを生き続いている」——から明白だ（同原典より）。

2020年東京オリンピック

外国人に、日本という国、日本人、そして

その心を感じとつて、理解してもらうには、「百聞は一見に如かず」で、伊勢神宮を訪れてもらうのが手っ取り早いのではなかろうか。

「謙虚」「奥ゆかしさ」を尊ぶ国民性ゆえに、日本人は、自己を語ることが下手だ。したがって、コミュニケーションがままならず、国際舞台でも、日本の貢献が認識されない嫌いがあり過ぎ、私は常に無念な思いをしてきた。この分野では、まさに「外交」下手だ。具体例を挙げると、たとえば途上国で日本の資金と技術で橋を建てて、終わりの部分にほんの少しフランスが関与しただけで、「フランスがつくった橋」となってしまう、といったこと。

海外でのコミュニケーションは、「奢らず、卑下せず」に、ハッキリとすることが大事だ。しかし日本人がそのアプローチを身につけ、駆使できるようになるには、まだまだ時間がかかる。

かからう。それで私は、2020年の東京オリンピックを機会に、日本を訪れる外国人の「日本の体験」に大いなる希望を抱いている。64年の東京オリンピックは、戦後日本の再建（交通網の整備、その他の近代化）に貢献した。当時アメリカ側でその海外広報に參與していた私は、日本を訪れたアメリカ人から、日本人の活気や快活さを知らされた。胸に「アイ・スピーカー・イングリッシュ」と書かれた札を付けた日本人たちから「キヤン・アイ・ヘルプ・ユー？」攻めにあつた、と彼らはおもしろがつた。

20年のオリンピック開催地が東京と決まって、それまで沈滯気味だった日本人の気分が、がらりと上向きに明るくなつたことも、ひしひしと伝わってきている。「いざ、おもてなしを」と意気込む同胞が、伊勢神宮体験を勧める事も忘れないよう願つている次第。

キヤロライン・ケネディ  
駐日アメリカ大使

こうした私の希望の高まりにもつとも貢献したのは、キヤロライン・ケネディが駐日米大使に任命されたニュースだった。

彼女の父、ジョン・F・ケネディを知ったのは、私のボストン大学院（ジャーナリズム専攻）時代で、彼の63年暗殺後のアメリカの悲劇に満ちた激動時代を、アメリカ人とともに体験した者として、特別な思い入れがあるからだ。

彼女自身が、「日本との深い友情をさらに発展させ、より良い、平和な世界を実現したい」とその抱負を語っているが、彼女はこれまでにない、すばらしい貢献を果たしてくれると大いなるであろうと、私は信じている。安倍首相の、日本女性の社会進出を支援する政策に呼応するかのごとく駐日大使とな

つたキヤロライン・ケネディは、日本にとって、初の「女性」米大使である。彼女にどうしては、父JFK暗殺50周年に政界デビューとなる。志を全うせざして凶弾に倒れた父の抱負とその無念を、彼女は深く内に秘め、遺志を継ぎやり遂げようとの決意を抱いているに違いない。日本にとって、何という運命的な展開であろうか。日本にとって、この展開は、新しい「門出」となるし、キヤロライン・ケネディにとつても、人生の新しい門出となる。

東日本大震災時に、津波に耐え抜いた「一本松」を見て、彼女は宮澤賢治の「雨ニモマケズ」を思い出したという。それを聞いた私は、彼女の「父上、母上、ありがとうございます」など、私は全力で頑張りますから、どうぞ見守り、導き、助けてくださいね」という無言の祈りの言葉が聞こえてくる気がした。

「日本という国の在り方」を提案する

人類の「心のふるさと」に

人類の越し方を顧みると、人類にもたらし  
た各国の貢献に気付く。哲学、建築、教学、  
産業革命、ファンション、そして儒教。ギリ  
シャ、イタリア、インド、エジプト、英國、  
中国が思い浮かぶ。

私達の国、日本は、世界第3位の近代経済  
大国でありながら、伝統を重んじ、自然界と  
の共存共榮を尊んで、千数百年も式年遷宮を  
繰り返し、日々の神への朝夕の食事を絶やさ  
ずにきた国である。こんな国は、まったく他  
に類がない。伝わってくるのは、「秩序」、  
「継続は力」、そして、本能的な「宇宙との  
一体感」ではないだろうか？

日本的人類への貢献をはつきりさせ、内外  
ともにそれを意識させる時が到来した、と私  
には思えてならない。

これまでには「見えるモノ」（物質）の時代  
だつた。しかし今や、私達の価値観は見える  
モノ（所有物や財産、権力の座など）で測る  
成功度から、人間としての成熟度、そして幸  
福度を重視する方向に向かっている。

「お金で幸福は男えない」ことを体験する  
人々が増加したこと、この意識の変化に貢  
献しているであろう。一方、国レベルでは戦  
争、個人レベルでは暴力がもたらす「破壊活  
動」に、人類が悩んでいるのは明白だ。農薬  
や汚染で、予期しなかつた人体への悪影響、  
さらに高齢化がもたらす諸問題で、人類は心  
身ともに疲れてきた、と思う。疲れた時、人  
は何を求めるか？ 「憩い」であろう。

留学して、当時のアメリカ人の物質崇拜  
(物、カネ最重視)の生き方に、「この人達  
は、モノを所有しているのか、それともモノ  
が人を所有しているのか」と驚いた私は、東

洋の精神文化と西洋の物質文化について目  
覚め、両者のバランスのとれた融合について  
しきりに思考することとなつた。人間の肉体  
のニーズを満たすのが物質文化なら、心のニ  
ーズを満たすのが、精神文化、では、と。

人生街道中、人々から私の元気のものは、  
と尋ねられることが増えて、気付いたのが、  
「ふるさと」だった。私にとっての「ふるさ  
と」は、最初は自分が生まれ育った地と、そ  
こでともに過ごした人々（日本、両親、家族、  
友人）との心理的「絆」だったが、それがい  
つの間にか自分の中のいしづえとなつて、内  
から私を支えてくれていた、と気付くことに  
なつた。

アメリカ人の歯科医が、ふと洩らした言葉  
は、「今日は日本人の患者の日と思うと、ほ  
つとする（時間を守る、“先生”としての尊  
敬から治療を任してくれる、きちんと支払い  
をする、そして訴訟を起こさない）」。そし

て、3年前の、あの忌まわしい3月11日の  
東日本大震災。支援物資を、「私達より、あ  
ちらのキャンプの人達がもつと困っている  
から」と他の被災者たちを優先した日本人、  
並んで「ありがとうございます」と受け取る  
日本人。その姿が世界に広まって、世界の  
人々が感動したこと……。

こんな国は世界に類がない。これこそ、今、  
世界の人々が何より必要とする「生き方」で  
はないか？

直接に触れる機会に恵まれずとも、「日  
本」のことを思う時、人々は「ほつとし、慰  
められ、元気づけられ励まされ、優しくなり、  
自然界に感謝する気分が誕生する」。そんな  
国、つまり「人類の心のふるさと」になるこ  
とをめざしてほしい、というのが私の新年の  
願いです。（株）柴田書店「月刊ホテル旅館」

昭 経 俳 壇

選者 佐々木 誠吾

剣太郎

朝七分帰り満開夜桜や

春の雪椿落として止みにけり

どんぐり

苗代の水車忙しき湯宿かな

小春日や熱海ひもの屋猫太る

鯉裂く夜包丁鋸く光りをり

春の雪ハミングしつつ女往く

板前の鯉さく腕はたしかなり

春の雪また春の雪雀跳ね

木苺を口にふゝめば朝すがし

犬面に似て來し飼主のどけしや

種子を播く苗代遠く那須ケ岳

遠峰へ草矢を放つ子齡七つ

お花畠甘き匂ひの風と寝る

すみ江

落日の胸に秘めたる桃の花

十薬の香にみちびかれ尼の寺

逢ひたいと綴る涙のつくしかな

道すがら契り交はすやおぼろ月

思ひつめ紅の椿の落ちにけり

山人

万燈の夜に咲くしだれ桜かな

恋おぼろ白き指への贈りもの

恋人のぼとりと落つる紅椿

遠青峯妻の手とりて登らんか

思ひ出をたぐれば悲し牡丹かな

紅牡丹恋に悶ゆるをみなあり

戦争のない国にさく牡丹かな

長谷川

開聞の岳よも近きやお花畠

富士の影水面をくづす水すまし

スクリューもつけず走るよ水馬

富喜男

こひのぼり風をはらみて泳ぎお

てでははの守りし浅草三社祭  
波を追ふ浴衣の女や由比ヶ浜

志未だなかばともかなぶんぶん

菖蒲湯に女ひとりの逃避行

ふるさとに草の匂ひの三社祭

清水の寺のたもとや濃あじさい

紫の雲井にあくる臯月富士

梅の実の音は霹尼の寺

悟風(旧詠)

十薬を抜けばうらみの香を放ち

更衣袖を鏡に通しけり

尼寺の奥にもあやし白牡丹

蟻突如首かたむけてひき返し

雲水の列みだしけり大夕立

三郎

青雲をはらむ帆船夏の海

無茶苦茶に働いていま古茶新茶

風鈴や風のかなでる子守歌

深呼吸春の空気を思ひきり

ふるさとは深くて狭し蟬の穴

咲いた咲いたを口ずさみる昭和の日

蜘蛛の囲のぐとく光りて四ツ手綱

見上ぐれば花その奥に花の山

### 京子

新緑の山ふくらます力かな

妻身の窓辺によれば花は葉に

病院の庭に咲きたるチューリップ

鄙のさと家ごとにある柿若葉

東京の曾孫すくすく昭和の日

山吹や七重八重にと咲き満ちて

中就く輝やき照れる柿若葉

花菜川炭都の名ごり今昔

惚け神にまだ用はなし柿若葉

## 後記隨想

佐々木誠吾

### ウクライナの危険な政治情勢

プーチンとオバマに見せたい雛人形  
プーチンとオバマに贈るひいなかな

三郎

春が近づいて恍惚として、つかの間の惰眠をむさぼっていたら、朝の朝刊の記事に叩き起された。政治的対立が続くウクライナで、海軍基地を持つクリミア半島にロシア軍と思しき武装部隊が全域を掌握しつつあって、これに歐米よりのウクライナ新政権が猛烈に反発している。プーチン大統領は、3月1日、ロシア上院からロシア軍の軍事活動の承認を取り付けたが、行動命令はまだ出していないと云う。しかしそれらしき武装部隊は既

にクリミア半島の全域に入つて、ウクライナ軍の関連施設に入り武装解除を進めているという。ソチでの冬季オリンピックが終わって始まつた行動だけに人々の落胆は大きい。現場で軍事衝突が起これば、歐米とロシアと云つた大国の代理戦争となつてしまふので、米・ロは冷静に対処すべきである。決めつけではないがプーチンは雰囲気からしてすぐに血が頭にのぼるタイプだから、気を付けないといけない。穩健な手法でプーチンをなだめ、上院からお墨付きをもらつたという軍事行動の命令を出させないように、その既成事実を作らせないように努力すべきである。ウクライナ半島は旧ソ連時代に、もともとロシア領になつていたところであり、その後自治共和国として分離独立した。複雑な歴史を以て常に混乱の小競り合いを演じただけに、しつかりした自治意識を持つた国に成長してもらいたいものである。六割近い

三月三日

住人がロシア系で、特にクリミア半島のロシア復帰を強く望んでいるという特殊な国だという。ロシアの海軍基地もあることから、ロシアの過剰な意識もあるに違いない。したがつてウクライナ、特に南部のクリミア自治共和国は、ロシアとの関係も深い国であることも承知すべきであろう。ブーチンが公に軍事行動を命令したりしないよう是々非々で対応してもらいたい。事態の鎮静化を望み、ここが火種となつて、米ロ冷戦に入つたりせぬよう、懸命な方策が必要である。力で以てこの国を、この国の民衆を奪い合うような愚策を行つてはならない。昔の冷血で暗黒的な帝国主義的侵略が歴然として、玉こそ一発も撃たれていないが行われている情勢に嘔ふたる思いである。願わくば、銃を砲砲して死傷者を出したりしないで、話し合いで解決することを望んでやまないし、全世界がそれに注目し、平和的な事態解決を期待している。

ウクライナとクリミア半島で今、政治体制と領域の争いで、お互いに牽制球を投げ合つて離れ業を演じている最中のブーチンとオバマだが、ソチのオリンピックを終えた途端に性懲りもなくこの有様である。ブーチンはウクライナに親欧米政権が出来上がつて尚混乱が続くことで、クリミア半島に居住するロシア人を保護するという名目で、自国の上院の許可を取り付けて、武装部隊を以て政府行政施設を完全支配下に置いた。オバマは、ウクライナへの軍事介入の対抗措置として、ロシアを孤立させるとして経済的、外交的対抗措置を以て望むとしている。目下のところ激しい雰囲気だが、今以て銃弾の一発も撃たれることなく状況が進展中であることは、極めて望ましいこと、これを最大限に支持した

いところである。

E U のドイツのメルケル首相が、ブーチンと電話連絡をして、懸命に仲裁役をとつているようである。アメリカとロシアの貿易額は4兆ドル、E U とロシアはその十倍の42兆ドルと云うから、E U とロシアは切つても切れない関係にある。チニピラ同士の国の争いならともかく、表立っては、米・ロの大同士喧嘩になつていて。喧嘩をするにしても親分同士の喧嘩だから、悠然たる風格を以て対応してもらいたいものである。同時に、これがしかのいざこざで、米ロが彼らの騒ぎを抑えて静肅に出来ない様では、この先國際社会において胸を張つて列国を指導していくような素質に欠けると思われてしまつても仕方があるまい。これは両大国にとつて大きな信用損失である。混乱の惹起は、大小にかかわらず、凶器の使用である。ヤクザまがいの喧嘩は、もうコリコリである。大国の勢力争

いが具現化して、小国同士の国が犠牲に遭い、罪のない国民がいつもそのはざまをさまよつて悲惨であり、こんな芝居は止められない。これが正直な民衆の願いである。それにしても古今東西を問わず、相変わらずの独裁者の豪奢な生活ぶりには驚かされる。ウクライナのもと大統領のもとでは、民衆の蜂起を以て新政府が樹立され、親ロシア政権のヤヌコビツチは大統領職を解任され、目下逃走中である。ヤヌコビツチは、国民の貧しさ、困苦を尻目に、巻き上げた税金を湯水のごとく使い、豪邸に住み、財物を隠匿して憚らない悪徳人物であつた。国益とは言え、そうした人物を擁護しなければならないブーチンも氣の毒であるが、ブーチンも同じような独善、独裁的な考え方を持つことになつて、早晚そのようなことがないようにお願いしたい。独裁、強権国家に多い類いの事例であり、共通した惡魔の仕業の残骸だからである。

散々の悪事を犯した後逃走するか、殺されるかである。

昔、ルーマニアのチャウチエスクが怒った民衆に捕捉され、無残な情景を残して惨殺された。妻も家族も、もろともにである。悲惨と云うほかない。近くにはイラクのフセイン、エジプトのムバラク、まさかと思う人が独裁の魔手に掛かつて悲惨な最期を遂げている。もちろん反対にそうした人たちの手にかかるて、尊い命を落した人たちが沢山いるわけである。初めは民衆を味方につけて見直の座を占めた者が、驕り高ぶり物欲におぼれ、今度は逆に民衆を敵に回して無残な最期を遂げる所以である。思うにその権力者は権力の座についていたとき、好き放題のことをし、秘密警察までを私物化し、あらゆる手段をつかて民衆を弾圧し、恐怖政治を敷いて己の欲望を満たすために、民衆を苦しめたのである。彼ら家族は、そのため、怒り立つ民衆の報復

に遭つた。その光景は悲惨であった。先頭に立つ政治家は常に心して、民衆のために働いてもらいたい。贅をつくし勝手なままに行動して正しい道を踏まず、貧しい民衆を敵に回したりすると、結末は惨めである。社会は日進月歩、グローバル化に進み、民衆の意識は格段に進んで向上しつつある。物欲に走る機会も多く、世界は金を巡つて鶲の目、鷹の目である。同時に残虐性も増してきているようである。為政者は魔手の誘惑にからず、常に私欲を捨てて公僕に徹しなければならない。

長期的には冷戦状態が解消し、問題をはらみながらも、温みつつある米・日関係に今回、予想もしなかった対立場面が起きてしまつたが、これを以て一発の銃弾の破裂もなく解決の方向に向いていくとしたら、二人の指導者としての素質と風格はさらに上がって、世界の人々の信頼を勝ちうることであろう。問

答無用で剣を抜くことはたやすい。しかしそれは破滅以外の何物でもない。ここは忍の一文字で、お互に自制して、辛抱強く話し合いを以て平和裡に解決を図るべきである。そのことは過去の歴史もそうだし、最近起きていたりの争いことを見てもそうである。これを見て政治的後進国特徴と見なければならぬ。先進国で民主政治の行きわたりつていふ國は、レベルの低い貧しい國と同じような結末をもたらしていくは、無様である。

軍隊を出したが、一発の玉も撃たずして解決して平和をもたらしたとすれば、英雄である。ここは安倍さんの「云う積極的平和主義」の發揮すべきところである。集団的自衛権の容認とか、実行などを云々することも大事だが、日本の安倍さんも、この二人に力を貸してやつてほしいものである。集団的自衛権の意味するところは理解できるが、世界の潮流は随分変わってきている。それに対応した考え方

が必要である。たとえば尖閣諸島で日中の間で軍事衝突が起きた場合に、日本国が攻撃を受けた被害を受けたからと云つて、それではアメリカが自國に受けた攻撃と見做し、即座に日本の立場を支持して中国に反撃をかけられるかと云つたら、今は不可能に近いだろうと推測される。米中が以前より密接度を増した関係に立つてるので、微妙である。変な話、安倍さんの靖国参拝以降、アメリカを含め日本に対する、世界の見方が変わつてきていることは事実である。なにも下でに出ることはないが、しかし隣国に對しいたずらに挑発的行動をとつていて、無益であり、逆効果だとみられている。状況は変わつてきている。軍事的対立を想定する集団的自衛権の問題を論じるよりも、対立を回避した関係の樹立を目指す努力が必要だという認識を、今、世界は持ちつつあるので、ひとり日本だけが独自の考えを以て関係諸国に理解と協力を求

めようとしても、所詮は無理と云うわけである。ウクライナの国内紛争で、ロシアが静かに軍隊を出したが、普通なら、馬鹿馬鹿しい戦争になっている。こうした時期にこそ大膽に演出して、世界の安倍さんになつてもらいたい。豪放磊落、図太い人間はいないかも知れないが、したがつてあてにならないが、

外務省の役人を使って素早く、プーチンと連絡を取り、親睦と信頼の証としてモスクワに飛んで世界平和のため、紛争解決のため、出向いていってもらつてもいいのではないかと、多忙な安倍さんには申し訳ないが一人合点して思つているところである。先進国では安倍さんだけが首相として、折角ソチまで行つてオリンピックのお祝いに出席したわけだから、無碍にもできないし、今までの何回かの首脳会談を経て信頼関係は深まつてゐるはずである。

その時の土産には、雛人形を差し上げると

いいかもしない。雛の可愛い顔を見ていたら、喧嘩など馬鹿馬鹿しくなつて出来なくなるだろう。昨日は三月三日、ひな祭りである。

三月四日

仰天！　スタッフ細胞の発見と、

佐村河内守の猿芝居

よくよく考えてみると、何と馬鹿げたことをでかすのかと、人間の浅はかさに驚く以前に、可笑しさがこみあげてきて滑稽であり、事実は小説よりも奇なりの云いふらしを思い出して、馬鹿笑いしてしまつた。良しに付け悪しきに付け、人間のなせる業は見事であり、完成度の高いものであることが分かる。しかしそれは得てして残念の極み、と云う表現で終わつてしまふことの方が多い。人々はそれを聞いたり見たりして信じ込んで、あとで騙されたことが分かつて、被害がなかつた

ことを良しとして、事の面白さに感心して安堵するのである。むしろ逆に滑稽さと楽しさが湧いてきて、憎めない面が出てきて、その嘘を許してあげたりするものである。堅苦しい世の中でもいけないし、多少はゆるさがあつてもいいのではないだろうか。緩みっぱなしでも困るが、あとになつて反省して気持ちを引き締めるくらいの余裕が生じれば、良しとすべきであろう。

スタッフ細胞と、佐村河内守の滑稽さは、あたかも科学実験した結果の突然変異である。スタッフ細部は、研究チームのリーダーが、成果を発表した時の場面と雰囲気が素直に見えて可愛らしかった。同じように佐村河内守の方も、まつたく別の人間に成りすまし、人前で演出する度胸は詐欺的と云うよりも天才的な振る舞いに、役者顔負けの振る舞いに感動してしまい、ビデオではないけど、そ

の場面を何度も繰り返し見てみたいという気持ちにかられるのである。それほど真に迫つていて天才的であり、いわば芸術的とすら思うのである。それにもまして主役を演じた人よりも、慌てふためく観客の方が見ていて面白い。大発見だと大讃辞を以て、我先にと争つて報道した大新聞の慌て振りも滑稽で面白かった。ご多聞に漏れず、小生自身も、それをまともに受け止めていた一人であつて、スタッフ細胞についてはわかい女の子に多少の違和感を覚えながらも、大なる賛辞を惜しまなかつたし、理事長として貴重な欄を割いて、前号のホームページに時間とスペースを割いて執筆をしている。

万能細胞の適応によつて多くの悩める患者を救済することができれば、人類史上これに勝る貢献はないと確信していたところである。責任ある記事を書いている小生としては何とも言えない心境であるが、安倍さんの

国会答弁ではないが、この執筆については私が全責任を以て対処しますというところではないだろうか。もともと「人は全て虚言者である」という戒めの言葉があるし、嘘から出た誠、もあるし、期待するところは、根もない嘘から芽が生えると云うことだとすれば、それは偶然であつて、眞実として規則として決定づけられるものではない。嘘は基本的に残っている。しかし科学の世界には謎が多いし、偶然が、新しい種の発見と、創造につながることだってあるだろう。スタッフ細胞は存在しなかつたという結論ではなく、頭から否定する必要もない。ひょっとすると再生医療の先端を行くもので、激烈な競争が繰り広げられているので、暗中模索と、勇み足だつてあるが、研究の過程で虚偽や騙しがあつては、何のための研究なのかわからなくなってしまうはずだ。

嘘がばれてしまつた時の記事と、うそを發

表して大讚辞を送る朝日、読売、毎日、日経などの大新聞の記事とを比較すると、予想と的とが外れたインテリの慌てぶりが面白い。見ていて、この方がむしろ滑稽である。スタッフ細胞の発見で、大をつけて賛辞を惜しまなかつた学者や研究機関も、今度は腹いせとばかりに、逆に論文撤回に狂奔し始めた。女子の子には氣の毒だが、自主的に申し出て、博士号の称号も返上したほうが良いだろう。現代のベートーベンと絶賛されていた佐村河内守は、化けの皮がはがされても堂々として記者会見し、大勢の詰め寄つた記者たちを煙に巻いて名譽棄損で一緒に仕事をしてきた友人を告訴すると云い張つたりしている。これではいけない。素直に謝罪して、本意はたとえ体に欠陥があつても努力次第で立派な人間になつて世のために尽くすことができることを、つかの間で残念だが与えてくれた。それが単なる演出だったとするから残念な

のである。スタッフ細胞の方は、研究者に成りすました可愛い女の子が、本件ではなく、別に博士論文の疑惑まで暴かれて、二年前にとつた博士号の剥奪までに発展してしまった。フェミニストを以て任ずる小生は、可愛い子ちゃんを頻りにかばつてしまふ気持ちだが、なんでこんな事態になってしまったのか、一番よく知っているのはご本人だから、インテリたちは飯のタネにしようど、嘘をついてきた動機を知ろうと興味津々である。

いずれにしてもこの騒動、何とも憎めない人間の性を見せつけられたようで可愛いではないか。逆に拍手を送つて、この芝居を続けて行つてもらえば、そちらの見栄つ張りな御仁より結構面白い話になつて、世の中はまんざらでもないような気がしてくる。吉本興業のへんちくりんのへば役者よりもっとである。彼は天才的騙し屋であるが、それを前向きに活かして真面目な生き方をして、世

間をわたつていくことは可能である。吉本興業あたりで高待遇で雇つてくれるだろう。女の子は高校程度の教師か、芝居小屋の呼子だつたりすると千客万来で大うけするだろう。決して好ましいことではないが揚げ足を取らず被害に会つてゐる一人を、この際助け出して、励ましてやることは良いことではないか。嘘がばれてしまつたが、いい結末と面白さを与えてくれたことをプラスアルファとして済ましてはどうだろう。

「つかの間であつたが、スタッフ細胞は勉学に励む若い学生たちに奮起とチャンスを与えてくれたし、佐村河内守は、多くの音楽爱好者が賛美を惜しまなかつたほどに感動を与えてくれた」 ことだけを以て勘弁してやれないだろうか。それにしても佐村河内の杖について黒メガネに黒い帽子、長いひげの芸術家らしい風采と特徴は、記者会見の時には人が変わつた、まるで別人のような姿で出て

きたのには驚いた。これも手品師のような振る舞いで、自分自身を変えてしまった。変装の天才である。オーケストラを前に、指揮棒を振つて本物顔負けの演出をやつてのけた佐村河内守の天才的演技をもう一度見たいものである。開き直つた記者会見はいただけないが、普段お目にかかる指揮者よりも、演技は真に迫つて上手であった。詐欺と云つても、あからさまに金品をだまし取つたりしていないし、オレおれ詐欺とは次元が違う。障礙者と云えども努力次第で立派な人生を歩むことができ、多くの人々に感動を与えて、世のために人のために尽くすことができるといふことを、眞実として与えるだけでも立派だと思っていた。落ち着いて考えてみると、しかしながら、恐ろしいことは、嘘がそのまま走り出して、いつまでたつても分からずに過ぎていくことの方が気味悪く感じ、いやらしく感じてくるのである。やはり嘘はばれる

ものであり、それでよかつたと思っている。佐村河内の場合は笑つて済ませるが、スタッフ細胞については困つたことにハーバード大学まで巻き込んで、世界的科学雑誌ネイチャアまで巻き込んで、うわさは世界中に及んでしまつてゐる。どうしてあんな芝居を演じなければならなかつたのか、判然としないところが煩わしく神経に触つて仕方がない。自然科学の世界、学者の世界はよくわからないが、偶然がそうしたのか、作為的にやつたことか、それとも矢鱈に物議を醸して世間をあつと云わせたかったのか、その真意が本当によくわからぬでいる。単なる名譽欲で晴れがましく騒ぎ立てたことなのか、ごまかしの学術発表などバラることが分かれているのに、しかも大々的にやり抜かしたことが、いずれにしても天才でなく、アホで間抜けとしか言いようがない。みーちゃん、はーちゃん族に振り回されたみたいで大人は

馬鹿みたいである。それにして科学の牙城とも言われて権威のある理化学研究所の内部でこんなと素人みたいな研究と論文が、張り、検討もなされずに、すんなりと発表されるもんだと、今度はそちらの方に心配と懸念が出てきて仕舞う。この研究所は国の支援を受けた活動しているところである。先輩たちが長年苦労して築き上げてきた学問、研究の権威は地に落ちて、これが事件となつてどこまで騒がれていくのか、日本の科学、学術研究に対する信頼性に大きく傷つく問題であつて、揺るがしにできない問題である。真相解明に努力して、関係者は今後こうした不明朗なことがないように格段の注意を払つていつてもらいたい。

三月一三日

東北の大震災の犠牲となつた人たちに改めて鎮魂の祈りを捧げます。同時に津波や放射能被害の犠牲に遭つてまだ避難生活を続け不自由な生活を強いられている人たちが十五万人以上もます。震災からの復興は地域や場所によつてまちまちですが、遅々として進まず、荒涼とした風景のままに残つているところが大部分です。仮設住宅や慣れない地域に生活している多くの人は、故郷を追われた高齢人たちで占められて難儀な生活に明け暮れています。そうしたことが原因で体調を崩し、新たな病にかかるて亡くなる人もいます。これも震災の犠牲者です。生活環境の改善と、国の対応が必要ですが、大震災地に特有な経済状況がこれを阻んでいます。働く人の不足や、資材の高騰で予定した計画が実行されずに置かれています。そうしたことがありで、復興に予定した予算の執行も消化されず、三兆円もの予算がそのまま復興基金と

して積まれることになりました。これだけの  
物的裏付の復興計画が遅れていることで、被  
災地の救済がその分遅れているという厳し  
い現実が横たわっています。

アベノミクスの経済政策で景気回復を確  
かなものとするには、第三の矢の成長戦略の  
推進が叫ばれています。そうなれば市場環境  
はさらに厳しく、計画の実行に大きく影響し  
てくることでしょう。六年後の東京オリンピ  
ックを控えて、経済環境の厳しさはさらに増  
して、東北大震災の復興がさらに遅れること  
も危惧されます。いつまでたっても止まない  
福島原発事故の被害、そして放射能汚染水の  
しそりが行く手に重くのしかかっています。

業界に広く行きわたるようでなければ、人々  
は肩透かしを食つてしまします。物価が上  
がつて更なる生産活動に刺激が加わり、経済の  
良好な循環に入つていけばいいのですが、こ  
との成就是なかなか難しいようです。物価だ  
けが上がつて、庶民の生活が苦しくなるよう  
では、アベノミクスは失敗に終わつてしまい  
ます。経済の舵取りが難しい局面が、当分続  
いていくような感じです。正に正念場であり  
ます。そうした時に、先の東北大震災と原発  
事故の被害に遭つてている地域の復興と、人々  
の生活の復興を忘れて、置き去りになるよう  
なことがあつてはなりません。

私は二十三年三月一一日、東北を襲つた震  
度9・3の大震災と、その後に発生した巨大  
津波に震撼しながら綴つた記録と和歌三百  
余首が、当時の昭和経済五月号に明らかに載  
つており、それを見て改めて、その時のいた  
たまれぬ焦燥の感情を強く持つたのです。何

らかの形で記録をとどめている人はもちろん

で、皆さんも現在の新聞記事や雑誌な

どで、現実の今に立って、あの日を単なる過

去としてとらえ、今の論評を繰り返し読むこ

とよりも、当時の記録を手にすることが

極めて鮮烈に事実に迫ることができて有益

だと思います。日記の大切さと同じで、歴史

的事実が強烈によみがえってきてきます。私

は別に俳句を昭経俳壇にのせております。選

者は故遠藤蘆穂先生でした。

汚染地の田打ちに畸形のみみづ出で

震災の奥の細道春田うち

震災の愚痴は云ふまじ田を返す

放射能に脅える春の大洗

菜の花に遊ぶ童は黄泉に発つ

不気味なり原発基地の寒の明け

津波来や港は春の海の風

人災の原発事故に春の雷

鯉のぼりがれき層なす街を見て

街呑みし大津波あと田螺這ふ

大なるにゆるる大地や花疲れ

みなしそとなりぬ被災の果ての春

ててははの波にのまれて黄泉の花

## 富士ビューマンション行

富士ビューマンションの管理組合の年次総会が、十一日正午から現地の御殿場ゴルフ俱楽部のクラブハウスで開いたので、朝九時半に家を発ち、車を運転して東名道路をひた走りして予定の時刻の十一時に現地に着いた。富士ビューマンションは御殿場ゴルフ俱楽部とベルビューゴルフ俱楽部とがある敷地のなかにあって、同じ管理の中にある。マンション自体も完璧な管理運営を志しており、今まで無事故に來ていることは幸いである。この日は快晴に恵まれ、小田原を過ぎたあたりから雪を戴いた富士の麗峰を正面に見ながらアクセルを踏んで気分は爽快そのもの、浮き立つ気持ちを抑えることができないくらいであった。久しぶりに長距離の運転にひとり出発しただけに躊躇するところもあつたが、思い立つてみたら気分爽快なド

ライブを味わってきた。室内からは途中の運転を無理せずに休み休み行くように言われていたが、大型トラックに追い越されると追い越し車線に出て、追い返して遠ざかっていく時の気分は醍醐味だった。だからと云つて速度制限を違反してまで走ることはなかつた。娘が好んで求めたBMWは車体が頑丈で走り出すとエンジンの快適な音もそうだが、タイヤが地べたに吸い付いて安定感があり、加えてスピード感が味わえるのが魅力であり、なおも安定感の増幅につながつてくる。あつという間に御殿場インターについてしまつた。

通常は138号線を箱根の乙女峠に向かつて途中から箱根スカイラインに入つて長尾峠に向かうコースと、いきなり三島に向かつて行く道を利用して途中から左折して御殿場ゴルフクラブに行く道に入つていくコースとがある。この日はあとのコースを選んだ。二岡の公民館まえを右折していくと、のどかな田園風景

が視界に入つてくる。右手に大きく富士山を眺めながら折から満開の桜を楽しみ、春爛漫の季節を楽しんでいくことができた。この辺りに土地を広く持っていたならばよかつたなあと残念に思いながら、若い時の意氣盛んな行動を振り返つたのである。この辺りは古くから元首相の岸信介や日銀総裁を務めた一万田などが別荘を構えていた地域である。ここでのどかな風景を見つけた。田圃に入つて土を耕す農夫を見つけて、何となく安堵感の湧くのを覚えたのも嬉しく、若い時から憧れていた百姓生活の楽しさに思いをはせたのである。南向きの屋敷を以て、広々とした田畠を前に控えて、そこから富士の山を毎日眺めながらの生活はなんと恵まれた時ではないだろうか。鶴を放し飼いするのも実に楽しいものである。計画は人生設計の一部であり、やつてやれないことはないと、今からでも遅くないと思いながら車を運転していく。

御殿場ゴルフ俱楽部について、早めの時間を利用してクラブの管理会社の社長と要談して話しあつた。同俱楽部と、さらに上に広がるベルビューゴルフコースについて経営上のことを含めて話を伺つたりした。御殿場ゴルフのコースはすべからく、富士に向かつて球を打つといわれるくらい、コースはアシップダウンがあるものの常に富士山を左右前後にして球を打つてゆくので、気分は優雅であり豪快でもある。この日も晴れ渡つた空に富士の麗峰を眺めながら、話し合いは滑らかに進んでいった。その富士さんは、真っ白な雪の頂がさんさんと輝いて、折から満開の桜の花に、巨大な富士の山は他を圧倒し、雄大にして妙なる姿を置いていた。

正午から総会がこのクラブハウスの会議室で始まつたが、出席者時は三十余名、その前にも勢に用意された昼食を戴いて和氣あいあい、例年通り議長を務めた私は、事務局長の市川さんの司会で議事をスムーズに進行し、議案であ

る重要な項目の議案であった各項目の審議と決議も順調に進めていくことができた。懸案のエレベーターのリニューアルの問題についても、全会一致して予算の承認を得た。そこで東芝初め、SECその他の工事責任者から説明を受け、一気に決議に持ち込んで異議なく承認を得た次第である。このマンションには50世帯が利用して夏に避暑地として活用している。建物は古いが、私が理事長を務めている約15年間の間に、三回ほど内外の改修工事を行つてきている。最初の時は、一億三千万を予算として計上、これを実施して完了したことがある。今回も例年通り決算、予算の審議と決議を経た後、全会一致で決議し、更にはエレベーターのリニューアルに取り掛かることも審議し、決議した。

会後、私は素早くみづからの行動に移し富士ビューマンションに行って部屋に入り、ベランダのカーテンを引いて風を入れ軽く掃除機をかけるつもりでいた。瞬間、一瞥した富士の全容に改めて圧倒される思いで、その場に立ちすくんで雄大な絶景に見とれていたのである。富士の姿は刻一刻と変化して留まることをしない対象だから、鮮やかに、变幻自在にその姿を変えてしまう。いえることは、ここから眺めた富士の山は、四季折々を通じて天下一の景観だということである。

遠くから遠望できるこの白亜のマンションは六階建てで、箱根連山のほぼ頂上に位置している。ここから伊豆スカイラインを通つていくのであるが、道路は延々として伊豆の最南端の下田に続いている。このマンションの玄関を出ると、すぐに長尾峠の長尾隧道をくぐりぬけると、

ことになる。いつ来ても快適安全なリゾート生活を満喫していただることになる。

その先は箱根仙石原と空を境に広漠とした箱根の大パノラマである。ここは長尾峠をトンネルで出たところの展望台だ。つい最近までここに峠の茶屋の店があつて、軽いお茶が出されていた。今はその小屋が取り払われて、景色を遮るもののがなくなり、眺望が開けて、視界は広々として爽快である。眼下は箱根国立公園を一望する絶景を鳥瞰し、芦ノ湖や仙石原に点在するゴルフコースや、モザイクのような平原に立つホテル群と、さまざまに眼下の遠望を楽しむことができる。正面には赤茶けた山肌を晒して箱根山がそびえ、火を噴きだすように煙がたなびいている。一望する全景は絵のように麗しく、三百六十度の半分を手中に収め、油絵をなぞつたようには堪能できるのが何とも言えぬ醍醐味である。背後は県境を示して屏風のように連なる箱根の山々である。仙石原には古くから名門の仙石原ゴルフ場があるが、これは富士屋ホテルの経営である。今回、富士ビューマンション

の総会を現地で開いた理由は、先にも述べていったように、東京人重洲富士屋ホテルが閉館されてしまつたからである。残念ながら、定例総会を開くことができなくなつてしまつた。私にとっては長い間、それこそ開館以来、愛用してきたホテルだったがゆえに、人手に渡つてしまつた今のは耐え難く、且つ惜別の思い切なるものがある。

ところで富士ビューマンションは、もともと暑さに弱い母のために買い求めたもので、つれてきては富士の麗峰はもとより、長尾峠のこの場所から、この絶景を楽しんでもらっていたが、その時に撮つた写真が今でも大事に飾つてある。ここから仙石原に下つて行く道は極めて狭く、蛇行を繰り返していく7キロほどの道のりだが、夏の間は蔽い茂つた樹木でわからなかつた景色が、芽吹く前のこの時期には枯れ木の間をすつかり見通せて、万感の思いで見ることができた。いつものコースだと、緑の並木道の1

38号線に出てから、仙石原までの緩やかな下り坂を走り、最初の交差点を過ぎてしばらく行くと、右手にハイカラな小田急ハイランドホテルが目に入つてくる。このホテルの雰囲気が気に入つて、私はいつも庭に面した広いロビーでコーヒーを注文して、ゆったりとくつろいでくるのが楽しみになっている。家族と一緒にの時も、もちろん楽しみのコースとしていた。毎年の夏を箱根の別荘で過ごす相互施設の城戸さんも、好んでこのホテルに立ち寄つてお茶を飲んで休憩をとつていくようである。夏の季節の間に何度か、ここでばつたり出会つたりしたことがあつた。城戸崎さんは私の事務所のビルのオーナーで長年お世話になつてゐる。

ロビーから庭園に出て、せせらぎの地に足を延ばして奥まつた川べりに赴いていくと、さわや時かな風に当たりながら、時折聞く鶯の声にじつと耳を澄ましているのも、都会では味わうことのできない自然の甘美な息使いを感じて

くる。妻もつれてきてやればよかつたと、しかし用事を控えているというから仕方がないとして、ひとり漫然として逍遙している気分もある。自由放漫に過ぎて、まるざらでもない心境である。帰りには下つてきた庭園の坂道を一気に駆け上つていき、心臓のポンプを鍛えて若返つてきた。午後三時を回つていたが、あと一泊するのも用事を控えていたので断念し、そそくさと帰途につくべく、乙女峠を越えてくると御殿場の二岡で豪華絢爛に開かれていた桜祭りに気づいてハンドルを右に切つてUターン、満開の桜並木を潜り抜けてきた。豪華絢爛の桜の花の光景を心に刻みつけて一路、東名道路を快走して無事帰宅した。その間の所要時間は一時間三十分。あつという間の快適なドライブであつた。総会の議事進行を無事にすませてこのたびの富士ビューマンション行は、世俗の騒情を離れて僅かな時間だつたが、大自然の清澄な世界の空氣に触れて、心身ともに充分に清め癒されて

きた。そして明日への勤労に再び、清新な気分を以て努めることが出来るこことを感謝してい  
る。

四月十三日

て後につきてく

にわとりの声のどかなりのびのびと昼のさが  
りの春の里やま

東名の高速道路を快走し真なかに迫る富士の

麗峰

富士やまの七段目ほどの嶺になほ真白き雪の  
光るこの春

桜咲く二岡をすぎて春かすむ雪の富士やまで  
かく迫りく

二の岡を過ぎ里やまののどやかに春の峠をさ  
してゆかむや

春の日の光を受けて里やまの人のはひのの  
どかなりけり

御殿場を過ぎて二岡の里に出で桜並木の下を  
行くわれ

御殿場の桜まつりの花をめで二岡の並木みち  
を行くわれ

ふかやまの人恋しさに山鳩のほろほろ啼くき

箱根路のみやげ屋に入り陶器場の素焼きの壺  
にえがく富士やま  
陶器場の素焼きの皿に富士やまを書き藍いろ  
に染めて焼くなり  
里やまに青き夕餉のけむりたち地酒をつぎて  
ひとり飲むなり  
せせらぎの音をたづねてふみいりし山路に咲  
ける白ゆりの花  
恋しさのつる旅路の山の端の蒼きを見れば  
おもふふると  
久々に訪ねし御殿場ゴルフ場富士に向かいて  
打てる白球

豪快に打てばみそらに富士が嶺の真しろき雪  
に消えし白球

## 平成二六年度通常社員総会

昭和経済会の二六年度の通常社員総会が二六日の午後六時三〇分から富士屋ホテル二階にある割烹の（桂）で開かれた。総会は所定の議事、議案を慎重に審議して全会一致決議してつつがなく終了した。初め議長は指名を受けていつものように私が勤めたが、司会を務めてくれたのが、昨年一〇月に当会の事務局の次長に就任した山本明徳氏である。

同氏は息子の後輩に当たり、長く交友関係を以て社会に臨んできた一人であつて、息子の強い推薦に確信を以て決断した次第である。慶應義塾大学経済学部を卒業、成績優秀にて日本旅行に就職して社業の発展に活躍して來、昨年退社、同年秋、当会の事務局に招へいされた。若干四十三歳の好青年であり、頭脳明晰は無論のこと、律義な性格と礼儀正

しさはもとより、イケメンであり年齢的にも実力をいかんなく發揮しうる年齢であり、当会にとつても将来を期待しうる人材と確信しているところである。それを裏打ちするよう今回の総会については手際よく準備万端整えて、名司会を務めてくれたので、総会は滑らかに和気あいあいのうちに進めることができた。総会でも改めて各位に紹介し、同市の就任を異議なく承認を得たところである。

又、今回の総会は、当会が公益社団法人に移行して第一回目の総会である。それにふさわしい内容であつた。自覚すべきは、旧大蔵省本省の大蔵官房所管であつたことである。知的レベルは高く、世に在つて果たす職責は常に重大であることを認識して、万事にあたることを旨としている。それにふさわしく我々は努力研鑽の道を歩んで、世のため人のため、さらには世界のために尽力すべきもの

と認識している。振り返れば、先人たちの自らの努力研鑽もそうであつたし、会の発展に寄与して以て自らの企業經營に反映させていつたことが、会の存続と發展の原動力でもあつた。とりわけ監督官庁の財務省の担当職員の、暖かい助言と、高邁な鞭撻もあつて今日まで職責を果たしてきたことも大いに回顧されなければならない。

それは戦前、戦後の思想的変革と試練の中につれて、耐えてきた苦惱と苦闘の歴史でもある。搖るぎない理念が歴史と存続を維持してきたのである。かくして目出度いことに今年は昭和経済会の創立八十周年にあたる。歴史は高邁、不屈の精神を以て活動してきたこと、そしてそのことは、これからも英知を以て、活動の姿勢を持続する原動力を内蔵していくことの証左である。その歴史と足跡をたどり明記するために、それを将来の持続的發展に繋げるための契機として、祝賀する行事

いろいろと企画立案するところであるが、これからは若い諸君たちが血氣を燃やして余に出ていくべきであり、時代はますますそのことを要請している。これを先取りして当会もますます若返りを図り、清新の気みなぎるものとしていくべく、切磋琢磨して時代の波に立ち向かっていかねばならない。ややもすると内外の情勢は、国粹的な狭隘とした考え方に戻りがちな風潮であるが、こうした時こそ自由闊達な氣概を以て世に、世界に臨んでいかなければならぬと思つてゐる。当会は老、壯、青の年層の調和を以て自由闊達な活動を通じ、それを基本的土台として何時の時代にも通用する、普遍的な精神を以て皆とともに歩んでいきたいと念願している。

長年当会の常設会場として活用させていただいてきた八重洲富士屋ホテルが、この三月末を以て閉館することになった。同ホテル

は一九八三年に開館し、爾来内外の多くの愛好者を以て今日まで栄えてきたが、昨今の都市改造化の大きな波に、乗つてか飲まれてか知らないが、閉館することになつてまことに残念の極みである。名門の東京八重洲富士屋ホテルの灯は、その場から消えるかも知れないが、その間ともに歩んできた多くの思い出は語るに尽きないものがあり、思うに惜別の情切なるものがある。当会としては例年なく二月に定例の講演と親睦の会を富士屋ホテルの桜の間で行い、又最後の別れとして一昨日、当会の総会を同ホテル二階にある高級料亭の「桂」で、心を込めて盛大に開いた次第である。出席者には八十六歳になる井浦康之先生はじめ弁護士の富田純司先生、石黒先生、岩尾先生、税理士の板橋則雄先生、松下先生、徳川ミュージアムの徳川真木館長、住産サービスの鈴木亮社長、西村社長、野田常任理事ら顔なじみの総勢十八人が出席した。

委任状を含め総会は全員が参加して議案のすべてを全会一致で決議した。

通常は富士屋ホテルの宴会場を定席として使つていたが、三月決算期を迎へ、加えて今月を以て同ホテルが閉館するため予約で満員となつて急きよ桂に設営したわけである。不思議な巡りあわせで開館以来同ホテルの重責に立つ奥山仁氏には大変お世話になつてきた。途中転勤になつたりしながらも律義に音信を続けてくれ、なにかと世話になつてきた。最後になつてしまつたが、昨年出向先から同ホテルに戻つてきて、当会との交際の最後を締めくくつてくれたようなもので、縁とは不思議である。会場の担当者として挨拶に見えた同氏は、ウイスキーの差し入れを以て、最後となる会を盛り立ててくれたのである。情義に厚く、こころねの何と優しいことだろうか。昨日は経費の清算に来社されたが、時に昭和経済会の機関誌二冊を持参され

た。それは彼の人生にとつて手放すことのできない「宝」だといつて示してくれたのである。私も感慨深く聞き入つて、且つ二冊の昭和経済に見入つたのである。二十年前に編集、発刊されたものであつて、今日と同様、確かに私の巻頭言と後記隨想に書いたものであつた。一瞥してすぐに当時の光景が手に取るよう鮮明に浮かんできたのである。

三月二七日

八重洲 富士屋ホテルの奥山仁さんが「私的人生の宝のです」と云つて持つてきてくれたのは、約二十年前、昭和経済会が月刊誌として発刊している昭和経済の第四六巻

四号と、同じく四七巻一〇号の一冊であつた。編集人であり発行人である私が、自分の事業のほかに会のために心血を注いできた仕事であり、自分の生きがいでもあることは言うまでもない。その作品を読者の一人が、「人生の宝」として、自分の身から離さないで持つていると云われてみると、ふと気が付いて感謝の気持ちが心の底から湧いてきたのである。とにかくその雑誌のおもて表紙と、執筆した後記隨想の一ページを、それぞれA4に拡大してその場でコピーさせてもらつた。第四六巻は今から一九年前の平成七年に発刊されたものであり、第四七巻は一八年前である。いずれも二十年近く遡つた時のことが記してあつた。奥山さんが今五十歳になつたといわれていたので、彼が三十歳の時である。奥山さんとは、連綿として続いてきた付き合いであるが、ホテルマンとして礼を以て情義に厚く、感性豊かな人柄がうかがえるの

である。惜別の思い、拭いがたきものがある。

一つは「講演と見学の旅」を綴つてあり、一つは富士屋ホテルで開いた「創立六十周年記念祝賀会」の模様を描いたものである。二つの行事とも、富士屋ホテルの奥山さんの手にかかるもので、私の記憶にも鮮明にきざまれている思い出の行事である。二つとも極めて詳細に書かれてるので、目下のところ記した記事のコピーは途中までしかないが、読んでいると当時のことが懐かしく思い出されて目に浮かんできたのである。これを手にする会員の人たちにとつても、きっと素晴らしい思い出の記録となつて、奥山さんと同じように、この雑誌を抱きしめたい気持ちになるに違いないと思つた。

講演と見学の旅では、富士屋ホテルの大型豪華な観光バスを一台仕立てて一路筑波学園都市に向かつた。筑波大学で途中下車、同大学の教授であり、同病院の副院長の山下

亀次郎教授の講演を聞いた。山下先生は糖尿病の研究と治療の大家である。この日は「成人病 その克服と予防」と題して約一時間の講義を有意義に拝聴した。そのあとは再び常磐高速に乗つて水戸偕楽園に向かつた。おりしも水戸偕楽園は、梅の満開の時であつた。

もう一つは恒例の講演親睦会を「創立六十周年を記念して」、富士屋ホテルの桜の間で開いた時のことを綴つてある記事である。盛大に開催されたものであつたが、会員各位のそれぞれの感動的な挨拶なども沢山あつて実に楽しい場面が映し出されている。いずれも八重洲富士屋ホテルを思い出す場面の一つとして、改めて回顧する機会があれば幸いだと思つてゐる。

その富士屋ホテルは今日を以て閉館することになつた。東京駅前の人重洲の一角を占めて、四十年の長きこと、名門の名をほしいままに、街を華やかに優しく灯し続けてきた

姿は、さびしい限りだが今日を以てこの街から消えていくことになってしまった。私は今

\*

日の朝方、今まで沢山のお世話にあづかったホテルの人たちに感謝しつつ、最後に入館してホテルに別れを告げて来ようと思つて立ち寄つたが、既に玄関前には多くの職員や關係者が集まつて名門富士屋ホテルの最後の姿を惜しみつつ、閉館の締めをくくつていた最中であつた。その様子を爛漫と咲く桜の花の下で感慨深く眺めていたが、同ホテルの得意としたフランス料理のコック長を初め、調理の白衣をまとつた料理人たちが一列に並んでいたのが印象的で、別離の時の、ひとしおの哀歎を誘つたのである。奥山さんはじめ、親しく知り合いになつた多くの職員たちの姿も、咲き誇つた桜の、満開の花の間に見えかくれしていた。

名門の富士屋ホテルが幕を閉じ街の姿もかはりゆくなり  
あるじなき富士屋ホテルの前に咲く桜の花  
が雨にうたる

半世紀近くに榮ゆ名門の富士屋ホテルの波  
にのまるる

不動産開発業者に買ひ取らる富士屋ホテル  
のあはれ末路は

友ら来て人を招きて学び舎の富士屋ホテル  
の赤松の間よ  
師を招き友ら集ひて学ぶ日の富士屋ホテル  
の影は失せしも  
磯ぶりに消えてホテルのあと虚し桜の花と  
ともに散りゆく

## 表紙絵のことば

関根 常雄

### コロッセオの風景

昭和四十九年、昔の話になりますが、私のその時の話を綴ってみました。当時の日本はバルの最盛期でした。洋服業界では、ヨーロッパに追いつけ追い越せの時代でした。私はヨーロッパの技術を何としても取り入れたく、イギリス、イタリア、フランスとあらゆる物を取り入れて居りました。そんな折に大手のカネボウ㈱が日本から5世界に向けて「日本大賞コンテスト」を掲呼して催し、外国からの公募をつりました。

カネボウの日本大賞、賞金百万円、金賞五十万でした。私も若いつもりで公募しました。運良く金賞を頂きました。大賞は文化服装学院生の女子でした。発表会は帝国劇場で行わ

れ、ナレイションが、女優の野際陽子さんでした。その時は感動も喜びも感じて居る余裕もない有様でした。今振り返絵つて、喜びをかみしめて居ります。この機会にヨーロッパに研修にと洋装社から進められ、洋装社の案内で行くことになりました。その折にイギリス、フランス、イタリアと技術を学びながらこの機会をうる事ができたのです

ヨーロッパは初めての旅で、このコロッセオの風景を目のあたりに見る事ができたのです。イタリアに当時紳士服のデザイナーで有名なアンジイロ・リトリコさんと云う方が居りました。この方は、アイゼンハワーや、ケネディーの服を造つて名を上げた人です。私はリトリコさんを訪ね、フロワショールを見て頂き感動しつつ、今も重なる思いが伝わつて来ました。

コロッセオ円形闘技場は約二千年の歴史を刻んできたローマの大遺跡の一つです。そ

の間、大損害を蒙つてきていますが、その規模と風格は雄大でありローマの賢明な性格を表わしています。そして当時のローマ人のすぐれた建築技術を遺憾なく保存してきました。

中心軸百五十六米、円周五百二十七米の楕円形闘技場は、灰華凝灰石及び煉瓦で造られています。外部の壁は高さ五十米、四階建て三階までは各階の順序に従つて引形門とドリコ式、イオニコ式半円柱を持つていています。

闘技場へは四つの主要な入口から入ります。番号付きに八十の弓形門がありますが、八十番目のは観客を上層階へ導いて行きます。その門は皇帝やその随員、政治的、軍事的貴族などが着席するなど、闘技の演じられる様子は、正に現実に立つて当時のコロッセオでの野獣との戦いを想像するに余りあり満足の極みでした。

平成二十六年

五月二十日

印刷

五月二十三日

発行

昭和経済

第五号

編集人  
兼発行人  
佐々木 誠吾

印刷所

日本印刷株式会社

発行所  
公益社法  
事務局  
〒104-0016 東京都中央区八重洲二丁目一ノ一

TEL(六八二〇)六〇〇〇番  
FAX(三一七一)三一〇四番

e-mail:info@showa-ecor.jp  
<http://www.showa-ecor.jp/>

月刊誌掲載者・昭和経済 論文（敬称略）

昭和五十三年（平成二十六年五月）

原田正二 大正大学教授

豊田雅孝

当会顧問

大内義一 早稲田大学名誉教授（巻頭隨筆）  
荻原伯永

安井謙也

第一勵業銀行産業調査部長  
当会顧問

牛場信彦

外務省顧問

宝生あやこ

劇団手織座

広瀬嘉夫

NHK解説委員

山本幸助

通産省産業政策局長  
産業資産課長

安井謙

参議院議長

山田勝久

通産省商政策局国際経済部長  
当会理事

加藤寛

慶應義塾大学教授

岡松壯三

通産省電子政策課長  
当会理事

豊原兼一

NHK解説委員

村山祐太郎

鈴木金属工業㈱会長  
当会理事

斎藤栄三郎

参議院議員

堀江忠男

早稲田大学名誉教授  
当会理事

岡村和夫

NHK解説委員

糸川英夫

櫻桂川精螺製作所 社長  
組織工学研究所所長

石井義昌

通産省産業政策局長

宮本四郎

當会顧問 自民党最高顧問

豊田雅孝

（社）日本中小企業団体連盟  
前参議院議長 自民党顧問

安井謙

寺島祥五郎 画家

大来佐武郎

対外経済関係 政府代表

豊田雅孝

元読売新聞政治部次長  
元税務大学教官 税理士

藤原弘達

政治評論家

竹下登

大蔵大臣

堺谷太一

作家

福田赳夫

衆議院議員

齊藤榮三郎	商學博士 法學博士 文學博士	水谷研治 東海綜合研究所 理事長
	參議院議員	バツラフ・ハベル チエコ大統領
河野洋平	衆議院議員	平野憲一郎 日本經濟新聞 マニラ市局長
前川春雄	前 日本銀行總裁	吉田和男 京都大學教授
黒田眞	通商產業省 通商政策局長	石川忠雄 慶應義塾大學名譽教授 學長
堀江忠男	大月短期大學學長	中山素平 日本興業銀行 特別顧問
水谷研治	東海銀行常務取締役 調査部長	中曾根康弘 元首相
鈴木俊一	東京都知事	北岡伸一 立教大學教授
田村次朗	米國企業公共政策研究所 所長	島田晴雄 慶應義塾大學教授
日良浩一	東京國際大學教授	吉田和男 京都大學教授
行天豊雄	東京銀行會長	塙野谷祐一 一橋大學名譽教授
吉川洋	東京大學教授	宮沢喜一 元 首相
竹中平蔵	慶應義塾大學教授	NHK解說委員
加藤寛	慶應義塾大學教授	東京大學教授
原田和明	三和綜合研究所 理事長	石井明 千葉商科大學長
鶴武彦	東京大學教授	加藤寛 政府稅制調查會會長
大山昊人	東京國際大學教授	伊藤裕章 朝日新聞ワシントン特派員
元 N.H.K.解說委員	東京大學教授	小宮隆太郎 東京大學名譽教授
企業コンサルタント	青山學院大學教授	井浦康之

島田晴雄	慶應義塾大学教授	ランコ岩本 ランコ・インター・ナショナル代表
樋口廣太郎	アサヒビール会長	ジェームス・D・ウォルフエルソン
奥野正寛	東京大学教授	世界銀行総裁
橋本大二郎	高知県知事	山口光恒
福川伸次	電通総研研究所所長	慶應義塾大学教授
鈴村興太郎	一橋大学経済研究所教授	岡崎久彦 元駐米公使 駐タイ公使
清水啓典	一橋大学教授	ポール・サミュエルソン 経済学者
高橋伸彰	立命館大学教授	大野健一 政策研究大学院大学教授
中谷巖	一橋大学教授	佐々木和男 サウディ石油化学㈱社長
金大中	韓国大統領	ドナルド・ラムズフェルド 米国防長官
佐和隆光	京都大学教授	イアン・ジョンソン 世界銀行副総裁
茅陽一	慶應義塾大学院教授	竹森俊平 慶應義塾大学教授
吉田和男	京都大学教授	山本清治 経済評論家
榊佳之	東京大学 医科学研究所 大学院教授	朱建榮 東洋大学
高橋伸彰	立命館大学教授	アレクサンドル・パノフ 駐日ロシア大使
月尾嘉男	東京大学教授	林光夫 ナショナル日系博物館ヘリテージセンター 理事(前理事長) 日系ブレース基金理事
北岡伸一	東京大学教授	ハワード・H・ベーカー 駐日米大使
石原慎太郎	東京都知事	山本清治 経済評論家

スティーブン・ゴマソール 駐日英國大使	佐藤隆三	ニューヨーク大学名誉教授
山口義一 立教大學經濟學部教授	東京大學客員教授	
公文俊平 多摩大學情報社會學研究所所長	曾根泰教	
伊藤元重 東京大學教授	平野雅章	
アルビン&ハイディ・トフラー	早稻田大學教授	
中曾根康弘 元首相	若田部昌澄	
ハワード・H・ベーカー 前 駐日米大使	大西隆	慶應義塾大學教授
竹森俊平 慶應義塾大學教授	浜田純一	東京大學教授
岡部直明 日本經濟新聞 論說主幹	中西寛	東京大學總長
加藤寛 千葉商科大學學長	高木新二郎	京都大學教授
山口光恒 帝京大學教授	諸富徹	前 産業再生機構委員長
斎藤惇 産業再生機構 前 社長	入江昭	京都大學准大學教授
渡辺智之 一橋大學教授	林良造	ハーバード大學名譽教授
土屋堅二 お茶の水女子大學教授（哲學）	クリスティーナ・アーマージャン	一橋大學教授
山崎正和 中央教育審議會 会長	伊藤元重	東京大學教授
福江等 前 ナザレン神學大學學長	今井賢一	スタンフォード大學
大田弘子 経済財政担当相	井深記念塾ユーライ	名譽シニアフェロー

吉川弘之	東京大学 元学長	深尾京司	一橋大学教授
池尾和人	慶應義塾大学教授	山本 熱	慶應義塾大学准教授
細田衛士	慶應義塾大学教授	小黒 一正	一橋大学准教授
林 良嗣	名古屋大学教授	吉川弘之	東京大学 元学長
土居丈朗	慶應義塾大学教授	大村敬一	早稻田大学教授
脇坂 明	學習院大学教授	庄司克宏	慶應義塾大学教授
関 满博	一橋大学教授	ジム・フレアティ	カナダ財務相
古谷 浩一	朝日新聞記者	伊藤元重	東京大学教授
御厨 貴	東京大学教授	清家 篤	日本私立大学連盟会長
田中明彦	東京大学教授	藤原帰一	慶應義塾長
西垣 通	東京大学大学院情報学環教授	緒方貞子	東京大学教授
山内昌之	東京大学教授	田中素香	国際協力機構（JICA）理事長
高安秀樹	明治大学客員教授	申 珙秀	中央大学教授
浜田宏一	エール大学教授	加藤弘之	駐日韓国大使
若宮啓文	朝日新聞本社主筆	新宅純二郎	神戸大学教授
植田和弘	京都大学教授	岡部直明	東京大学准教授
松本 紘	京都大学總長	若宮啓文	日本経済新聞客員コラムニスト
大西 隆	東京大学教授	中沢克二	朝日新聞主筆
山中季広	朝日新聞ニューヨーク支局長	日本経済新聞社 中國総局長	

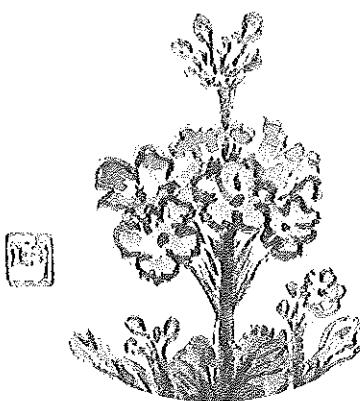
猪木武徳	青山学院大学 特任教授	有田 哲文	朝日新聞編集委員
長山浩章	京都大学教授	柴田 直治	朝日新聞国際報道部
石川城太	一橋大学教授	竹森 俊平	慶應大学教授
鹿野嘉昭	同志社大学教授	磯田 道史	静岡文化芸術大学准教授
岡部直明	日本経済新聞客員コラムニスト	橘川 武郎	一橋大学教授
篠崎彰彦	九州大学教授	伊藤 元重	東京大学教授
翟 林瑜	大阪市立大学教授	山内 昌之	明治大学 特任教授
横山 彰	中央大学教授	白石 隆	政策研究大学院学長
小林慶一郎	一橋大学教授	土屋 英夫	日本経済新聞本社コラムニスト
原 真人	朝日新聞編集委員	戸田 悅造	懸賞論文 優秀賞
若宮啓文	朝日新聞本社主筆	青山 慶二	早稲田大学教授
小林慶一郎	一橋大学教授	瀬口 清之	ギヤングローバル戦略研究所研究主幹
須藤 繁	帝京平成大学教授	今井 賢一	スタンフォード大学名誉シニアフェロー
翁 邦雄	京都大学教授	田中 伸男	日本エネルギー経済研究所特別顧問
下斗米伸夫	法政大学教授	宮本 雄一	宮本アジア研究所代表、外務省顧問
吉川 洋	東京大学教授	菅原 宅	東京大学先端科学技術研センター准教授
渡辺 博史	国際協力銀行副総裁・元財務官	白石 隆	政策研究大学院学長
澤田 康幸	東京大学教授	野中郁次郎	一橋大学名誉教授
北岡 伸一	国際大学学長	矢作 弘	龍谷大学教授

有吉 章	一橋大学教授	木元教子	評論家
御厨 貴	東京大学先端技術研究センター教授	岡松壯三郎	通産省電子政策課長
伊藤 邦雄	一橋大学教授	稻川泰弘	通産産業省政策局
大村 敬一	早稲田大学教授	山本幸助	商務サービス産業室長
御厨 貴	放送大学教授	岡松壯三郎	政治評論家
山内 昌之	明治大学特任教授	山田勝之	通産省國際政治部長
北岡 伸一	国際大学学長	鈴木幸夫	テレビ東京解説委員長
堺屋太一	作家	山室英男	NHK解説委員長
栗栖弘臣	統合幕僚長	佐野忠克	通産省宇宙産業室長
加藤寛	慶應義塾大学教授	河野洋平	衆議院議員
糸川広洋	組織工学研究所 所長	寺島祥五郎	当会理事
大来佐武郎	対外経済担当大臣	長富祐一郎	大蔵省官房審議官
斎藤栄三郎	科学技術省長官	中沢忠義	中小企業庁長官
柿沢弘治	衆議院議員	吉國隆	農林水産省大臣官房企画室長
浜田幸一	衆議院議員	天谷直弘	(財) 産業研究所 顧問 元 通産省審議官

黒田眞	通商産業省 通商政策局長	松本和男	経済評論家
上野明	野村総合研究所 主任研究員	大山昊人	NHK解説委員
前川春雄	前日本銀行總裁	鈴木淑夫	野村総合研究所副理事長
大山昊人	NHK解説委員	元 日本銀行理事	
野坂昭如	作家	松永信雄	外務省顧問 前 駐米大使
水野哲	通産省産業政策局	霍見芳浩	ニューヨーク市立大学大学院教授
堀江忠男	産業政策局総務課長	村松暎	慶應義塾大学名誉教授
梅沢節男	早稲田大学名誉教授	杏林大学教授	
田川誠一	進歩党代表 衆議院議員	飯田健一	NHK解説委員
森 亘	東京大学総長	L・A・チジヨーフ	駐日ロシア連邦大使
藤井康男	龍角散社長	大山昊人	元NHK解説委員
水城武彦	NHK解説委員	東京国際大学教授	
大山昊人	NHK解説委員	小浜維人	NHK解説委員長
斎藤栄三郎	国務大臣 科学技術庁長官	青木匡光	メディエーター(人間接着業)
内田 満	早稲田大学教授	紺谷典子	(財)日本証券経済研究所
岡松壮三郎	通商産業省生活産業局長	原田和明	三和総合研究所
水谷研治	東海銀行常務取締役調査部長	和田俊	朝日新聞編集委員
有馬朗人	東京大学総長		テレビ朝日ニュース・ステーション

大山晃人	元 N H K 解説委員	早坂茂三	田中角栄 元 秘書
木村時夫	早稲田大学名誉教授	山田伸二	N H K 解説委員
井浦康之	井浦コミュニケーションセンター 当会理事	中村敦夫	参議院議員
水谷研治	東海総合研究所 理事長	原田和明	三和総合研究所特別顧問
目良浩一	東京国際大学教授	西澤宏繁	東京都民銀行頭取
山下亀次郎	筑波大学 臨床医学系内科教授	亀井静香	衆議院議員
斎藤精一郎	筑波大学付属病院副院长	山田伸二	N H K 解説委員
岩國哲人	立教大学教授	武者陵司	ドイチエ証券チーフストラジット
浅井隆	前 出雲市長	川崎真一郎	第一生命経済研究所 主任研究員
岩田規久男	経済ジャーナリスト	金子一義	国務大臣
久保亘	上智大学教授	山口義行	立教大学教授
大山晃人	前 大蔵大臣	山田伸二	N H K 解説主幹
山田伸二	東京国際大学教授	斎藤精一郎	千葉商科大学教授
吉田春樹	N H K 解説委員	伊藤 達也	元 金融担当大臣
副島隆彦	和光経済研究所理事長	高木新二郎	(株)産業再生機構 産業再生委員長
ポールシェアード	経済評論家	斎藤精一郎	千葉商科大学大学院教授
(欄)日本株運用ヘッド兼ストラジスト		(欄)NTTデータ経営研究所所長	
佐々木和男	社会経済学者 工コノミスト		
	学校法人静岡理工科大学理事長		

元 三菱商事側本部長	サウディ石油化学側 前 社長
三原 淳	経済評論家 株式評論家
石川 一洋	NHK解説委員
山田 伸二	元 モスクワ支局長
中谷 元	元 防衛庁長官 衆議院議員
林良 造	東京大学教授
渡辺 喜美	元 経済産業省 経済産業政策局長
山崎 淑行	みんなの党代表 衆議院議員
中谷 嶽	NHK科学文化部 記者
ロバート・フェルドマン	元 一橋大学教授
月尾 嘉男	経済評論家・エコノミスト
山田 伸二	東京大学名誉教授
山内 進	NHK解説主幹
板垣 一橋大学学長	
山内 伸二	
板垣 信幸	
熊野 英生	NHK解説主幹
第一生命経済研究所首席エコノミスト	



作品 関根常雄



写真家 杉村 浩 制作

山黒岡山山長梅鈴前牛野中岡加堺天河高糸小藤大安斎士本稻吉井岩福  
室田松本田富沢木川場坂沢村藤屋谷野木川江原平井藤屋田葉野新  
莊祐英三幸勝一餚俊春信昭忠和太直洋二英利弘正三秀俊三喜慶  
男真郎助久郎男一雄彦如義夫寛一弘平郎夫得達芳謙郎清郎三喜慶  
大寒夫

ノ富大經本經日ソ富大  
藏織本學田本二士大臣  
藏織本學田本二士大臣  
工經治議濟濟技銀銀  
企K技學濟歲技銀銀  
省術護研新評院術評評  
業解大研行行總  
序說學府究闡大府研  
顧所社論議論社論理  
長委教長長所顧頭大臣  
總顧長委教長長所顧頭大臣  
長官長長官官事裁問家官員授家問官士長問家臣長官家長家事長取

講演会の主な講師  
(講演時役職)  
(敬称略)

伊金山龟西早島副山久岩斎目原和小霍松鈴有大水森堀水藤井大  
（通）伊藤子口井澤坂田島田保国藤良田田浜見永木馬來谷江城井浦山  
佐精佐  
（財務省担当官）達一義静宏茂晴隆伸哲一浩和維芳信淑朗武研忠武康康景人  
也義香繁三雄彦郎一明俊浩夫夫人人郎治亘男彦雄之

昭和經濟 26-4・5月号

昭和25年6月24日 第3種郵便物認可（毎月1回1日発行）  
昭和25年10月19日 日本国鉄道特別標準認証誌第1797号

**Showa Economic Study Association**  
**企業家・経営者団体**

公益社団法人 **昭和経済会**

事務局 〒104-0028 東京都中央区八重洲2-11-2

TEL 6820-6000・3271-8846 FAX 3271-3104

URL <http://www.showa-ec.or.jp/>

e-mail [info@showa-ec.or.jp](mailto:info@showa-ec.or.jp)